



銀貨下落

全



銀貨下落

立 嘉度譯

十

114  
A3556



大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

近時銀貨ノ下落非常タルニ由テ英國ニ於テハ  
喋々タル一論題トナシ何トナシハ此下落ニ  
從テ印度ノ為替モ亦大ニ下落シ其所ニ貯藏金  
ヲ有スルモノ東洋ニ通商スル商賈及ヒ其他ノ  
者ノ為メニ意外ノ損失ヲ起セハナリ而シテ其  
云々トシテ喚呼スル所ハ其下落ノ原因何ニ因  
テ然ルカ全ク一時ノ下落ナルヘキ乎或ハ久シ

飛翠録

大藏省

カルヘキ乎而ノ何レノ時ニ至テ止ルカ且如何  
ナル方法ヲ以テ之レヲ停止シ得ヘキ哉ノ問題  
是ナリ

蓋シ此問題タルヤ今日英國ニ於テ喋々ル所  
タリト雖モ已ニ他國ニ在テハ陳腐<sup>ニ</sup>屬セリ抑  
モ金銀二種ノ本位ニ就テハ各國經濟家ノ大ニ  
議論アリシ所ニシテ其間一二ノ經濟家ノ論鋒  
ニ壓倒セラレ其異特ノ說ニ依テ各國政府ノ内  
日耳曼政府ニ於テハ金ヲ以テ本位ト定メ銀貨  
ヲ廢止セリ爾來金貨ノ本位ヲ保存セシカ為メ

3

ニ緊要ナル法律ヲ設ケ嚴ニ之レヲ履行セシメ  
タリ是ニ於テヤ歐羅巴ノ市場銀ハ無用ノモノ  
トナリタリ故ニ其ノ歐羅巴ニ在ル所ノ餘剩高  
ト年々新タニ出產スル所ノ銀量トテ合スル時  
ハ東邦諸國ニ於テ要需スル所ヨリモ尚ホ超過  
スル高巨額ニシテ銀ノ下落スルモ亦何レノ点  
ニ達スヘキヤ今ノ取テ臆測シ能ハサルニ  
シテ猶ホ之レヨリ甚シキモノハ銀ニ代フルニ  
何等ノモノヲ以テ貨幣トナスヘキ乎能ク人々  
先見シ能ハサル所ナリ抑モ此害タルヤ獨リ英

人ノ専ラ大關係ヲ有スル印度地方ノミニ止マ  
 ラスシテ尚印度ト同形状ナル他ノ數國ニ波及  
 スヘケン果シテ印度及ヒ他ノ數國ニ關涉スル  
 時ハ又一一般世界ノ貿易ニ影響ヲ起ス一頭然タ  
 リ若シコレヲ以テ我カ印度及ヒ宇内ノ公益ニ  
 關スルト見ナス時ハ又我カ自國ノ幸福ニ關ス  
 ル所大ナレハ我輩互シク斯ニ意ヲ注メサルハ  
 可ラス

若シ英國ニ於テ是迄印度地方ノ事務ヲシテ不  
 問ニ措カシメサレハ今日印度ヨリ我門戸ニ迫

ルニ先ツテ豫メ之レヲ救フノ方策アリシナル  
 ハシ何トナレハ英國ハ千八百十六年以降金貨  
 ヲ以テ本位ト定メ帝ニ其功績ヲ以テ自誇ルノ  
 ミナラス他國ニ於テモ亦漸々此法ニ倣フハ英  
 國ノ他ニ卓越シテ其設置宜シキヲ得タルノ證  
 ト斯ク想像スレハナリ而シテ此想像ニ就テノ  
 實際ノ過誤ヲ明ニ為サ、ルヘカラス然レモ  
 今日ノ勢亦之レヲ如何トモスルナカランノミ  
 近年此書ノ著者ノ如キ一ノ推究者アリテ今日  
 已ニ起リタル事實ヲ一兩年前ニ先見シテ之レ

ヲ書ニ筆セリ當時此人ヲ以テ異教ノ信者トシテ朝リタルニ今日ハ種々異特ノ問題ヲシテ俄カニ我カ門戸ニ通ラシメリ因テ其疑問者ノ問題ニ應シ之レニ答辯セントス然レモ此疑問ハ異特ノ例ヲ掲ケ章一ナル一ノ條理ニ憶説ヲ附會シテ之ヲ難問シ而シテ該事ハ其條理中數條ノ理ニ由テ結成ナルノ事實アルヲ忘棄シ復々拱テ問ハサルモノ、如シ蓋シ此數條ノ理由ヲ以テ古ク世界萬國ニ関スルモノトナス時ハ則チ亦以テ通用貨幣一般ノ問題トシテ銀行紙幣金

銀貨、振出し切手及ヒ其他ノ紙幣類ニ論及セサルヘカラス因テ今此著者ハ其順序ヲ追ヒ論意ヲシテ貫徹セシムルニ最適宜ナル經驗ニ就テ教示辨解スルノ方法ヲ以テ之ヲ説明セントス之レカ為ノニ左ニ陳述スル所ノ論説ヲ區分シテ三章トス

第一章

正金ノ通用、萬國交通上ノ富有高及ヒ萬國交通上ノ負債高ノ事

第二章

金銀估價ノ要論及ヒ其衰微シタル現況ノ事

第三章

金銀價位ヲシテ之レカ平均ヲ得

セシムル策ノ事

此第一章ノ論說ハ印度為替及ヒ銀貨下落ノ事ニ就テ直接ノ關係ヲ有セサルニ似タリト虫氏次章ニ論スルヲ如キ主点ニ至テハ最肝要ナル關係アリ加之我輩英國ニアリテ自國貨幣ノ制ヲ熟知シ之レヲ以テ自ラ俵ル所ナレハ敢テ此表目中ニ述フル論說ヲシテ敢テ無益ナサシムルニ忍ヒス而シテ之レカ為看官ヲシテ其論者ヲ了解セシムヘキ一二ノ情實ヲ前論ニ掲出ス

ルノ便宜ヲ求メ尋テ之レニ由テ一層困難ナル問題ヲ辨明スルニ端緒トナスヲ得ヘシ各國ノ内一二ノ國々ハ正金通用ニ戻ラサルヲ得サル事ハ避クモカラサル所一要件ニシテ金銀估價ノ方今ノ形狀ニ及フモ亦此一ノ原因ヲラサルヲ得蓋シ此一般ノ事件ニ關シテ英國ノ利害ヲ表明シタカ為メ有益ナル說ヲ聚合シテ第一ニ此一二ノ原因ヲ辨明スルヲ以テ最モ可トス抑金銀估價ノ論ニ涉リ第一ニ其萬國ノ景狀及ヒ次ニ印度英國ニ關スル特別ノ要

点ヲ考察スルニ銀通用ノ國々ナル印度及  
他各國ノ幸福ヲシテ保存セシメ且現今世界ノ  
貿易及ヒ開化上ニ就テ俄然且制止スヘカラサ  
ル変動ヲ救フノ良法ヲ設ケサルヘカラサ  
ナリ

銀貨下落

第一章

正金ノ通用萬國交通上ノ富有高  
及ヒ萬國交通上ノ負債高ノ事

既ニ緒言ニ述タルカ如ク豫メ表目ノ数件ヲ  
論スルヲ以テ順序トハ何トナレハ此説ハ銀ノ  
估價及ヒ其運目ノ概旨ニ關係シテ密着スルノ  
ミナラス一二ノ点ヲ明解スルノ便ヲ與ヘ條  
理中数條ノ理由ヲ解クニ當リ此書ノ條目ニ載  
セタル数件ノ論題ヲシテ一層辨明ナラシムル  
為メニ要用ナル端緒タレハナリ



正金ノ通用ヲ停止シ及ヒ之ヨリ萬國理財ニ  
 損失(此名稱ハ後章ニ至テ一層明瞭ナルハシ)ヲ  
 生スルノ原因ハ戦争内亂一般社會ノ存亡及ヒ  
 物産ノ衰微等ニテ又常ニ國家會計事務ノ管  
 理ヲ註設ル等則チ是レナリ然レモ此事ニ就テノ  
 辨論ハ他事ニ涉ルヲ以テ茲ニ贅言スルヲ要セ  
 ス又第十八百紀年間ニ佛國ニ發行セシ紙幣  
 或ハ合衆國ニ於テ其獨立ノ戦争中發行セシ紙  
 幣ノ事ヲ茲ニ掲グルモ亦敢テ欲セサルナリ又  
 土耳其格ハイチ及ヒ亞米利加州ノ内旧列邦ノ國

々其他當十九百紀年間他ノ國々ニ於テ屢正金  
 引替ヲ停止セシ事由ハ多少ノ淺見不策ニ涉ル  
 ヲ以テ亦引證トスルニ足ラス而シテ余カ目途  
 ハ有名ナル國々ニ於テ多少ノ籌アリテ正金  
 引替ヲ停止セシ事情ノ原因ヨリ之ヲ明解セ  
 ント欲スルノ是レ現時字内金銀估價ノ論中  
 最肝要ナル關係ニ在スレハナリ  
 當百紀ノ始ノヨリ正金引替停止ヲ順序廻復シ  
 改良ノ法ヲ設ケタル著シキ例ハ英國ヲ以テ第  
 一トス既ニ千七百九十五年ニ至テ金貨ハ百分

ノ五ノ歩合ニ下レリ然レ氏千七百九十七年中  
 現ニ英國銀行ニ於テ正金拂ヲ停止セリ曾テツ  
 一クスヒストリーオフプロイシス 價值中ニ載  
 スル銀行紙幣ヲ以テ金貸ヲ買入ル、價左ノ如  
 シ

千七百九十七年 本位一オンス三ポイント十七シ、  
 同價  
 千八百 年 同 四ポイント五シ、  
 歩合 百分ノ九  
 千八百二年 同 四回四、  
 同 百分ノ八  
 千八百四年 同 四回  
 同 百分ノ三

千八百九年 同 四回 十回、  
 同 百分ノ十三半  
 千八百十一年 同 四回 十三回、六回  
 同 百分ノ二十  
 同年 同 四、十七、六、  
 同 百分ノ二十五  
 千八百十二年 同 四、十五、  
 同 百分ノ二十三  
 千八百十四年 同 五、八、  
 同 百分ノ四十  
 同年 同 四、十一、  
 同 百分ノ十五半  
 千八百十五年ニ於テヨルバ島ヨリナホレオシ  
 歸國及ヒウラートルルノ戦争ノ際左ノ如シ  
 歩合 百分ノ十四半  
 一月一日 歩合 百分ノ十一 二月十日  
 歩合 百分ノ十四半  
 三月二十一日 同 百分ノ二十零三 同月三十一日  
 同 百分ノ三十七半

四月二十日	百分ノ三十六	五月十九日	百分ノ三十五
六月二十日	百分ノ三十三半	同月三十日	百分ノ二十八半
七月四日	百分ノ二十三	同月十一日	百分ノ十九半
八月四日	百分ノ二十半	九月五日	百分ノ十四半
九月二十日	百分ノ十半	十月十日	百分ノ九
十月十三日	百分ノ六半	十一月十日	百分ノ七半
十二月十五日	百分ノ五半		

其後千八百十六年ヨリ十九年ニ至ルノ間四季ノ價位左ノ如シ

千八百十六年

一月五日	百分ノ四	四月十九日	百分ノ三
七月九日	百分ノ二半	十月四日	百分ノ四分ノ三
一月十七日	百分ノ二	五月二十日	百分ノ四分ノ三
八月十九日	百分ノ四	十一月七日	百分ノ四分ノ一
二月十日	百分ノ六	四月二十四日	百分ノ五
十一月二十七日	百分ノ六半	十二月十五日	百分ノ四
一月八日	百分ノ六半	四月二十日	百分ノ五半

千八百十七年

千八百十八年

千八百十九年

七月九日

同 百分ノ六分一 八月二十日

同 價

是ニ於テ一ノ疑團ダレハシ蓋シ歐羅巴大陸已  
 ニ平靜ニシテ千八百十六年ニ至テハ其歩合僅  
 カニ百分ノ一ノ四分ノ三ニ降りタリシニ何ソ  
 千八百十九年迄再ヒ騰貴シ今年中猶百分ノ六  
 半ノ歩合アリシヤト然レモ千八百十六年ニ溯  
 テ英國ハ金貨ヲ本位ニ定メ銀貨ノ本位ヲ廢止  
 セシ事ヲ想起セサルヘカラス乃チ要用トセル  
 金ヲ累積スルノ際若干ノ歲月ヲ費セシヲ以テ  
 ナリ但シ此事ニ就テハ再ヒ後章ニ説明スル所

アルハシ

英國ニ於テ正金通用ニ回復セシ後他ノ國々モ  
 亦漸々正金通用ニ復セリ然レモ其回復ノ運速  
 カナラサリシナリ蓋シ此事ノ詳論ニ或ハ千八  
 百三十七年中合衆國ニ於テ起リタル紙幣下落  
 紛議及シ其他之レニ類似スル件々ヲ爰ニ掲ク  
 ルハ無用ニ屬スヘシ概シテ千八百十九年ヨリ  
 千八百四十八年迄ニ我カ市場ニ於テ估價アル  
 各國ノ為替ハ正金ノ同價ニ復セリ其間金銀ノ  
 貯藏僅カニシテ利便タリシヨリモ銀行紙幣ノ

發行過當ナル國アリシト云々萬國貿易ノ權衡  
 上、形狀ニ因テ止ムヲ得ス生スル歩合ヲ除クノ  
 外現ニ其正金同價格ヨリ差ヲ生セサリシナリ  
 千八百四十八年ニ於テ再ヒ歐羅巴州中ニ騷亂  
 起リ同時ニカールスルニヤノ金山ヲ發見シ尋テ  
 千八百五十二年澳太利ノ金山ヲ開坑セリ當時  
 以降左ノ國々即チ英吉利日耳曼和蘭台耳義瑞  
 西、丁抹、瑞典、那威國ハ正金ト同シキ估價ヲ保存  
 セリ

佛蘭西ハ一時(千八百七十二年)名ノミ同價ヲ失

ヒタレハ其實今日ハ從前ヨリモ堅固ナリ然レ  
 氏左ノ國々即チ澳地利魯西亞伊多利及ヒ合衆  
 國ハ紙幣ヲ過分ニ發行セシカ故ニ正金通用ヲ  
 停止セサルヲ得スシテ今日尚未タ之レヲ回復  
 スルヲ得サルナリ

澳地利ハ千八百四十八年ニ魯西亞ハ千八百五  
 十四年ニ合衆國ハ千八百六十二年ニ伊多利ハ  
 千八百六十六年ニ其紙幣ト正金トノ間ニ差ヲ  
 生セリ之レ其國々ニ一大事件ノ起リタルヲ徴  
 スルニ足レリ

左ニ記載スル澳地利魯西亞及ヒ伊多利國紙幣  
 價格ノ如キハ前書ノ國々ニ於テ實際取引スル  
 歩合ヲ掲ケタルニアラス何トナレハ金貨ハ固  
 ニ僅少ニシテ殊ニ最初ノニケ國ハ銀貨ヲ以テ  
 計算ヲ立ツレハ夫リ故ニロントニ於テ取引  
 上到着三ヶ月為替ノ相場ヲ出セルモノナリ蓋  
 シ其為替ノ尋常為替及ヒ利銀其規定ヨリ昇リ  
 タルハ則テ現實正金トノ差ヲ明示スルモノニ  
 シテ最モ確實ト謂フヘシ

澳地利魯西亞伊多利及ヒ合衆國ニ於テ正  
 金通用停止ヨリ起リタル為替ノ差  
但ロント  
 相場

毎年四季ノ歩合  
但百分  
 割

年紀	澳地利	魯西亞	伊多利	合衆國
千八百四十八年	同價也			
千八百四十九年	一六五			
千八百五十年	九			
千八百五十一年	一八六			
千八百五十二年	九			
千八百五十三年	一七二			
千八百五十四年	一八一			
千八百五十五年	二一五			
千八百五十六年	二八二			
千八百五十七年	一七〇			
千八百五十八年	一〇五			

飛  
翠  
景

千八百六十二年	千八百七十一年	千八百七十年	千八百六十九年	千八百六十八年	千八百六十七年	千八百六十六年	千八百六十五年	千八百六十四年	千八百六十三年
一四九	二二二	二二二	一八二	一八二	三〇三	一三四	一三六	六一五	一三一
一一九	三二七	二九九	二二三	一二一	二五二	二七二	九六六	一三一	九二〇
一七一	二七三	二九九	二一九	一六一	二二二	二七四	二五二	一四一	七五五
一七九	三二二	三〇四	二二七	一七一	二五二	三二二	二四二	一九二	四一七
一九八	二七四	二五三	二九三	一六一	二七五	同價	同價	二五	
一七九	二六六	二七七	三四三	二一九	九七三	九七三	六		
一三八	一〇七	二〇五	三一四	四二四	三九三	四〇二	一〇六	六〇	五五七
一四二	一三一	二三一	三〇三	四六三	三七四	二七五	一〇六	一〇一	二五五
一四一	一五〇	一六一	二〇二	三三五	四六三	四六六	三七四	一五八	二五二

番  
誌

千八百六十二年	千八百七十一年	千八百七十年	千八百六十九年	千八百六十八年	千八百六十七年	千八百六十六年	千八百六十五年	千八百六十四年	千八百六十三年
三八三	四九五	三〇二	一〇一	同價	同價	六一	一八	九三	一七
二五九	三八三	二八三	三九二	一三	同	二一	一八	九一	五九
一二一	一三一	七一〇	二三五	八七	六一	一九	四四	同價	
一〇七	一四一	七九	一三一	七六	三四	同價	五六	一四	
								四一	
四二									
二一五									
三二									

痛

千八百 七十三年	八 八 一一 一一 三 一 九 一 九 二
千八百 七十四年	九 一 二 九 八 七 六 一 五 一 六 一 五
千八百 七十五年	九 九 一 一 二 一 五 一 六 二 一 二 一 九 八 六 七 一 二 一 六 一 七 一 三

此表ニ因テ之レヲ見レハ客歲ノ末迄ハ其歩合大ニ減少セシト雖モ總テ四ヶ國トモ之レヲ英國ニ比較スレハ結局其回復ノ運太ク遲緩ナリ之レニ加フルニ英國ハ自國ニ於テ巨額ノ負債ヲ募リタレモ皆其自國ノ富有ノ内ヨリ之レヲ募レド然ルニ前書四ヶ國ハ他國ノ富ヲ仰ヒテ負債ヲ募リ巨萬ノ國債證書ヲ外國人ニ附與セ

リ而シテ其國家ニ在ル正金ヲ悉ク費消セシノミナラズ止ムヲ得ス萬國ニ就テ金融ヲ仰クニ至レリ故ニ現今夫ノ國々ニ於テハ紙幣多クシテ之レヲ正金ト引替サルヘカラス乃チ其國々ハ萬國交通上貧國ト謂ハサルハカラス今日如何ナル方法ヲ以テ内國通用ナル有名無實ノ估價ヲ除キ得ヘキ乎又如何ナル方策ニ依リ萬國負債ヲ償却シ得ヘキ乎此二ツノ害ハ相互ニ関係スル所アリ而シテ之ヲ順次償還スルノ方策ヲ要スルナリ



爰ニ萬國交通上ノ負債ト萬國交通上ノ富有ト  
ヲ比較シテ掲出スルハシ

世界中開化國ト稱スル國々ノ中之レヲ大別シ  
テ二ツト為ス

第一 萬國交通上富有ノ國々 英吉利日耳曼

法蘭西和蘭白耳義瑞西國是レナリ此中

ニ丁抹瑞典ヲ加入スルモ亦敢テ不當ト

謂フヘカラス而シテ此國々ハ即チ貸方

ナリ

第二 萬國交通上負債ノ國々 澳地利魯西亞

伊多利合衆國英國屬地西班牙葡萄牙土

耳格其他南亞米利加中共和政治ノ國々

是レナリ而シテ其國々ハ即チ借方ナリ

左ノ筭額ハ一般比較ノ形状ヲ見ルニ足ルヘシ

萬國負債ノ總額ハ殆ト四十億ポントナリ内

左ノ國々ハ其自國ノ負債ヲ所有スルモノト謂

フヘシ

國名

負債高

英吉利

七億八千五百萬ポント

法蘭西

七億五千萬ポント

日耳曼

一億六千五百萬ポント

和蘭

八千萬ポント

白耳義

三千六百萬ポント

丁抹

千四百萬ポント

總計

十八億三千萬ポント

法蘭西和蘭及ヒ丁抹ノ負債ハ他國ノ市場ニ於テ之レヲ賣買スルト虽モ此國々ハ其實萬國交通上富有ニシテ已ニ法蘭西ノ負債ノ如キハ今日約悉皆其人民中ニ於テ所有セリ而シテ英國及ヒ日耳曼ノ如キハ常ニ内國人ノ手ニアリテ

外國人ノ手ニ屬セサルナリ

然レ氏左ノ國々ハ他國ヨリ借方ト謂フヘシ

國名

負債高

合衆國

四億五千萬ポント

澳地利

三億四千六百萬ポント

魯西亞

二億七千五百萬ポント

伊多利

二億五千百萬ポント

西班牙

二億六千萬ポント

土耳其

二億千五百萬ポント

印度

一億六百萬ポント

埃及土

九千五百萬ポント

墨西哥

七千九百萬ポント

ブラジル

六千八百萬ポント

葡萄牙

六千六百萬ポント

英國屬地

六千三百萬ポント

南亞米利加及其他ノ小國

二億九千五百萬ポント

總計二十五億七千萬ポント

此公債總額ノ内大概ニ他國ノ人民之レヲ所有セリ米利堅公債ノ内合衆國人民ノ所有スルモノモ巨多ナリト雖モ已ニ其半額ハ歐羅巴列中

ニ於テ之レヲ保有セリ而ノ<sup>維</sup>ナ、シント

トトルスボルク等ノ市場ニ於テ其自國ノ負債

ヲ賣買スルト雖モ其國民中ニ所有スル金高ノ

總額ハ六億ノ高ヲ越ヘサルヘシ故ニ姑ク負債

總額ヨリ五億七千萬ポントヲ引去ル時ハ殘額

二十億トナル即チ前書ノ國々ノ他國ニ負債ス

ル所ノ公債高ナリ而シテ此借方ノ國々ハ人民中

其貯藏金トシテ外國ノ公債證書ヲ所有セサル

ノミナラス

却テ其自國ノ公債證書ハ諸外國ニ於テ之レヲ

保有セリ由テ萬國交通上貧國ト謂フヘシ  
之ト反對シテ萬國交通上富有ノ國ハ公債證  
書ノ時相場ヲ現金ニ引直シ十七億ノ金ヲ所有  
セリ内最モ信據スヘキ計算ニ依レハ

英吉利 八億ポント

日耳曼 四億五千萬ポント

法蘭西 四億ポント

和蘭

瑞西 一億ポント

白耳義

總計十七億ポント

是レニ由テ之ヲ觀レハ三國即チ英吉利日耳  
曼及ヒ法蘭西ハ世界中重立タル富有ノ國ニシ  
テ和蘭之レニ次ク加之前書ノ國々ハ外國ノ公  
債證書ヲ所有スルノ外ニ猶外國ノ鉄道建築等  
ニ出セル金アリ而ノ又外國貿易ノ權衡上輸出  
ノ輸入ニ起過スル所ノ益アリ故ニ實際萬國交  
通上ノ富有ハ左ノ如シ

英吉利 十億ヨリ十一億

日耳曼 五億五千萬ヨリ六億

法蘭西

五億ヨリ五億五千萬

法國ハ戦争以前英國ノ次ニ位セリ然レハ戦争後日耳曼ニ拂フヘキ償金ノ為メ法國新公債ト引替ヘニ殆ト二億萬ポントノ金ヲ内地ヨリ出タリ而シテ日耳曼ハ凡一億五千萬ヲ得タリ蓋シ法國ノ回復ノ速ナルト其萬國貿易上年々ノ大利潤トヲ以テ之レヲ見レハ國家再ヒ従前ノ地位ニ復スル亦敢テ數年ヲ經サルヘシ萬國交通上所謂富有トハ萬國負債ノ害ニ及シテ一般ノ富有貿易ノ權衡及ヒ正金通用ヲ有ス

ル肝要ナル事件タリ今英吉利及ヒ合衆國ノ富有ノ結成ニ就テ爰ニ之レカ比較ヲ出スヘシ

英國ノ富

第一土地ノ富即チ物産蕃殖或ハ居住ノ為メニ用ユル地所建物及ヒ不動産

豫算表ニ依レハ英國富有總額ノ内此富獨リ八十億ポントト九十億ポントノ間ニアリテ實ニ巨額ト謂フヘシ而シテ此金額ハ若シ國家貧ニ至リシ時ハ外國ノ金銀貯藏等ニ抵當トシテ之レヲ用ユルヲ得ヘシ然

レ現時萬國ノ富有ニ就テ直接ニ關係ヲ有セサルナリ幸ニ我國土ノ所有ハ他ノ富ヲ以テ能ク之レヲ保護セリ故ニ土地ノ富ハ無限無量ト謂フモ亦可ナリ

第二内國ノ富即チ動産ニシテ學術上及ヒ玩弄ノ物品モ亦此中ニアリ

此物品ノ如キハ多ク國內限りノ要用物ニシテ其<sup>價</sup>値モ亦我カ自國ノ算定ニ係ルトモ猶萬國交通ノ價值ヲ有セリ其他通常ノ諸物品ニ至テハ仮令之レヲ賣捌キ得ハキ

21

モ萬國交通上ノ算計ニ掲載スルキモノニアラス然レモ亦是レ其餘剩ハ若干ノ金トナルナリ故ニ英國中動産ノ總金額モ亦無限無量ト云フモ亦不可ナラス

第三諸工業ノ富即チ鉄道掘割及ヒ其他ノ工業ノ如キモノニシテ内坑山モ算セリ株券或ハ證書ヲ以テ讓渡スヘキ所有物ナリ此金額ハ現今ノ價ニ於テ十二億トス

第四國債 當國ノ國債ハ外國人ニ關係マスシテ國民中甲部ノ人民カ乙部ノ人民ニ負債

ルナレハ敢テ意トスル所無シ然レ其  
 國債ハ一國家ノ普通ニ信義ヲ表スルノ法  
 ニ儼ヒ確實タル約定手形ヲ以テ現在スル  
 以上ハ讓受及ヒ賣買シ得ベキモノナリ故  
 ニ之ヲ以テ七億八千萬ポントノ準備ト見  
 做スヘシ

然レ英國ハ其國內ニ在ル工業ノ富及ヒ  
 全ク外國ノ請求ヲ受ケサル國債ヲ保有ス  
 ルノミナラス又此他ニ第五ノ富アリ

第五萬國交通ノ富即チ海外ニ在ル貸金、鐵道及

2

諸工業ニ就テ外國ニ請求スヘキノ金及ヒ  
 貿易上ノ餘剩金等ニシテ前文ニ掲ケタル  
 カ如ク其金額九十一億ポントアリテ年々  
 ノ入金高四千萬ヨリ五千萬ポントニ及ハ  
 リ蓋シ是レハ巨額ノ準備金ニシテ此貸金  
 ノ存在スルノ間ハ前書富有ノ内臨時ノ不  
 足ヲ補フノミナラス同時ニ流通セサル資  
 本金ノ特別二重ノ備金ト謂フバシ  
 第六現在流通ノ資本金  
 此資本金及ヒ貨幣ハ何時ニテモ随意ニ取

ハス事ヲ得ハシ即チリチャルドセー下氏、  
 製シタル最信任スバキ概算表ニ依レハ銀  
 行、製造所、萬國通商及ヒ卸シ貿易上(但シ小  
 賣商ノ資本及ヒ雜貨ハ土地及ヒ内國ノ富  
 ノ中ニ含有セリ)ニ用ユル國家現在ノ資本  
 金總額ハ九億二千萬トセリ

結局第七ニ貨幣アリ即チ現時(千八百七十六年)  
 ノ有高

一億五百萬ポント 金債  
 千八百萬ポント 銀貨及ヒ銅貨

三千五百萬ポンド 金塊二千萬

ポンドヲ準備トシ  
 發行シタル英國銀行

ノ紙幣

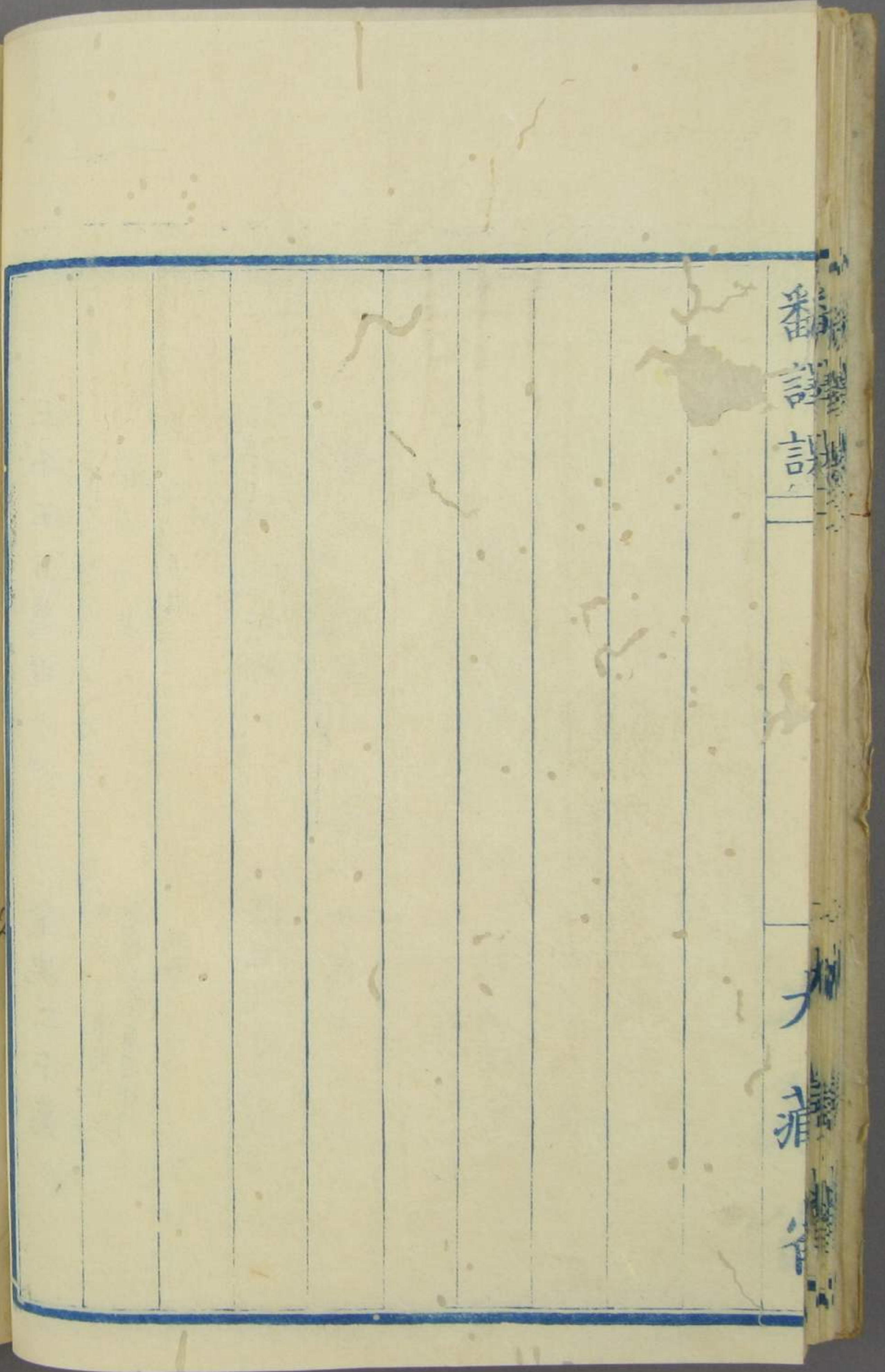
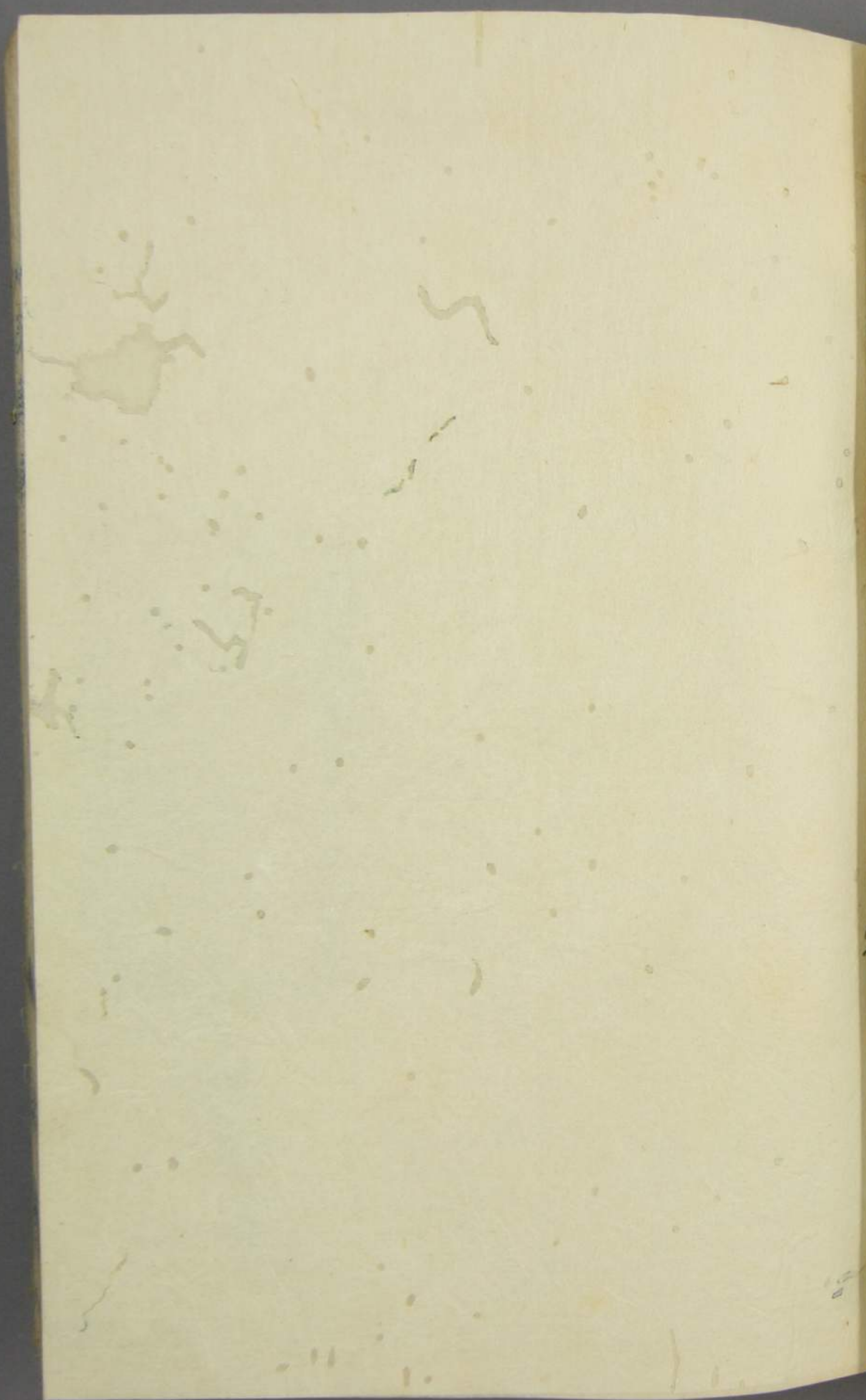
千五百八十萬ポント 内地流通紙幣

總計一億七千三百八十萬ポント

内

一億六千萬ポントハ現在通用スルモ  
 ノニシテ銀行紙幣千八百八十萬ポント  
 ハ未タ流通セサルモノナリ





番  
証  
言

大  
雅  
集

川路寬堂譯

二

今茲ニ又一ノ疑問アリ曰ク以上ニ示ス處ノ志  
億六千載百万ポントスチルリソクノ通用貨幣  
ハ全ク世上ノ資本(即チ萬國準備)及ヒ其外巨万  
ノ豊富ニ對シ如何ナル關係アルヘキ哉又手々  
接交ノ方規并ニ其原由及ヒ正當ノ位置ニ於テ  
如何ナル局場ヲ占ムヘキヤ抑モ其疑ヒヲ解テ  
セント欲スルニ於テハ今英國ニ於ルヲ除クノ  
外ハ之レヲ照査スルヲ能ハサルベシ夫レ通用  
貨幣ハ五各交換ノ方規ニ於テ確實ノ位置ヲ占  
ム。テ。而シテ終ニ勞力ノ價程其他物品ノ價位カ從

属関涉スル所ノモノナレバナリ

人間社會ノ交接ニ関シ(辨用ノ方法或ハ清定ノ

制規カ係ル処ノ故ヲ以テ)交換清計ノ方法ヲニ

途ニ分ツテ如シ

第一 通用貨幣ノ用ヒナク清計スルノ方

第二 通用貨幣ニ依テ清計スルノ方

清計ノ方法ニ関シ其詳細ヲ左ニ明示ス

通用貨幣ヲ用ヒスシテ清計スルノ詳細

理財ノ方術、其他公工業作、  
鉄道、類等ニ於テ

計單、其他銀行ノ業務、一連單  
及ビ清數方ニ依テ

輸出入、萬國貿易等、  
ニ於テ

萬國約單、及ヒ金銀條ノ輸送ニ依テ

内國ノ帳單、賣取、及ヒ物品  
製造ノ業作ニ於テ

内國約單、及ヒ匯單、其他一凡ノ  
銀行業務ニ依テ

大ナル零賣、及ヒ専門業務、  
ニ於テ

銀行者ノ司計業務、並其匯單、  
及ヒ大ナル記牌ニ依テ

金銀銅現貨及ヒ紙幣ノ使用ニ依テ清計ス

ルノ詳細

現金ヲ以テ手々出スル等  
零賣一凡

今通用スル一億六千二百万ポント、スラ  
ルリシテ、日々運轉

カ役ノ各負ニ与フルノ給料、及ヒ  
カ工ノ間ニ行カスルノ賣買、

斯ク商務清計ノ方法ニ於テ區別アルノ一ハ素

自然ノ勢ニ基ク所ノモノナリ

凡ソ世人各互ノ約束ニ係リ之レヲ計簿其他銀

行ノ業作匯單、清數ノ方ニ依テ清消

按ニ負スル

モノハ甲ヨリ乙ニ送与スルノ貨幣ヲ要セス蓋  
 シ斯ル場合ニ於テ若シ貨幣ヲ用ユルトキハ甚  
 タ不便タルヘキガ故ナリ  
 然リト雖モ各互約束ノ交換ヨリ起シ来ル運轉  
 ノ妙機便益ハ蓋シ其金額ニ限リアルヘクシテ  
 而シテ又僅サノ金員運轉ニ於テハ甚ダ不便ナル  
 ヘシ此故ニ約束ノ性質類等ニ依テ自ラ現貨ヲ  
 モ用ヒサルヲ得サルノ場合アリ

我銀行業務及ビ清教方ノ便益ヨリ前条ニ示ス  
 所ノ實況ニ及ボシ之レヲ一層整頓齊成センガ

タメ終ニ經驗上ヨリ匯單銀行ヲ制定スルノ便  
 ラ刊出セリ抑モ此銀行ノ主業ハ少額ノ匯單ヲ  
 出與スルヲ依テ清教方ト通用債ノ間ニ生ス  
 ルノ隙差ヲ充ラント欲スル所ノモノナリキ然  
 リト雖モ斯ル銀行ノ主業ハ終ニ成果ヲ呈スル  
 一アタハサリシ是レ乃チ通用貨幣ノ位置カ常  
 ニ確乎トシテ其定限ヲ動カサルノヲ証スル  
 ニ足レリト云ヘシ  
 茲ニ於テハ高務ノ事態ニ依テ現貨幣ノ通用ハ  
 恰モ現ニ定規ヲ過タサル似タリ其事專ラ左

ノ件々ニ関ス

第一 人口ノ数

第二 物産

第三 消費

右三件ハ本旨タルモノニテ又之レヨリ生シ来ルモノ如左

第四 物價ノ昂低

右ヨリ左ノ第五件ヲ生ス

第五 需要金額ノ多少

右ノ件々ニ関涉スル比例ニ隨ヒ常ニ定規ヲ過

メサルモノニシテ而シテ令非常ノ際ニ當ル氏

右ニ関スル外ハ通用貸ヲ要セス又之レヲ用エ

ルニ及ハサルベシ

通用貨幣ノ金額ハ人口ノ多寡并ニ其他件々ノ

増進ニ從ヒ頗ル増減アツテ而シテ其件々ハ自然

ニ増加スルヲ疑ヒテ容レズ夫レ物價ノ低下ハ

素ヨリ需要ノ金額ニ感觸ヲ起シ又通用貨幣ノ

増減ハ物價ノ昂低ヲ引起スル常ナリ

英國ニ於テハ政府ガ其負債ノタメ妨ケラルハ

ノ患ナク又壓制ニ紙幣ヲ製造シテ通貸ニ充ル

ノ一ナク容易ニ金貨ヲ鑄造シテ其数又頗ル適  
 當ナリト云ベシ然リ是レ帝ニ萬國ニ関スルノ  
 貿易ヨリシテ年々三四千萬ポンドスラルリン  
 グノ利益ヲ自國ニ来スノミナラズ普ク地球ニ  
 ニ其金額ヲ使用スルニ依テ自ラ増加スルノ金  
 員ハ年々四五千万ポンドスラルリンクナリ蓋  
 シ此全計利益金ノ消費ハ如何ント問フニ或ハ  
 輸入セル要用品并ニ奢侈物ノ價ニ出與シ或ハ  
 世上ニ散布スヘキノ富ニテ  
按ニ各國ニ貸  
 出スヲ云  
 ノ具トナルベクシテ而シテ其間又三千万ヨリ

三千五百萬ポンドスラルリンクノ金銀ヲ他ヨ  
 リ年々ニ輸入シ来ルベシ是ニ由テ之レヲ考フ  
 ルニ我輩ハ僅カニ一千万ヨリ二千万ポントス  
 テルリングノ金額ヲ以テ自用必要ノ備ヘニ供  
 スレバ足レリトス夫レ我通商ト工業ノ外國ニ  
 卓越スル所以ノモノハ何ソ物價ヲ昂低スルノ  
 基礎タル通貨ト物價トノ比例ヲ自ラ作為シ得  
 ルノ理ニ依レテナリ然リ而シテ是等ノ理源ヲ考  
 定セシガ又ノ宜シク凡百ノ事物ト通貨ノ間ニ  
 関スルノ形態ヲ察セズンバアル可ラス

此故ニ富殖ヲ養成スルノ基ヒタルモノハ我カ  
 英國ニ於テ即チ財主タルモノナリ法策西日  
 耳曼ニ於ラモ亦土地ヲ有シ物産ヲ生シ工業ヲ  
 盛ニシ内債ヲ得富ミラ世工ニ散布シ我英國  
 ニ於ルガ如キニアラス氏資本ヲ蓄ヘ良質ノ債  
 幣ヲ通用スルヲ殆ント同一ノ形状ナルベク和  
 蘭其他ノ小邦ニ於ラモ亦收藏スベキノ餘計ア  
 リ縱令現貨ニアラサルモ事務上ニ於テ其平均  
 ラ得ルニ足ルベシト信スルナリ  
 此世上ニ最大ナル負債アルモノハ米洲合衆國

ヲ以テ第一トス其英國ニ於ルモノトヲ比較セ  
 ハ蓋シ前者ノ鴻益ナルベキガ故茲ニ之レヲ明  
 状ス

米洲合衆國ノ富殖

第一 地方ニ於ル土地ノ富饒諸建築其他諸不  
 動産

夫レ米國ニハ未耕ノ原野土地ノ大ナ  
 ルモノアリト雖其地價ハ只將來ニ  
 議定スベキ所ノモノナリ然シラ當今  
 ノ地位價程ニ於テモ猶萬國ニ卓越ス



ル一能ハサルベシ

新ノ財産ハ素ヨリ内國人ノ悉ク所有

ナクト虽氏之レラ抵當ノ類等トシテ

歐羅巴ノ財主等ヨリ借金アツテ而シ

テ巨萬ノ金額ヲ田野ノ使用ニ供セリ

其数サナクハ二千萬ポンドスラルリ

ンクナルヘシ

米國政府ニ於テハ斯ル財産價位ノ全

計ヲ概算スルニ凡ソ五十億ポンドス

ラルリソングナリト云ヘリ然レトモ熟

ラシレヲ考フルニ到底其数ヲ詳カニ  
スル一能ハサルヘシ

第二 動産其他百工及ニ奢侈品ニ関スル内地ノ

富殖

百工ノ價位ハ素ヨリ英國ト比較スル

一能ハサレ氏唯其合衆國ニ於テ奢侈品

ヲ所有スル一ハ巨大ナルヘシ而シテ其

品物ハ多ク消セシ易キ性質ニシテ忽

ニ費盡スル所ノモナリ

此故ニ右ノ品價ハ萬國ニ関涉スルモ

ノハ是亦其價位ヲ詳カニスルヲ能ハ  
ズベシ

第三 公工部等ニ於ルノ富

合衆國ニ於ル鑛道ノ價程ハ三十八億  
トラルル即チ英金七億六千万ポンド  
ステルリングナリ

右價計ノ半バハ多ク債券ニ属スル所

ノモノニシテ其計蓋シ一億ポンドス  
テルリングヲ越ユベク是レ塔二十年  
来歐羅巴ニ對シ負債タル所ナリ

其他百搬ノ公工并ニ鑛山(斯ル良抵當

ヲ擁シ貸金セル歐洲ノ財主多シ)ハ以

テ富ヲ誇ルニ足ルベク其價位十億ポ

ンドステルリング及フベシ

茲ニ於テ鑛道ノ株式并ニ其債券其他

鑛山ノ株式等ニテ政人ノ財主タルモ

ノ夥シク其計一億五千万ポントスラ

ルリングナルヘシ而シテ是レ全ク歐

洲ニ對スルノ負債ナリ

第四 合衆國ノ公債金額當時四億五千万ポ

トステルリング  
 ナ全額中二億二千万ポントステル  
 リングハ外國財主ノ有スル所ナリ日  
 耳曼ニ在ルモノ、ミニテモ八千万ポ  
 ンドニ及ベリ其計内ニハ未國各別限  
 リノ公債モアルガエヘ之レヲ差引計  
 算スル氏凡ソ二億一千万ポントステ  
 ルリングハ全ク合衆國ヨリ歐洲ニ對  
 スルノ負債ナリ

第五 萬國ニ散布スル所ノ米洲合衆國ノ富財

即チ合衆國ガ他國ニ對シテ財主タルモ

米國ニ於テハ萬國ヘ對セル負債ノミ  
 アツテ而シテ本行ニ関スルノ一ナシ

第六 合衆國ノ諸高賈及ビ製作家實用ノ資本

ハ甚ダ大ナルベシ

合衆國紙幣發行ノ銀行カ報告スル所  
 ニ依レバ右本行ノ金額ハ四億八千五  
 百万ドルラ即チ凡ノ一億ポントス  
 テルリングナリ之レニ依ラ之ラヲ考

フルニ内國ノ商業ハ頗ル大ナル一疑  
 一ヲ容レサルヘシ然レ氏假リニ今若  
 シ全國ノ財本總計ヲ以テ四億ポント  
 ステルリシク<sup>レ</sup>論柄ヲ起シテ巨額ナリ  
 ト想像スルキハ輸出入ノ貿易ハ多ク  
 歐羅巴財主ノ手ニ屬スベクシテ而メ  
 世上ニ對スルノ負債ハ僅カニ四千万  
 ポントスラリシク<sup>レ</sup>ヲ越エベカラズ  
 米國ニ於ル財産財本ノ主人モ亦我カ  
 英國ニ於ルカ如ク富豪貴家ノ手ニ在

ルナリ茲ニ於テ事實ノ財産ハ左ニ掲  
 クルモノナルベシ

第七 米洲合衆國ノ通貨ハ左ノ如シ (一千八百七十五年)

- 一 國民銀行ノ證券 三億四千万ドルラル
- 一 政府ノ紙幣 三億七千万ドルラル
- 一 零紙幣 フランクシヨナル 四千一百万ドルラル
- 一 現貨幣 カルホルニヤ州ノ通貨及ニ準備 四千万ドルラル

甲 計八百〇ニトルラル

按ニ此計算解シ難シ右四件ノ教ヲ  
 合計セバ七九九トナリ然レ先ツ原

一 現貨幣 四千万ドルラル

一 銀行設備ノ金

二千万ドル

一 大藏省蓄藏ノ金

六千万ドル

(乙) 計一億二千万ドル

甲 計ヲ(乙) 計ヨリ引去リ残

金額六億八千二百万ドル即チ一億

三千六百萬ハ全クノ紙幣ニシテ而シ

現貨ニ交換スルコトアタハサルモノナ

リ然シテ今尚金貨ト紙幣トノ差ハ百

分ノ十三ニ及ベリ

右一億三千六百万ポンドステラリングノ金額

ヲ今現貨ト交換シ得ント欲スルニ於テハ金貨

五千万ポントステラリングヲ要セスンハアル

可ラス之レニ依ラ右五千万ノ金額ハ全ク米國

人民ガ當今世上ノ金庫ニ對シ負債タル所ノモ

ノナリ

此故ニ合衆國ノ富殖ハ事實左ノ如クナルヘシ

一 内地ノ不動産

未詳

一 内地ノ動産

未詳

一 公工部ノ富

十億ポンド

一 公債

四億五千万ポンド

一 實用ノ財本

四億ポント

一金貨

三千万ポント

一 土地并ニ其抵當トナツラ外人ノ手ニ在スノ

二千万ポント

一 鑛道及ニ諸公工ノ株券并ニ其債券

一億五千万ポント

一 公債券ノ歐羅巴ニ在ルモノ

二億一千万ポント

一 各國人ノ保有スル米國諸業務ノ資本

四千万ポント

計

是レニ由テ之レヲ觀レハ「四億ポントステルリ  
ンク」ナル金額ノ外尚五千万ポントハ現貸ヲ以  
テ消償スルモノト認ムベキ故結弓四億五千万

ポントハ全ク萬國ニ對シ負債トナル所ノモノ  
ナルベシ

右ニ示ス處ノ考定ハ敢テ過言ニアラサルベシ  
ト自信スト虽氏尚僅々ノ過不及ハ萬國ニ對セ  
ル負債ノ真況ニ注目シテ了解アラシクテ請フ  
夫レ米國各州限リノ公債ハ蓋シ合衆國政府ノ  
公債ニ於ルヨリモ大ナルヘキニ似タリト虽氏  
其公債約定ハ常ニ内國ニ於テ制定保存スル唯  
内國限リノモノニシテ而シテ萬ニ関涉スルヲサ  
ナカルヘキモノナリ加之ニ斯ル内國債ハ適當

ナル課税ノ方法ヲ以テ容易ニ之レヲ清償シ得ルノミナラス又是レ合衆國ニ於ルノ公債ヲモ既ニ内國ニ於テ巨額ヲ清償シ得ルノ幸宜ヲ引起シタル所ノモノト云ベシ

然レ氏又之レヲ熟思スルニ斯ル内國債ハ素ト僅ニ刺激ノ蚤啗ニ似タルモノナルガ(ジスレリ)氏ノ言アリ遂ニハ外債ノ如ク全國民ニ於ル出血已マサルノ瘡疾トナランコトヲ恐ル、ノミ

夫レ外債ノ事タル元利金額ヲ海外ニ出与スルノミナラス理財ノ平均ヲ得ント欲スルノ國ヲ

シテ将来世ニ富殖ヲ散布セントスルノ預謀

ヲ絶タシムルニ至ルヘクシテ而シテ世人ノ其

貸財ヲ他ニ貸シテ利ヲ收ムルモノ并ニ其從属

スルノ人ハ常ニ外債ノ需アルヲ欲スルコト必然

ナルベシ抑モ未國ノ公債ニ於ルヤ譬ハ右手

ヲ以テ左手ヲ洗フニ異ナラス按スルニ此義ハ甲

ヲ能ハサルト云カ世ノ財主タルモノモ亦常ニ

未國外債ノ實際ト景況ニ注目スル所ノモノナ

リ

合衆國政府ハ如何ニテカ斯ル清償シ得ルヤ容

易ニシレガ答ヲナシ得ベシ曰ク。輸出ヲ多クシ  
 輸入ヲサクシ以テ貿易ノ平均ヲ変スルニ在ル  
 ノミト然レド是レ言フヘクシテ而ノ之レヲ行  
 フコ實ニ容易ナルヘカラズ看ヨヤ今米國ハ猶  
 之レニ及シテ輸入ノ高常ニ輸出ヲ超ルコト大ナ  
 レハナリ宜シク次ニ述説スルノ趣旨ヲ玩味シ  
 テ其情態ヲ察スベシ

一千八百四十八年ノ前合衆國ハ常ニ銀行紙幣  
 ラ以テ商業ヲナセシト虽モ方今各銀行及コ大  
 藏省ニ於テ蓄藏スルニ千万ドルラルノ金貨ヨ

リモ巨額ナル現貨ヲ通用シタリキ  
 一千八百四十八年ヨリ同七十五年マテ米國ノ  
 鑛山ヨリ産出セシ金銀鑛ノ全計ハ(金塊ノ價位  
 ニ億七千万ポント銀塊ノ價位五千二百万ホン  
 ト)三億二千二百万ポントノ價位ニシテ而シテ  
 之レ皆海外ニ輸出セシモノナリ此故ニ一千八  
 百四十八年ノ以後ハ全ク國內ニ存在セルノ金  
 銀ヲ減サセリ蓋シ之レヲ平均スルニ一ケ年ノ  
 産出數一千二百五ポントノ割合ニ当ルベシ然  
 レド是皆十悉ク此割合ニアヲナルベシト信ス



ルナリ

一千八百六十二年間及ヒ當今ニ於テハ此鑛塊ノ輸出ヲ稍々減サセリ

右同年間ニ於テ米國人ガ其公債ノ部分ヲ歐洲

ニ送致シ又内地進歩ノ用ニ供スルカタメ備フ

ヘキノ金額ヲ引去リ全ク外國ニ送出セシ処ノ

金額ハ總計三億ポンドヨリサナル可ラス

是レニ由テ之レヲ考レルニ右ノ送出金額及ビ

輸出ノ金銀條塊ヲ合計シテ之レヲ差引計算ス

レバ世上ノ權衡ニ関シ米國ヨリ流出スルノ金

額毎手二千九百萬ポンドノ割合ナルベシ茲ニ

其一証ヲ舉レバ一千八百七十四年ノ末マテニ

公債返償ノタメ輸出スルノ金ハ常ニ不絶シテ

而メソレヨリ米國公債券ノ價位高低ニ関シ債

額清償ノ他尚年々間銀ヲ拂ハサルヲ得サル

ニ依リ按スルニ自國ノ公債券ヲ歐洲ニ於テ買

額ノ余ヲ拂フニ又暫ク其送金ヲ止メシテアリ

タリシ

此故ニ米國ニ於ル外債ノ元額ヲ先ツ四億ホシ

トト算定シ其利息ノ平均ヲ年々百分ノ六ト計

スルハ米國ヨリ浪出ス按ニ年々ニ於ルノ  
 差計二千四百万ポントニアタルナリ然レ其  
 際ニ於テハ二千九百ポントノ金額ナルヘシ是  
 レ其理源ヲ推究スルニ合衆國國ノ人民ハ其國  
 内ニ巨萬ノ金ヲ輸入スル所ノ殖民アルニ関セ  
 ス又土地ノ物産或ハ製工ノ進歩ニ関セス輸入  
 ノ高ハ輸出ノ高ヲ起ルヲ常トス然シテ若シ米  
 國ガ海外ニ負債ナクシハ必ス貿易ノ差ハ常ニ  
 米國ニ及對スルノ理按ニ輸出ヨリ輸入ナルベ  
 起スノ意  
 シ然リ其事タル初ノハ容易ニ成リ来リシモノ

ナレ抑モ米國カ其外債ヲ悉皆清償スルノ以  
 前ニ於テ今第一ニ其弊按ニ輸入ノ不ヲ矯メ  
 平均ナルベシ  
 スンハアル可ラス  
 夫レ米國ニ於ル貿易ノ不平均ヲ生シ来ル各種  
 理源ノ容儀ニ関シ一々之レヲ考慮スルハ蓋シ  
 無益ニ属スベクシテ而シテ又英國ニ於ルノ例  
 一千八百十六年ノ以後ニ於テ大ナル國債ヲ負  
 々人民ノ實ニ重擔トスル所ナリシカ適宜ノ方  
 法ヲ以テ漸ク之レヲ回復セシモノナリヲ擴張  
 シテ之レニ適シ難シ唯或ハ佛蘭西當今ノ秋狀

ヲ以テ適例トナサンコトヲ要スヘキナリ  
 其ノ人民ガ其外債ヲ嫌却スル  
按スルニ日耳曼  
ナルヘシ事等ニ依ルカ忽チニ再ニ萬國ニ関ス  
 ルノ富殖ヲ回復シタルモノニシテ是レ米人ガ  
 同轍ニアラシムコト須要ナルベシト信スルナリ  
 蓋シ米國ニ於テハ不得已ノ必要ト及ビ其貧十  
 ルニ依リ自然輸入ヲシテ輸出ヨリ多カラシム  
 ルニ及ビタル物ニシテ別ニ趣意ノナキモノト  
 云ベシ然レバ又是レ殆ント充分ナル壓カラ以  
 テ行為セシモノニシテ而シテ人民并ニ政務家ニ

於ル良策トハ云ヒ難シ

米國ニ於テハ大ニ節儉心ヲ抱クト雖レ猶<sup>ホ</sup>人民  
 ノ多クハ外國ヨリノ輸入品ヲ浪費シテ奢侈ノ  
 生活ヲナスモノアリ然シテ米國政事家ノ中ニ  
 ニハ其國ニ生存スル盛衰ノ物素ニ関シテ考説  
 スル所ノモノハ甚々急ルニ似タリト云フカ如  
 シ  
 看ヨヤ英國ハ大争乱ノ後別ニ何ノ助ヲ借ラス  
 シテ四年ノ間ニ現貨交換ノ途ヲ回復セシニア  
 ラスヤ  
按ニ現貨幣ト紙幣トノ  
間ニ差ナキヲ云ナリ  
 然ルニ米國ハ非

常ナル内乱ノ後今ニ至ルマラ十年ヲ経過セシ  
 カ其外債ノ多寡ニ関セズ猶紙幣ノ金貨ニ於ル  
 百ニ付キ十三ノ差アルヲ免レ素ト合衆國ノ  
 大統領カ斯ル現貨ノ差ヲ年々退次ニ回復セン  
 トノヲ十前前ニ謔言セシテアリキ且ツ夫レ  
 今年々凡ソ五百万ポントノ金額ナル紙幣ヲ減  
 シ去ラント企テシカモ恐クハ回後ノ期ヲ着ヨ  
 甚ク遅々タルト云ヘキナリ

如何トナレハ茲ニ紙幣ヲ減消スルヲ速カニア  
 アラサルハ價位按ニ諸物品ノ騰貴ハ幾々子

トシテ已マサルヤ必セリ之レヲ直言スルニ輸

出ノ障碍ヲナシテ而シテ輸入ヲ要進スルノ理

ナリ勸モスレハ米國ノ言ニ我國ノ紙幣ハ人口

ノ數ニ比例セバ敢テ駟クヘキニ非ズ其超過ノ

數タル英國ニ在リシ如キニ非ズト此故ニ米國

ノ紙幣ヲ以テ多シトセス唯金貨ノ差金ハ單ニ

價位ノ差ヲ徴スルモノニシテ交換ノ清計ヲ算

定スルノ点ニ在ルノミトノ説アルヲ免カレズ

是レ何ソ其輸出ヲ妨ケ其輸入ヲ勸ムルノ國害

タルヲ顧リミガルノ甚シキヤ噫宜シク斯ル思

想ヲ驅テ頭腦ノ外ニ逐々出サシテ要スベキ  
 我請フ者ヨ米國ニ於ル金貨ノ差分  
兩換ハ片金  
 貨ニ對セル  
 ノ差ハ實ニ大ナル差價ヲ現在市場ニ頭ハス  
 ヲ

余カ曩ニ英國ニ於ルモノヲ以テ示シタルカ如  
 ク凡ソ通用貨幣ハ英國ノ用ユル人口、生産及  
 其消費ト價位ノ數ニ應シ其多寡ノ比例ニ基ク  
 所ノ交換代理ヲナスモノニシテ而シテ若シ物  
 價ノ騰進スル片ハ通貨ノ需要ヲ増ヤ敢テ論ヲ  
 待ス人口ノ多寡ニ拘ハラズシテ之レニ及シテ

又輸出ヲ勸奨スルトナラハ通貨ヲ以テ交換ス  
 ルノ物價ヲ低下セシメスンバアル可カラサル  
 ナリ

右物價昂低ニ関スル利害ノ辨説ハ貿易上ニ於  
 テ至當ノ途タルニ似タリト虽氏茲ニ又内地人  
 民約定ノ方法ニ関シテハ大ナル障礙ヲ生シ得  
 ルト昭々タリ何ヲカ其障礙ト云フ曰ク人民所  
 有ノ財産ガ其價位ヲ減シ終イニ家産抵當ノ頁  
 債或ハ上期先出金額等ノ如キ確定ノ確束ニ関  
 シ甚タ困難ヲ生スベント信スルト是ナリ

然リ而ノ熟ラ之レヲ考フルニ其内地ノ障碍因  
 難ハ蓋シ其資本準備ヲ以テ之レヲ防キ得ベシ  
 ト虽氏若シ輸出ヲ勸奨シ外債ヲ清却スルノ方  
 術ニ着手スルヲ怠タルハ之レヲ整頓スル  
 日一日ヨリモ難キニ至ルベク之レヲ清償スル  
 ノ期年一年ヨリモ遠サカルベシ是レ今米國ニ  
 於テ紙幣増加ト現貨専用トノ二論黨ニ分派ス  
 ル所以ニシテ而ノ其論議ノ結末ハ通貨論ヲ以  
 テ命運ノ二字ニ帰着セシムルガ如キノ思想ヲ  
 民人ノ脳裡ニ置ニ至ルベキヲ免レズ然ルニ却

テ我カ英國ニ於テハ此論題ニ関心シ若シモ未  
 國ニ於ル増紙黨ガ其志ヲ得ルニ至リナバ忽焉  
 米貨幣紙幣ノ價ヲ此上低下スルヲ必セリト妄  
 リニ其想像ヲ抱クモノアリ是レニ由テ之レヲ  
 觀ルニ到底斯ル通用貨幣ノ論題ニ於テハ只人  
 性ノ智略ヲ以テ最要最重ノ元素トナスヘキナ  
 リ且ツ夫レ余ハ暫ク此論題ヲ掲シテ以テ後考  
 ニ供セント欲ス  
 今試ミニ又起サント欲スルノ問目茲ニ二題アリ  
 左ノ如シ

第一

如何ニ物價ヲ變易シテ而ノ輸入ヲ防キ  
輸出ヲ勸メ得ベキヤ且ツ其事タル地球  
上ノ各國ヲ米國ノ外ヲ云シテ如何ナル影響ヲ  
感セシムベキヤ

第二

若シ米國ニ於テ紙幣ヲ交換スルガため  
少ナク凡金貨ノ五千萬ポンドヲ需メテ  
ハ世上ノ金市ニ於テ如何ナル景況ヲ来  
タスベキヤ

然レ凡退ニテ之レヲ考フルニ右ノ尙目ハ結局  
米國ニ適スルヲ得サルベクシテ此主タル四

ヶ國

按ニ此四ヶ國トハ何々ヲ指ニ於ルノ例ト  
スヤ譯者未タ之ヲ詳ナラズ

シテ揚ダル所ノモノト云ベシ ○今澳太利魯西  
亞其他伊太利モ亦其外債公ユ又ハ貿易上ノ形  
況ニ関シテ稍々右ト同一ナル位置ニ在ルナリ  
何トナレバ魯ハ二億七千五百万澳ハ三億四千  
六百万伊ハ二億五千一百万ポントノ公債アツ  
テ而シテ皆其教ノ多分ハ外國人之レカ債主ク  
リ之レニ加フルニ各其難化ノ紙幣按ニ現貨ト  
交換ナリ難  
キラ云 アツテ其教ハ右三ヶ國ニ於ケルノ合計  
三億ポントナルベシ依テ此ヲ米國ニ於ルモノ

トニ合計（土耳其及び其他紙幣ヲ濫造スルノ小  
 國ヲ除クノ外）セバ其數四億五千万ヨリ五億ボ  
 ンドニシテ而シテ是皆現貨ニ交換セントスル  
 ニハ非常ノ困難ヲ生スベキモノナリ然シテ若  
 シ右等ノ紙幣ヲ減シ現貨通用ノ基礎ヲ奠定セ  
 ントスルニハ恐クハ一億五千ポントナル金ヲ  
 セズンバ聊カ充分ナル可ラズ然レバ蓋シ終イ  
 ニハ其以上ノ計數ナル金ヲ要スルニ至ルベシ  
 抑モ右ノ尙目ハ各地及び世上一凡ニ於ケル物  
 價ノ昂低ニ関シ重大ナル感觸ヲ起シ易ク第一

ニハ其功驗ヲ徴示スルノ点ニ達シ得ベク第二  
 ニハ貨幣市場ニ於テ金ノ一億五千万ポントヲ  
 要スルニ至ルヘキナリ是レニ依テ之レヲ考フ  
 ルニ富殖ノ國ハ自カラ其物價ノ低下ナル理ニ  
 シテ而シテ負債アルノ國ハ素ヨリ其輸入ヲ防  
 ギ其輸出ヲ盛ニスルヲ勉メスンバアル可  
 ラズ然リ負債國ノ需要ニ依リ富國ノ現貨ヲ減  
 スルニ及ンテ初メテ負債國ノ物價ヲ低下スル  
 ニ至ルヘキニ非ズヤ  
 一千八百四十八年ノ以前ニ世上ニ於ル金貨ノ



教ヲ算シテ四億ポンドト計定ヤリ(雜貨物ノ金  
 ヲ除キ)其後之レニ増加スルヲ三億五千萬ポ  
 ドヲ以テシ(當特産出ノ全計ハ殆ント五億ポ  
 ドニ及フベシナレバ)タルカエヘ方今通用運轉  
 ノ用ニ供スル金貨并ニ金條ノ計數合シテ七億  
 五千萬ポンドナルベシ  
 右金貨條ノ各國ニ散在セル所ノ各部概算左ノ  
 如シ

在英國 一億三千万ポンド  
 在佛國 二億二千万ポンド

在日耳曼 一億ポンド

在白耳義

在瑞西 五ヶ國ニテ 五千万ポンド

在和蘭

在丁抹

在雪際

其外歐羅巴ノ各國ハ皆

所謂負債國ニシテ僅カニ之ヲ有スル計 六千万ポンド

米洲合衆國 三千万ポンド

此他ノ餘額ナル一億六千万ポンドハ埃及白

見西亞日本。那ノ如キ東洋ノ各國及ビ英國  
諸屬地其他南亞米利加等ニ散布スル所ノモ  
ノナリ

夫レ負債國ニ於テ金中ニ関シ一億五千万ホ  
ドノ金ヲ需求スルニ依リ此ヲ得ルノ方畧如何  
ハ殆ント茫乎タル所ノモノト云ベシ噫鑛山ヨ  
リ新タニ得ルノ金ヲ以テ一億五千万ホンドラ  
償フニ足ルベキ歟答ヘテ曰ク否夫レ今手ニ握  
スル所ノ鑛坑ヨリ其金數ヲ生シ其需メニ供ス  
ヘキトノハ實ニ虚空ニ屬スルモノト云ベシ

或ハ又全國ノ金貨債財ヲ溶消シテ以テ其需メ  
ニ供スヘキヤ又答ヘテ曰ク否何トナレハ憂國  
ノ婦人ガ其重寶ヲ以テ國家ノ用ニ供スルノア  
ル可ラズ(縱令斯ル供給アルハ其金額甚々サナ  
ルベシ)加之ニ金ハ飾具ニ用ユルニ於テ最モ貴  
重ヲ増進シ之レニ関シテハ自カラ金價ヲモ増  
進スルニ至ルベキニ似タリ然ラバ又銀行紙幣  
ヲ増造シテ以テ需要ニ供スヘキカ否否何トナ  
レハ何故ニ吾輩ガ運轉ノ用ニ紙幣ノ増進ヲナ  
サ、ルヤ然シテ若シ他ノ各國英國ヨリ紙幣

ノ弊ヲ考ヘ銀行紙幣ヲモ省減スルニ於テハ吾輩ハ尚<sup>ホ</sup>我通<sup>ホ</sup>債ノ着實價位ヲ得ンガタメ我銀行紙幣ノ用ニ於テモ亦一層ノ注意ヲ加ヘ謹慎ヲラスンバアル可ラス。○或説ニ又云他ノ各国ヲシテ我清教會社ノ法ヲ傳写セシメ以テ我輩ガ所為スル如ク紙幣ノ弊ヲ矯メントスベシト夫レ其説タルヤ適宜ニ似タリト虽<sup>レ</sup>氏抑モ此清教ノ法ハ文明高尚ノ整理法ニシテ而<sup>レ</sup>之レヲ以テ他國ニ写及スル<sup>レ</sup>殆<sup>レ</sup>ント難カルベシ然<sup>レ</sup>氏社古ヨリ其清教法ニ類似セラルノ方法ハ既ニ諸

方ニ行レ文明各國ニ於テハ既ニ已ニ其レニ相均シキノ方法ヲ以テ通商貿易上ニ履行スル所ノモノナリ法蘭西日耳曼ノ如キハ中央ニ在ル各銀行按ニ大都會ニ在自カラ其清教ノ業務ニ從事セリ米國ニ於テハ清教ノ方法充分行ハレテ其高度ニ登レリ而<sup>レ</sup>我英國ニ於テハ其清教方法ニ依リ通用貨幣ヲ減セズシテ却テ之レヲ増殖スルニ志シ<sup>レ</sup>世人ノ知ル所ナルベシ○真ナル我若<sup>シ</sup>一朝倫敦ノ各銀行カ右ノ半ハ蠶風ナル方法ヲ履行スルニ退步シテ互ニ現實ノ

金貨又ハ銀行紙幣ノミヲ通換交附スルニ及ハ  
 ハ今現ニ二三百万ノ現貨ヲ要セスンバアル可  
 ラズ按ニ清法ノ意カ然リ清教法ノ完善セシ以未  
 一千八百四十四年ヨリ今日マテ現場通用ノ貨  
 幣ハ金貨四千万ポンド及ヒ銀貨其他銀行紙幣  
 ノ幾百万枚ヲ増殖シテ而シテ貿易上ニ於テ至要  
 ナル交換ノ辨物按ニ貨幣ニ於ルノ形状ガ斯ノ  
 沿革シ来ル所ノモノハ是レ乃チ良法ニ依リ彼  
 ノ辨物ノ使用ヲ大ニシタルノ効ヲ證スルニ足  
 ルト云ベシ

然リト虽尺今尚一步ヲ進メテ熟ラ以テ上ノ述説  
 ヲ再考スルニ其現貨ノ増殖トテモ尚ホ世上ニ欠  
 乏ナル金貨ノ金額ヲ補フニ足ラサルヲ明ラカ  
 ナルカエハ右ハ到底淺慮ノ妄説ト云モ敢テ過  
 言ニ非ルニ似タリ之レヲ詳言セハ縱令其現貨  
 ノ増殖ニ依リ社會ノ公利ヲ與フルトモ結局未  
 タ一億五千万ポンドナル所ノ欠乏金額ノ金本  
 ヲ償シ尽スルアタハサルヤ殆々乎トシテ豈ニ  
 誰カ此點ニ疑團ヲ抱クベケンヤ  
 噫夫レ一千八百四十八年以來此世ニ於ル貿易

商務ノ盛状ハ實ニ非常ナル進歩ヲ致シテ而シテ  
 其際手々之換ノ媒タルモノ按ニ貨幣ノ支給  
 ハ却テ欠乏ノ生シ之レカタメ常ニ貨幣ノ數ニ  
 閑スル比例ヲ以テ勞力ノ給價ハ頗ル昂低ヲ起  
 スニ至レリ茲ニ於テヤ宜シク之レヲ濟セ且ツ  
 今通貨一方ノ地位ヲ占メタル紙幣ノ數ヲ以例  
 ニ基キ減省スルノ策ナクシバアル可ラス然ル  
 未ノ景況ハ其景況ニ隨ヒ理財世界ノ修整ニ變  
 化ヲ引起スモノナリ實ニ確定ノ預言ヲナシ難

キモノナレバ唯世上ニ於ル金礦產出ノ數ニ基  
 キ聊カ定説ナキニシモ非サルベシ然リ而シテ  
 其金礦產出ハ只現場ノニニ非ズ年々比例ヲ推  
 シテ減サスルノ状アリト虽氏多サノ產出ニ依  
 テ世上ノ金本ハ年々幾何欲増殖スルヲヤ必セ

Blank page with faint, illegible markings.

Blank page with vertical blue lines and faint markings.

番  
言  
言

大  
痛  
省

八尾正文譯

三

第十一節

金銀ノ估價ニ關係スル要論及其現況

抑モ銀貨ノ廢止ニ関セル此重大ナル問題ハ方  
今英國ニ於テ一般人民ノ小心翼々トシテ之レ  
ニ注目スル所トナレリ何トナレハ其物質銀ノ  
價ノ下落及ヒ印度ニ關係アルモノヲシテ大ニ  
其為替ノ下落ニ愕カシムルニ至ルノ原因ヲ探  
知センカ為メニ我輩英國人民ノ熟考ヲ要セサ  
ルヲ得サレハナリ  
然リトモ印度ノ關係ハ獨リ總論ノ一部分ノ



之爰ニ銀ヲ以テ通貨トシ或ハ金銀ヲ混同シテ  
 通貨トナスノ教國ニ關係アルノミナラス獨リ  
 金ヲ以テ通貨トナスノ人民ヲ保有セル諸國ノ  
 利益ニモ亦銀貨下落ニ關係アリ而メ金ヲ以テ  
 通貨トナスノ諸國ニ就テ之ヲ考覈スルハ我  
 輩カ以テ最要トナス所ナリ

蓋シ銀貨廢止トハ如何ナル意味ヲ含ムモノナ  
 ル乎未タ此本旨ヲ知ラサル人々ヲシテ之レヲ  
 知ラシメンカ為メ左ニ述ル所ノ畧説ハ敢テ無  
 用ニアラサルベシ

夫レ金ト銀トハ邈乎タル太古ヨリ以來法貨ト  
 シテ用マラレタリ則チ幾多ノ巨額ナルモ金或  
 ハ銀ヲ以テ其本價ニ於ケル量目ノ比例ニ於テ  
 拂フハ法律ノ許ス処ナリキ蓋シ其金銀ノ間  
 タニ價ノ不同アルモノハ真ニ貴賤ノ別アリテ  
 然ル乎或ハ貴賤ノ別アルト認了スルニ因テ然  
 ル乎且ツ其金銀比較割合ノ國習ノ如キハ萬國  
 ノ習慣ヲ照考シテ必要ナル改正ヲ施シ以テ金銀  
 貨幣ノ比較ヲ一定マシモノナラン然リ而メ金  
 銀兩貨ノ比較ハ各國ニ於テ屢々些少ノ差違アリ

リタレ氏之レヲ 際スレバ 金一銀十五半ナリト  
云フヲ得ベシ 則チ百期ノ初ノマテハ 銀ハ  
法貨ノ本位ナリキ

佛蘭西國ハ其大革命戦争ノ間夕金銀兩金屬ヲ  
以テ法貨トナシ其比較ヲ金一銀十五半ト定メ  
タリ尋テ千八百五十六年ニ於テ佛蘭西白耳義  
伊太里瑞西蘭土ノ四ヶ國ハ右ノ金一銀十五ノ  
比較ヲ定メテ所謂ラチンモ子タリユーニオン  
ナル同盟社ヲ結立セリ此他二三ノ國ニ於テモ  
同一般ノ轍ヲ踐シテ金銀ノ比較ヲ定メタリ所

謂ゴールド、エント、シルウ、クリエーシヨン、金

銀比較ノ價則チ是レナリ

一千八百十六年我カ英國ニ於テハ 獨リ金ヲ以  
テ法貨ノ本位トナシ 銀ヲ以テ之レカ補助貨ト  
ナシ其銀ノ通用制限ヲ貳磅ト定メタリ蓋シ英  
國ノ制度ニ於テ此変革ヲ為スノ原由ヲ回顧ス  
レハ千七百年代ニ始マリタル議論ニ基ヒセ  
リ而シテ歐洲大陸ノ大戦争ノ後ニ至リテ始メテ  
一種ノ金屬ニ原ツテ 價値ヲ撰定スルハ當時  
ノ政治家ノ適當ト認了スル所トナレリ蓋シ此

處置タルヤ其撰定セシ當時ニテハ及令如何ニアリタルモ其當今ノ關係ニ就テ之レヲ觀レハ其適當ナルヲ考定スルニ足ラン葡萄牙土耳格ノ三國千八百七十年前而メ其他ハ千八百七十年以後ハ所謂ゴールドワリュエーション金本位ノ同社ヲ約セリ

日耳曼國及ニ其他數國ニ於テハ依然トシテ銀本位ヲ存セリ則チ交易ノ媒介ニ用ユル重ナル貨幣ハ補助銀行ヲ除クノ外法債タル銀圓ニ因テ成レリ而カモ金貨ハ市價ノ自然ニ任セ

カ故ニ人各自其買人ト賣人トノ間々相對ノ取引ヲ為シ得可シ印度及ニ東邦ノ如キハ一般ニ大概銀貨通用ニ拘泥ス此等ノ國々ハシルウルクリュエーション銀本位ヲ守ルモノナリ故ニ重大ナル三國ヲ組立タリ而メ千八百七十年ニ於テハ左ノ如クナリキ

銀貨流通ノ國

英國

葡萄牙

所謂金本位

千里

オーストラリア

佛蘭西

白耳義

瑞西

伊壽巴仁亞

ニューグランド

エキエートル

ペリユ

所謂金銀混同本位

日耳曼

和蘭

スウェーデン及ニールウエ

テ子マルカ

メキシコ

中央亞米利加

印度及支那

所謂銀本位

左ニ第四團ヲ指加スナル可ラス但シ此等ノ國々ハ金貨或ハ銀貨流通ノ部ニ屬スルト由ル其

實正金ノ貨幣ヲ有セス現時變換ス可ラサル紙幣ノ通用ナリ

土耳其

金本位

ブラジル

合衆國

金銀本位

伊太里亞

義里西亞

オーストリア

銀本位

魯西亞

金貨本位ノ銀貨ニ於ル特別ノ性質ハ金ヲシテ  
 勢カアル本位トナサシメンカ為メニ銀貨取引上  
 通用制限ヲ定メサル可ラサルナリ故ニ英國  
 ニ於テハ金貨ハ員額ノ多クハ法律上ノ  
 貨幣タルニ銀貨ハ其通用制限ヲ貳磅ニ制限シ  
 タリ此制限アルノ實効ハ銀貨ノ使用甚タ少ク  
 シテ足ラシム是ニ我カ英國ノ流通貨幣ノ總額  
 ハ志億六千貳百萬磅ナレ其内僅カニ一千五  
 百萬ノ銀貨アリ所ナリ而ノ其通用制限アル  
 ニ方ツテハ之レヨリ餘數ヲ要トスル所ナケレ

又現今更ニ之レヲ鑄造スルヲ要セサルナリ  
 現今屢々巨額ノ銀貨ヲ銀行ニ收埋シ利足ノ活  
 用ヲ失フテ虚シム不通ニ在ルアリ此時ニ當ツ  
 テ此有餘ノ額ヲ輸出セント欲スレトモ能ハス  
 何トナレハ其己ニ限ラレタル数量ノ中若干ヲ  
 輸出スル氏ハ忽チ貿易上ノ大不都合ヲ生セン  
 カ故ニ之レヲ預防センカ為メ銀貨ハ價ヲ低フ  
 シテ發行スレハナリ則チ尙オンズノ銀ヲ以テ  
 金一銀十五半ノ比例ニセハ六十ベンスト八分  
 ノ七トナル可キモ之レヲ六十六ベンスニ鑄造

セリ因テ之レヲ輸出セハ容易カラサルノ損ア  
 ル可キナリ是故ニ我英國ノ銀貨ハ虚名貨幣ト  
 ナル耳而カモ當今ノ銀價尙オンズニ付キ五十  
 三ベンス半ナルヲ以テ之レヲ觀レハ十二ベンス  
 スナル虚名價ト尙シルソノハ之レヲ地金ノ  
 價ニシテ凡ソ九ベンスト四分ノ三ニ當ルナリ  
 此金貨本位ノ特別ノ性質ハ必ス留心記憶セサ  
 ル可ラナル最緊要ノ事件ナリ蓋シ世人皆我英  
 國ニテ自他諸國如ク金銀兩物ノ貨幣ヲ混用  
 スルヲ見テ以テ其混用ノ景況及ヒ其價位ノ如

キモ此等ト同一様ニシテ而シテ其金銀兩物ニ含  
 有セル價ハ自然ノ法ヨリ導キ来レルモノナリ  
 ト思量ス可シ然レテ魚尺右ニ示スカ如ク我英  
 國ノ銀貨ハ貳磅ノ取引ヲ起ユレハ幣ニ法貨ノ  
 本質ヲ缺ク而已ナラス亦必ラス自ラ低價ニ至  
 ラサル可ラズ加之ナラス尚ホ之レヨリ緊要ナ  
 ルナリ其使用ハ貨幣流通金額ノ唯十分一ノ  
 割合ニ制限スルナリ是レナリ之レヲ一視スレハ  
 金貨本位ノ國ニ於テ銀貨カ流通貨幣ノ十分一  
 ノ比例ヲ占ムル者ハ恰モ需要供給ノ常法ニ藉  
 レル自然ノ約束ナルカ如シト思想スヘシト虽  
 凡是レ敢テ然ラサルナリ何トナレハ需要供給  
 ノ理ハ他ノ束縛ヲ被ル可キモノニアラサルハ  
 一般人々ノ了知スル所ナルモ立法上ヨリ之レ  
 ヲ窺ヘハ則チ壓シテ其使用或ハ要求ヲ制限シ  
 且ツ故意ニ供給セル銀貨ノ性品ヲ低位ニスル  
 所ノ實際施行ノ制度ニ因テ束縛スレハナリ故  
 ニ英國ノ貨幣ハ割ハ左ノ如シ

金本位

金貨 十分ノ價アリテ且法貨ナリ

銀貨

估價低位ニシテ且ツ通用制限アリ  
此外補助ノ銅貨アレ共故ラニ之レ  
ヲ爰ニ論スルヲ用ケズ何トナレハ  
流通貨幣全額中獨リ百分ノ一半ヲ  
占ムレハナリ

金銀兩種本位ノ性質ハ則チ佛國ノ例アルカ如ク  
金及ヒ銀ノ貨幣兩ナカラ法貨トナルモノナ  
リ小銀貨ハ此限ニアラス何等金額ノ取引ニモ  
金貨或ハ五フランク銀貨ヲ用ユルヲ得ルナ  
リ故ニ巨大ナル法貨ノ貯蓄ハ金銀兩貨ニテ成

リ五フランク以下ノ銀圓ハ獨リ補助即チ低位  
貨幣ノ地位ニ居ルカ故ニ通用制限アリ蓋シニ  
フランク銀圓ハ金一銀十五半ノ比例ニテ十分  
五フランクノ價ヲ含有ス

故ニ佛國貨幣ノ制如左

金銀本位

金貨

十分ノ價アリ且法貨ナリ

銀貨

十分ノ價アリ且法貨ナリ

銀貨

低價ニシテ且通用制限アリ此他補  
助銅貨アリ



銀本位ノ性質ハ近頃マテ日耳曼ニ於テ行ハレ  
 且ツ印度ニ於テハ今モ尚ホ行ハル、カ如ク定  
 限ノ數額マテハ金貨ヲ用ユルヲ得ルト虽トモ  
 法貨ニアラサルナリ然リト虽氏其十分ノ價ヲ  
 有セル銀貨ハ即チ英國ニ於テ金貨ノ占有スル  
 所ト同一般ノ地位ヲ占有セリ而メ獨リ小銀貨  
 ハ估價低位ニシテ通用制限アリ故ニ銀貨ヲ以  
 テ本位トスス所ノ國ニ於テハ其流通貨幣ノ貯  
 蓄ハ皆十分ノ估價アルスター、ルー、フロリン、  
 シル、ウルト、ドル、ラ、ル、ス、ル、ト、フル、ス、リ、ユ、ビ、ー、ス、等  
 ノ銀同ニテ成ル而メ其補助貨幣ノ如キハ則チ  
 我カ英國ニ於テ千エンゲ(細貨幣俗ニ釣錢ト云フ)  
 フト名ツクルモノナル而已  
 千八百七十年ニ於テ日耳曼ノ貨幣ノ制ハ左ノ  
 如クナリキ

銀本位

銀貨

十分ノ價アリ且法貨ナリ

金貨

十分ノ價アレ氏法貨ニ非ス

銀貨

估價低位ニシテ且ツ通用制限アリ

此他銅貨アリ

金貨本位、金銀貨兩種本位、銀貨本位、等ノ制度ヲ區別シ各其流通上ニアル金銀貨幣ノ割合ヲ察表スレハ蓋シ其置テ左ノ如クナルヘシ(但シ確定精細ナル計算ニアラス且ツ豊富ナル國々ニテ發行シタル銀行手形ハ則チ適良ノ貨幣トシテ此中ニ算入セリ)

金貨	法貨	百分ノ八十八
銀貨	補助貨	百分ノ十
銅貨		百分ノ貳

金貨ヲ以テ本位トナスノ國

金銀ヲ以テ本位トナスノ國

金貨	法貨	百分ノ六十
銀貨		百分ノ二十八
銀貨	補助貨	百分ノ十
銅貨		百分ノ二
銀貨本位ノ國		
銀貨	法貨	百分ノ七十五
金貨	通貨ナレバ法貨ニアラス	百分ノ十三

銀貸  
銅貸

補助貸

百分ノ十

百分ノ二

千八百七十年ニ於テ金銀貨幣ノ全額ハ左ノ如クナル可シ(但千八百七十年以降金貨凡ソ五十萬磅ノ増加アリ)

金貨及ヒ金地金

七億磅

銀貸及ヒ銀地金

六億五千万磅

千八百七十年合計

拾三億五千万

而シテ當時ニ於テ之レヲ各國ニ分配スレハ左ノ如クナル可シ

金  
十分ノ價ヲ有セル貨幣并ニ地金

銀  
十分ノ價ヲ有セル貨幣并ニ地金

銀  
格位補助貸

英國

壹億三千萬磅

一千五百萬磅

佛國

貳億六千萬磅

七千萬磅

一千四百萬磅

日耳曼

三千萬磅

六千萬磅

一千六百萬磅

白耳義

和蘭

葡萄牙

デンマルク

四千萬磅

四千五百萬磅

壹千萬磅

ハウエーレン及ヒ  
スウチツツルラント

此他ノ歐州

諸國并ニ國

債アル諸國

歐州ノ合計

合衆國

自他亞米利加諸

國殖民地并ニ一般

散布セルモノ

六千萬磅

三千萬磅

貳千五百萬磅

五億貳千萬磅

貳億〇五百萬磅

八千萬磅

三千萬磅

五百萬磅

壹億四千萬磅

五千萬磅

壹千萬磅

支那印度  
及ニ東邦

壹千萬磅

貳億五千萬磅

四千萬磅

諸國

千八百七十年以降

五千萬磅

不明

不明

合計七億五千萬磅

五億〇五百萬磅

壹億四千五百萬磅

右ノ表ニ掲クル所ノモノハ此本類ノ考覈ニ就  
テ十分ノ地位ニ示ルナリ蓋シ此ニ緊要トナス  
モノハ十分ノ債位ヲ有セル銀貨五億〇五百萬  
ニ関ス而シテ向後其維持ヲ全フシ得ル乎否ニ

閉シ且ツ現今始マル所ノ銀貨廢止ノ形状ヲ以  
 テ之レヲ見レハ其變化ヲ被ラサルヲ得サル乎  
 否ニ関シ且ツ其代價下落ヲ来スカ否ニ關シ  
 且ツ此上其價位ヲ低フスルノ避ラ可ラサル乎  
 否ニ關スルナリ

右ノ表ニ掲ケタル際案ハ近頃發兌スル著  
 書中特ニ日耳曼發兌ニシテ專ラ其鑄造シ  
 タル貨幣ノ一ニ基スル所ノ著書ト或ハ符  
 合セサルモノアラシ蓋シ萬國交通上貧國  
 ニ於テモ巨大ノ金銀貨幣ヲ保有シ若クハ

貯藏セルヲ記憶セサル可ラス(依令ハ魯  
 西亞ノ如キ現時金貨貳千萬乃至三千萬磅  
 ヲ保有セリ)近頃日耳曼政府ノ發行セル報  
 告書ニハ成丈ケ其國是ヲ計ラ措置セシモ  
 ノニシテ乃チ現今日耳曼國內ニ在ラ無用  
 ニ属スル所ノ銀貨ハ獨リ貳千貳百萬磅ナ  
 ルヲ弁白セリ此數額ニ藉リテ千八百七十  
 年以前ハ其當時ニ在ラハ六千  
 萬磅以下ナリシヲ想像セシム然リト虽凡  
 曾テ第一ニ亨魯西亞銀行ハムホルグ及ヒ

此他ノ諸銀行ハ其卓見ヲ逞フシ好機ニ乘  
 シテ其貯蓄ノ銀塊ヲ賣捌キタリ第二ニ前  
 ニ日耳曼ノ内ニ流通セル銀貨幣ノ中五フ  
 ラング銀佛貸和蘭及ヒ奧地利ノフロリン  
 ス銀此他數種ノ外國貨幣數百萬磅アリシ  
 モ其通用ヲ禁シテ之レヲ國內ヨリ驅逐シ  
 尽セリ第三ニ銀貸通用制限ノ發行ニ因テ  
 日耳曼國ハ則チ猶ホ賣捌ク可キ銀貸三千  
 萬磅或ハ其以上ヲ有スルコトヲ見出ス可シ  
 而シテ又此ニ載ヤサル可ラサルコトアリ則

チ該表ニ掲ケタル補助銀貸ノ彙算ハ其一  
 般ノ報告ト相符合セサルモノアリ何トナ  
 レハ各國ニ於テ補助ノ為ニスル低位貸  
 幣ノ始マル所ノ平均ニ異同アレハナリ及  
 令ハ英國ノ補助銀貸ハ五シリング片ニ  
 始マリ佛國ハ貳フラン片ヲ以テ始メト  
 ス而シテ日耳曼ノ如キハ前ニハ六ベンス  
 ノ小貸ニテ一ラ十今ノ價位ヲ有セル銀  
 貸ナリキ故ニ余ハ之レヲ差別シテ補助銀  
 貸ノ欄内ニ於テ其補助貸トシテ活用スル

ヲ要スルト思惟スヘキ所ノ最大ノ教額ヲ  
 掲ケタリ蓋シ余カ爰ニ此註解ヲ掲クル所  
 以ノモ、一般銀貨ノ教額上ニ於テ喋々  
 スル所ノ説ト差違アル所ヲ辨明センカ為  
 メナリ或ハ徒ニ金貨本位ヲ主張スル所ノ  
 頑固者ハ乃チ其主論ノ都合ヲ虞リテ當今  
 存在シ且ツ此項産出セシ銀量ノ際算ヲサ  
 フセリ故ニ其際算ハ大ニ實際ニ背違セサ  
 ル可ラス然リト虽氏余カ際算ノ如キハ其  
 適實ナルヲ証明スルニ足ラン

表上ニ因テ考覈シ得ヘキ一般ノ銀價ハ則チ同  
 等ヲ維持スルヲ得タリ何トナレハ宇内ヲ別  
 ツテ三種ノ貨幣本位制度トナスト虽氏其三種  
 ノ區別アルニ拘ハラス何レノ國ニ於テモ金銀  
 ノ使用即チ需要ヲ同様ニ保ツテ毫モ不平均ア  
 ラサリレナレハナリ然リト虽氏今ヤ日耳曼ハ  
 其金銀需用ノ平均ヲ顛倒シ銀ノ需求者ナラス  
 シテ銀ノ賣人ニシテ此時ニ當ツテ此關係ハ  
 果シテ自他ノ萬國ニ向テ如何ナル影響ヲ起ス  
 可キ乎

我英國人民ニ取リテハ若シ姑ク印度ヲ論外ニ  
 閣カハ先ツ厘毛タモ之レニ關係ナキモノ、如  
 シ何トナレバ日耳曼ナリ其銀ヲ英國ニ流通セ  
 シメンカ為メニ賣捌クヲ能ハサレハナリ又々  
 我カ金貨ヲ得ント欲スルモ英國ニ須要ナル他  
 ノ物品ヲ以テ償フニ非レハ能ハサレハナリ故  
 ニ獨リ交換上ノ一問題ニ就テ我輩英國人民ハ  
 更ニ損害ヲ被ムル所ナシ(仮令後トニテ一般ノ  
 代價ニ就テ損害ヲ被ムルヲアルトモ是レ他ノ  
 事件ニ屬ス此ニ因テ之レヲ觀レハ日耳曼及

其他ノ國々ニ於テ更ニ金貨本位ノ制ヲ採用ス  
 ルノ事實ハ稍我カ貨幣制度ノ美ナルヲ慕ヘル  
 モノナリト我輩ハ思考スルナリ  
 然リト虽尺金銀兩種ヲ以テ本位トナスノ國ニ  
 在テハ其關係ハ大ニ我英國ノ如キ金ヲ以テ本  
 位トナスノ國ト異ナル所アリ或ル經濟家等及  
 ニ貨幣經濟ノ新說ヲ唱フル日耳曼ノ博士等ハ  
 仮令日耳曼國ニ金貨本位ノ制ヲ採用スルモ自  
 他ノ國々ハ尚各自ノ制度ヲ固守セント欲セ  
 得ヘカラナルニ非スト自信セリ他ノ經濟者



等中ニモ余ハ七年前ハ其然ル可ラサルヲ指明セリ何トナレハ後令ハ若シ佛蘭西カ此時ニ當リテ依然トシテ金銀兩種本位ノ制タラハ日耳曼及ヒ其他ノ國々ハ蓋シ必ス其銀塊ヲ佛國ニ瀾漫シテ金塊ヲ取り去ル可ケレハナリ故ニ佛蘭西ハ此計策中ニ陥ランコトヲ憂フルヤ自尋義 佛西及ヒト共ニ已ニ余儀ナク五フラン太里貨幣本位ノト共ニ已ニ余儀ナク五フランノ銀貨鑄造ヲ限制シテ若シ實際銀貨使用ヲ廢止セント欲スル時ハ忽チ之レヲ行ヒ得ヘキノ度位ニ居ラシメタリ其制限ヲ設ケタルモノハ

獨リ此目的ノミニアラサルナリ何トナレハ佛蘭西ハ漸ク其銀塊ヲ他國ニ賣捌クコトヲ勉メサルヲ得サレハナリ銀價ノ下落急流ノ場合ニ於テハ佛國ハ其現時ノ貯蓄ヲ法債トシテ維持スルヲ得サレハナリ且ツ之レヲ釣銭トナシテ流用セシメント欲スルモ補助貨ノ供給既ニ充足ナレハ到底行ハル可キニ非サレハナリ加之ナラス歐洲ノ銀貨本位ノ國ニ在リテハ最モ不幸ノ形勢アリ此等ノ國ハ金貨ノ所有全ク無ク或ヒハ有ルモ甚ダ少シ而シテ其銀貨ハ幣

自他萬國ノ容レサル所トナルノミナラス之  
 レヲ以テ到底金貨ヲ得難キノ勢ニ至ラシム可  
 ケレハナリ此際當チ其法債タル銀円ヲ釣銭  
 トシテ使用セント欲スルトモ其數補助貨ノ為  
 メニハ過多ナルカ故ニ行ハレス及令現在補助  
 貨ノ設ケアラサルノ國タリトモ其數巨大ニシ  
 テ釣銭トシテ改用スルヲ能ハサルナリ然リ而  
 シテ余ハ又進ンテ補助貨ノ事ニ論及セン何ト  
 ナレハ我英國人民ノ内或モハ「何故ニ此等ノ國  
 ハ我英國ノ小銀貨ニ於ケルカ如ク其銀貨ヲ使

用スルヲ為サ、ル乎ト云フモノアラシク慮レ  
 ハナリ蓋シ此<sup>疑</sup>ヲ<sup>抱</sup>ノ輩ノ如キハ我國金  
 貨本位ノ源制アルヲ以テ銀貨ハ低位補助貨ト  
 ナリ且ツ狹短ノ制限ノ外流通シ能ハサルヲ  
 知ラサルナリ故ニ銀貨ヲ以テ本位トナスノ國  
 ニ列スル和蘭ノ如キハ近頃日耳曼ニ於テ貨幣  
 制度ノ変革アラントスルノ勢アルヲ觀テ以テ  
 止ムヲ得ス忽チ其銀貨ノ鑄造ヲ止メタリ而シ  
 テ其鑄造セル所ノ金貨太タ少キモ復タ顧ミス  
 其今日上ノ貿易ハ尽ク金貨ノ動定トナレテ實

一 和蘭ハ此事件ニ就テハ淵ニ臨ムノ危嶮ニ居  
 レリ獨リ和蘭ノミナラス自他銀貨本ノ國ハ皆  
 然リ○此一般ノ論議ノ相平均シテ未タ何レニ  
 傾クヲ決セサルニ當リ日耳曼國ハ千八百七十  
 六年一月ニ於テ金貨本位ヲ布告シタリ然リト  
 虽凡金貨ヲ以テ銀貨ニ交換スルノ事ニ至テハ  
 其進歩徐々トシテ現在其銀塊賣却ヲ急ニセサ  
 ルナリ蓋シ日耳曼ノ經濟者ハ自為ノ災ニ因テ  
 低價セラル銀貨ヲシテ暫ク依然人民間ニ流通セ  
 シノ得ヘキヲ想像シ復タ以テ金貨カ流通ニ入

ル乎否忽チ濫出ノ結果ヲナスノ外他ヤラス且  
 ツ仮令銀貨ヲ貯蓄シテ利足ノ損失ヲ顧ミサル  
 モ歐洲ノ銀貨貳億磅ヲ廢止セサルヲ得サ<sup>ル</sup>所ノ  
 危急ハ帝ニ避ケ難キノミナラス之ヲ救フ<sup>ル</sup>ナ  
 ヘモ能ハサルニ至ルノ理ハ未タ推究セサルナ  
 ラン  
 果シテ然ラハ歐洲ニ於テ流通上ニ有餘ノ銀貨  
 貳億磅ヲ以テ何ヲカナサント欲スト問フモノ  
 アルニ當リ或ハ之ニ答フモノアラントス乃  
 チ以テ鉢厨具庖丁肉叉等ノ如キモノヲ作ルヘ

シト若シ人民此目的ノ為メニ方今<sup>用</sup>ニ所ノ外  
 尚若子ノ銀ヲ用ヒン<sup>用</sup>ヲ要セハ則チ當今ノ代  
 價ヲ償ハ、量ノ多少唯之レニ應スベシ而カモ  
 其價大ニ衰ヘ五割ノ下落ニ至ル時ニ於テ始  
 メテ之レヲ廣ク器物ニ造ルニ用ユル<sup>用</sup>ヲ得ヘ  
 ケン然リト虽<sup>用</sup>氏<sup>用</sup>及令其時ニ至ルモ其量ハ遙カ  
 ニ遠ク貳億磅ノ巨額ニ達セサル可キナリ

然ルトキハ又或ハ云フモノアラン「萬國交際上  
 諸貧國ニ輸シテ之レヲ貨幣トシテ用ヒシメヨ」  
 ト嗚呼是レ何ノ謂ソヤ彼貧國ハ之レニ酬<sup>用</sup>フニ

一片ノ金塊ヲ与ヘ得ル乎否ニ拘ハラス國債<sup>用</sup>ア  
 ルノ國ニ在リテハ乃チ此書ノ第一章ニ於テ論  
 セシカ如ク貿易ノ平均<sup>用</sup>回復スルニアラサレ  
 ハ一行ノ銀一塊ノ金モ受納シ能ハサルナリ此  
 等ノ國ノ如キハ及令更ニ國債ヲ募ルモ銀ヲ受  
 納スル<sup>用</sup>能ハサル可シ曾テ二年<sup>前</sup>幸魯西亞國ハ  
 澳大利政府ト約シテ相當ノ相場ヲ以テ銀貨ヲ  
 貸与セン<sup>用</sup>ヲ勉メタリキ而シテ此談判已ニ整  
 頓セシニ臨ンテ澳大利政府ハ忽チ悟ル所アリ  
 若シ何ナル低價ニテ銀貨ヲ受取ルモ<sup>直</sup>莫ニ又一

層之レヨリ低價ニテ之ヲ輸出セサル可ラサル  
一ラ故ニ此事破談トナレリ然リ而シテ今日外  
債アルノ國其貿易ノ平均ヲ回復スルノ時ニ至  
テハ則チ金貨ヲ要求スルノ権理ヲ有ス可キハ  
讀者ノ必ス了明スル所ナラン何トナレハ若シ  
太夕低下ノ相庭ニテ銀ヲ受取ル成ハ其旧價ニ  
基キラ鑄造シタル貨幣ヲ維持シ能ハサルハ必  
然ナレハナリ

鬼頭悌次郎譯

四

然ラハ支那印度ノ兩國ハ向ケ此銀貨ヲ輸送ス  
ヘシ西國ニテハ若干ノ額位ヲ需求スヘシト云  
ハシカスル説ヲ主張スル人ハ所謂其ノ額位ノ  
果シテ幾多ナルヤ其實數ハ蓋シ之レヲ知ラス  
シテ斯ル説ヲ唱フルモノナリ又印度ハ銀貨ヲ  
輸送シタリシトテ之レニ代ユルニ金貨ヲ以テ  
シアタハザル一ハ暫ク措テ論セザルモ此上印  
度カ貨幣ヲ取ルト得サルトハ獨リ貿易ノ權衡  
ニヨルモノニシテ縱令ニ改州ニテ銀貨ノ安キ  
ニセヨ此權衡ニヨルニアラザレハ更ニ一封建  
タモ多ク取ル一アタワズ夫レ印度ノ吸入セル  
所ノ銀貨ハ巨額ハ則チ巨額ナリ仮令ニ千八百  
年代貿易ノ勢改州ノ為ニ利アル一ヲ致ス僅

一兩回アリシト虽モ然レ其ノ收得セシ銀額  
ハ亦同ヨリ限リアリタリ  
試ニ見ヨ毎歲印度ハ向ケ輸送スル所ノ銀貨千  
八百五拾年ヨリ千八百六拾六年ノ間ニアツテ  
ハ最モ巨額ノモノニシテ一時ハ年々ノ輸送高  
千五百万封度ニ及ヒシトアリシト虽モ其間平  
均ヲ算スレハ七百万封度ニ過ギス然リ而シテ  
右様巨額ヲ輸送スルハ固ヨリ實ニ例外ニ出ル  
モノニシテ當時改州ニテ金貨増加シ之レニ加  
フルニ世上一般ニ通商盛シニ行ハレ印度ニ於  
テモ亦銀ノ増加ヲ致シ商賣ノ昌ンナルヲ得  
タリ且恰モ此時ニアタリ或ハ土民蜂起セシニ  
由リ或ハ鉄道其他ノ工業ヲ起セシニ由リ我政

府ハ之レカ為メニ巨額ノ貨幣ヲ輸送シ加フル  
ニ米利堅ニテ棉花凶歉ニ係リシヲ以テ印度ハ  
之レカ為ニ大ニ益ヲ得シトアリ自此其後印度  
ニ輸送スル銀額ハ甚ク減少シ且ツ今日ニ至テ  
ハ曩キニ英國ヨリ供給セシ所ノ興業金ハ年々  
利息ヲ生ズルニ及バリ  
蓋シ世上一般ニハ知ラレザルトナガラモ之レ  
ヨリ前キ獨逸政府カ墺國ハ銀貨貸与ノトヲ約  
セシニ遂ニ事成ラスシテ我印度政府ヲシテ銀  
貨千五百万封度ノ巨額ヲ定價ニテ買取ラシメ  
ントニカヲ盡セリ之レニ依テ免ニ角此商議ニ  
預ツカラザルヲ得ザルノ勢ヒナリシガ我政府  
ハ當時印度トノ貿易ノ權衡ニテハ之レヲ捨テ



、尚他ニ良策ノア  
世ノ笑トモナルヘキ談判ニ乘ラザリキ  
允テ何レノ國トナク輸出ノ輸入ニ踰ユル  
シキハ貨幣必ラス増加ス貨幣愈増加スレハ  
物價愈昇騰シ輸出漸ク止リテ輸入益盛ニナリ  
是理ノ最モ賄易キモノナリ故ニ世界甲地ニ  
テハ獨り銀貨ヲ使用シ乙地ニテハ獨り金貨ヲ  
使用スルハ出来ザルモノニシテ到底貿易行  
ハルベカラザルナリ

夫ノ印度ノ人ノ「ヤングルス」手足ニ用ユル飾物  
ノ儀ヲ好ムガ如キハ則チ歐州人ノ食ヒ并ニ肉  
又ヲ好ムガ如クシテ亦既ニ陳述セシ所ノ論ヲ  
以テ之レヲ推スニ足レリ此人々ガ之レヲ欲ス

ルモ固ヨリ限リテ其要スル丈ニ止マラザ  
ルヲ得ス故ニ銀貨下落スルト雖モ剩餘ノ銀ヲ  
シテ其用ヲ得セシムルハ復多キニ至ラザルベ  
シ加之銀價下落スレバ則チ今ノ貨幣モ亦其價  
格ヲ減シ隨テ「ヤングルス」ノ品價ヲ落スニ至ル  
亦勢ノ免レザル所ナリ  
仮令ヒ貿易ノ真理ニ戻ルト雖モ茲ニ論柄トナ  
サンガ為メ假リニ印度ト東洋諸國トニテ其通  
貨ト「ヤングルス」製造ノ為メ年々凡ソ六百萬封  
度ヲ要求スルト定メシ然ルニ毎年銀坑ヨリ産  
出スル高少量ニ積リテモ千六百萬封度ナリ其  
中八百萬封度ハ合衆國ヨリ出ス所ニ係ハル又  
或ル識者ノ説ニ依リ年々ノ産出高合計貳千

七  
歳  
省

萬封度ノ巨額ニ及ト云テ而シテ曩キニハ歐  
米其外東洋諸國互ニ之レヲ分取セシト虫氏方  
今ニ至テハ歐洲ハ唯之レヲ購求セザル而已ナ  
ラス將ニ貳億萬封度ヲ賣出セントス此巨額ヲ  
貳拾年間無利息ニテ蓄ヒ置クモ年々貳千六百  
萬封度ヲ東洋ニ供給スルニ足ルモノナリ然ル  
ニ東洋毎年ノ需求高ハ僅ニ六百萬封度ニ過キ  
ス然レバ則チ印度并ニ東洋諸國ノ需求スル所  
ハ唯々右額百分ノ幾箇ニ止マルノミ且巨多ノ  
銀印度ハ行クトキハルピ印度ニテ用ユル貨  
幣ノ名稱ノ價格ハ尚一層下落スバシ假令ニ巨  
多ノ銀更ニ印度ニ行カザルモ印度ノ通貨ハ彼  
我交通ノ價格ヲ失ヒザルヲ得ス

是故ニ印度人ガ一方ニ偏シテ銀貨ヲ好ムノ情  
如何ニ切ナリト虫モ恰モ日耳曼荷蘭ニ於ケル  
ガ如ク勢遂ニ金ヲ用キサルヲ得サルニ至ルハ  
キナリ果シテ然ラハ我政府ハ金貨ヲ合法貨幣  
ト定メ隨テ銀行切手ヲ發行スルニ由リ忽チ現  
今ノ銀本位ヲ地ニ落スニ至ラシメン果シテ此  
ノ如クンバ改創ニアル所ノ貳億萬封度ト新ニ  
産出スルモノト印度ノ貳億五千萬封度ノ銀ハ  
果シテ何等ノ成果ヲ得可キヤ  
夫レ銀貨ノ下落甚シキニ由リ銀坑ノ産出高減  
少スバシトノ説ノ如キハ獨リ以テ貧鑛ヲ論ス  
ベキノミ然リ而シテ現今ノ産出ハ大抵富鑛ヨ  
リ生スル所ニ係ハモ子レバ其價值ノ下落

甚シト虽氏亦能ク其費日ヲ償フニ足ル實ニ或  
ル銀抗ノ如キハ産出入費量目壹「オンス」ニ付僅  
ニ拾八「ペンス」ヲ以テ足レリトス且ツ物品ノ價  
格凡テ下落スルニ至レハ隨テ貧鑛ヨリ産出ス  
ルノ入費モ亦減少スルハ勢ノ常ナリ故ニ亦能  
ク出入相償フテ損失ナカル可シ且夫レ産出高  
減少スルヲ以テ説ヲ立ツル亦甚タ弱キニ非ス  
ヤ蓋シ産出減少スルノ説ハ銀價下落甚フシテ  
貨幣トシテ流通スル「ト」ヲ得ザルニ至ル可シト  
假定スルニ由テ立ツモノナリ而シテ勢此ノ如  
キニ至ルハ吾人ノ悲歎ニ堪ハザル所ニシテ險  
ヲ冒シ危ヲ衝キテカヲ豫防ニ尽サ「ル」可ラザ  
ルナリ蓋シ若シ銀價ノ下落更ニ甚シキニ至ル

トキハ其禍害此レニシテ止マザレナリ其合法  
貨幣タル「ト」能ハザルハ勿論補助貨幣トシテ之  
レヲ維持スル亦難シトス  
夫レ英國ニ於テ貨幣鑄造ノ割合壹「オンス」ニ付  
六拾六「ペンス」ニシテ當時ノ市價ハ六拾壹「ペンス」  
ニナリキ故ニ政府ニ於テハ僅ニ五「ペンス」ニ即九  
歩ノ益ヲ得ルノミ是レヲ以テ貨幣質造人モ貳  
封度以下ノ仕拂ニ用ユル補助貨幣ヲ質造スル  
モ充分ナル利益ヲ得ル「ト」ナシ蓋シ其得ル所ハ  
其勞ニ報ユルニ足ラスシテ而シテ其事露顯ニ  
及ブ「テ」危難ヲ免ル「ル」能ハザレバナリ  
去レ「レ」當今ニテハ既ニ五拾三「ペンス」ニ半ニ下落  
セシカユヘ壹封度ニ付三「ペンス」ノ利益ヲ

歳省

生セリ此上尚下落ルハ造幣寮ノ極印ヲ  
模擬シ常ニ之レヲ所持スルハ甚タ容易ナル  
ユヘ同寮ニテ製スルモノト同一ノ金屬ヲ以テ  
貨幣ヲ贋造スルニ至リ金質異同ナキヲ以テ真  
贋監定ノ道ナカルベシ如斯ニ至レハ品種ノ粗  
悪ナル金屬ヲ用キシテ以テ罰ヲ加フルナク  
シテ唯英國女王ノ極印ヲ模擬セシテ以テ其罪  
ヲ罰セザルヲ得ス而シテ極印ノ真偽ヲ看出ス  
ルハ實ニ難シトス假リニ之レヲ看出スルノ容  
易ナリトスルモ今ノ贋造者ハ粗悪ノ金屬ヲ用  
ユルヲ以テ其事露頭シ易ク其罰ヲ受クルモ粗  
悪ノ金屬ヲ以テスルノ故ニ非スマ果シテ然レ  
ハ造幣寮鑄造ノモノト同質ノ金屬ヲ用ユル特

モ亦同シク其罰ヲ受クルナラントスルハ亦  
奇ト謂ハザルヲ得ザルナリ  
然レモ法律ニ照ラシテ之レヲ論ズレバ貨幣鑄  
造ノ權ハ國王ノ特握ニ係ハルモノナルヲ以テ  
贋造ヲ以テ罪科ト做シ之レヲ犯ス者ヲ罰スル  
ハ固ヨリ總テ均シク実行スルヲ得ベシト雖モ  
既ニ贋造ハ利益ノアルアリテ人心ノ貪情ヲ誘  
フトキハ刑律モ亦能ク此罪案ヲ停止スルノ難  
カルベシ故ニ此危險ノ及フ所實ニ無量ニシテ  
之レガ為ノ遂ニ銀貨ハ使用ノ途ヲ失シ其当今  
ノ形ヲ交換セザルベカラザルニ至ラン假令  
ヒ銀貨ノ量目ヲ増ストモ(其量目ノ重キカ為ノ  
世間ノ使用上ニ於テ)常ニ苦情少カラザルニモ

大蔵省

拘ハラズ)矢張り銀價ノ下落ハ際涯ナカルベシ  
叔テ斯ク迄ニ論及シタルニ依テ最早銀價下落  
ノ避クベカラザルモノナルヲ觀察スルニ足  
ルベシ是ニ由テ之レヲ視レハ現今銀貨ヲ所有  
スル國々ニテ是非トモ免ルベカラザル損失ハ  
甚ク重大ナルモノ、如クナルベシ去リナカラ  
他國ノ損失ハ只僅少ノモノナリ仮令ヒハ日耳  
曼ノ如キハ尚販賣スベキモノ三千萬封度アリ  
然ルニ同國ニ於テ前五ケ年ノ間ニ佛國ヨリ貨  
幣其外ニテ貳億五千萬封度ノ高ヲ受取リタル  
カユヘニ若シ此ノ三千萬封度ヲ肉義或ハ食ヒ  
ニ製シテ相互ニ贈品トナシ或ハ又純銀ニテ高  
サ百ロト直經拾ロトトノ旌捷柱ヲ築クトモ

其損失ヲ償フニ足ルモノナリ然レモ又其外ノ  
國々ニ至テハ今所謂貳億五千萬封度ヲ受取ラ  
ザルガユヘニ其損失ハ一層甚シキモノナリ仮  
令ヒハ荷蘭ハ世ニ富國ト稱セラル、モノナリ  
故ニ若シ荷蘭ガ切迫ノ場合ニ至レハ金貨ヲ得  
ル為ニ四百萬乃至五百萬封度ノ損失ヲ受クベ  
シ然レモ印度ノ如キハ世上富國ノ部ニアラザ  
レハ何分印度ノ貳億五千萬封度ノ銀貨ヲ引取  
リテ之レニ代ユルニ金貨ヲ供スルモノアラシ  
カ此一問ハ銀價下落ノ為メ依テ起ル所ノ歳入  
上ノ損失ニ付印度ガ受クベキ所ノモノハ措置  
キテモ深思熟考セザルベカラザルモノナリ蓋  
シ仮令ヒ歳入上ノ損失ハ固ヨリ大且ツ重ナリ

歳省

ト虽モ物價一齊ニ下落トキハ萬國更ニ大ナル損害ヲ蒙リ金ヲ分配スルトキハ我國モ亦其一部分ヲ出サハルヲ得ザルガ故ニ亦其損害ヲ受クルハ是レ勢ノ止ムヲ得ザルモノナリ而シテ方今ノ事ノ如キハ或ハ此ニ止マラザラントス

夫レ世界中負債フル國々ニテ紙幣引換ニハ正金壹億五千萬封度ヲ要スル一前文既ニ陳述セリ然リ而シテ千八百拾六年外國猶銀貨ヲ可トスル時英國ハ獨リ金貨ヲ以テ本位貨幣ト定メ三年有餘ノ星霜ヲ經テ漸ク充分ノ金貨ヲ得タリ夫レ當時金貨ノ高ハ僅少ニシテ方今ハ則固ヨ

リ大ニ増加セリ然レハ尔来大ニ人口ノ増殖セシト通商ノ進歩盛シナルヲ以テ相平均スルニ足レリ然リ而シテ現今金ヲ用キントスル者四大國アリ而シテ此四大國皆其銀貨ヲ廢止セント欲セザルモノナシ然レハ則チ之レヲナスノ難キ果シテ其レ如何ンゾヤ又能ク之レヲ凌ガントスルニハ果シテ發許ノ勢力ヲ要スベキカ然レハ斯ル疑問ハ未タ只一小部分ノモノニシテ實ニ世界中銀貨引并ニ紙幣償却ノタメ金貨ヲ要スル高即チ左如シ

- 全世界ニ流布スレ所ノ合法貨幣現額
- 七億五千萬封度
- 金貨并ニ銀行地金ニテ
- 貳億五千五百萬封度
- 歐洲其外ノ合法銀貨幣ニテ

貳億五千萬封度 東洋諸國ノ合法銀貨幣ニテ  
合計拾貳億五千五百萬封度

外

壹億四千五百萬封度 補助銀貨幣

此ノ中ヨリ

若シ五億五百萬封度ノ合法銀貨幣ヲ廢  
スレハ即チ殘額左ノ通り

七億五千萬封度 合法金貨幣

若シ此ノ中ヨリ紙幣償却ノ為ノ壹億五  
千萬封度ヲ引去ルハ殘額則チ左ノ通

リ

六億萬封度

即チ前高拾貳億五千五百萬封度ノ中減

少シテ他ノ諸國ノ手ニ殘ルモノ

此計算ハ銀價下落ノ實兆ヲ甚ク重大ニ記載ス  
ルガ如ク想視セラレハシト雖モ其實際ニ至リ  
テハ更ニ甚シキモノアリ何トナレハ右ノ外更  
ニ壹億四千五百萬封度ノ補助銀貨猶ホ交易ノ  
間ニ流通スルアルヲ以テ銀貨ノ下落ハ必ラス  
莫大ノ損失ヲ其所持者ニ釀スベキヲ以テナリ  
且ツ目今英佛獨蘭白等ノ如キ富有ナル文明國  
ヨリ發行スル所ノ貨幣交換ノ銀行紙幣ヲ大約  
壹億三千五百萬封度ト定メ其他ノ國ノ濫リニ  
發行セル銀行紙幣ヲ四億八千萬封度ト算スル  
ハ右富國ノ銀行紙幣ハ其交換ノ貨位減少ス  
ルニ付キ尢ソ三分ノ壹ニ減シ其他諸國ノ紙幣

ハ貳分ノ壹ニ減スルニ至  
ベシ  
現今流通貨幣ノ全額ハ次表ノ如ク推定シ得

七億五千萬封度 合法金貨幣

五億五百萬封度 合法銀貨幣

壹億四千五百萬封度 補助銀貨幣

壹億三千五百萬封度 富國銀行紙幣

四億八千萬封度 過度ニ発行セル銀行紙幣

合計貳拾億千五百萬封度

去リナガラ将来實用ニ供スベキ合法貨幣ハ即  
チ左ノ如クナルベシ

七億五千萬封度 合法金貨幣

未詳 補助銀貨幣

九千萬封度 富國銀行紙幣

貳億四千萬封度 過度ニ発行セル銀行紙幣

合計拾億八千萬封度

銀貨下落シ其貨幣ノ形狀ヲ変ズルノ實際ニ於  
テハ如此ク酷烈ナラザルベカラス良シヤ貨物  
分布ノ法ニ於テハ決シテ如此ク酷烈ニ至ルベ  
キノ理由ナクシテ印度ニテハ本位ノ銀貨ヲ廢  
止スベキ程ニモ至ラズ銀貨ヲ依然流通セシム  
ルノ出来得ヘク銀行紙幣モ更ニ発行シ得ハ  
シト雖モ猶ホ通貨ノ如此キ減少ハ物價商業及  
ヒ開化ノ上ニ如何ナル弊害ヲ發出スルヤノ疑  
問ハ決シテ免ルベカラザルナリ此レヲ講究ス  
ルハ既ニ余ガ説キ示セシ如ク銀貨下落淵原論

大義



ノ眼目ナリ何トナレバ此被害ハ銀貨ヲ以テ本位トセル國民カ一端不幸ニ罹リテ其所持ノ銀貨尽ク何レハカ消失セルノ際會計上ニ於テ受クベキ損失ヨリモ遙カニ重大ノ事件ナレバナリ

此效驗ノ利害ハ如何程ナランカヲ判定セシムルハ全ク反對ノ景況ヲ彰ハシタル千八百四拾八年ヨリ千八百七拾二年マデ諸物價ノ騰貴セシト商業ノ擴張セシ實例ヲ以テ足レリトス千八百四十八年以來全世界ノ正金ノ沿革即チ左ノ如シ

四億萬封度

金貨并ニ金地金

六億萬封度

銀貨并ニ銀地金

但シ補助貨幣モ此中ニアリ

合計拾億萬封度

右千八百四拾八年ノ合計高

三億五千萬封度

右千八百七拾五年マデ「ガルヌルニヤ」及ヒ「オーストラリア」ヨリ新ニ産出セシモノ其外寶器ヲ

除キ通貨ニ直シタル金貨幣ニテ

凡ソ五千萬封度

銀貨幣ニテ

合計拾億四千萬封度

右千八百七拾五年ノ合計高

即チ貳拾七年間四割ノ増額

又同年間世ノ文化益々進ミ隨テ通商ノ繁榮セシ一實ニ鮮少ナラス試ニ見ヨ千八百四十八年

歳省

ニ於ケル我海外ノ貿易高億六千五百萬封度  
ナリシカ千八百七拾三年ニ至リ已ニ六億八千  
貳百萬封度ニ上レリ隨テ其他諸國ノ貿易高モ  
之レニ準シテ増殖セリ  
又銀行事業ト云ヒ保險ト云ヒ製造ト云ヒ商業  
ト云ヒ人民ノ幸福ト云ヒ文化ノ進歩ト云フモ  
総テ此等ノ増益セシテ頗ル大ナリト云フバシ  
之レニ由テ之レヲ觀レハ如斯百般ノ事業上ニ  
於テ進歩ヲ起セシハ機械其外ノ發明ノ功多キ  
ニ依ルト云フバシ去リナガラ發明物中ノ重立  
タルモノ(仮令ヒハ蒸氣ノ如キモノ)ハ已ニ數年  
前ヨリシテ人々ノ知ル所トナリ利用セラレタ  
ルモノナリ

抑モ貨幣ハ製産若クハ消費ヲ目的トセル人々  
ノ勤勞ヲ獎勵セシムルカヲ備具セルモノユヘ  
器械等ノ利用上ニ於テ斯ル非常ノ進捗ヲ生セ  
シモノハ一ニ貨幣増殖ノ功ニ依ルモノトス且  
ツ物價ノ登貴及ヒ製産消費ノ活潑ハ貨幣ノ額  
増殖スルテニ基クテ証スルノ實例的然タル  
ニ付キ物價ノ動搖ハ現在セル貨幣ニ關係スル  
ノ直理ノ過誤ナキヲ確知スルナリ故ニ貨幣ノ  
増殖スルヤ勞職交通ノ特ニ生氣ヲ發スルノミ  
ナラス鐵道電信ノ如キ工業モ津々設立スルニ  
至ルナリ  
今茲ニ左ノ疑問ヲ生スバシ云ク千八百四十八  
年ヨリ千八百七十五年ヲ即チ二十七年間ニ

現時流通ノ通貨ニ四割ノ増加アリタルヨリシ  
テ商業ハ四倍ノ進歩ヲナシ目下ノ諸條約ハ此  
景狀ヨリシテ發起セル價格ヲ以テ取結ハレタ  
ルモノナルニ今俄カニ貨幣ノ全額減少シタラ  
シニハ如何ナル結果ヲ發生スバキヤモシ然ラ  
ハ前文ニ掲載シタル所ノ預算ノ如ク貳拾億千  
五百萬封度ヨリ拾億八千萬封度ニ減少セシ(即  
チ其減少ハ百ニ付百ノ割合)モノヲ蘭便ノ為メ  
ニ貳半ヨリ壹ニ減セシト大積リニスルトキハ  
其結果ハ前年貨幣ノ増殖セシ時ト全ク反對ノ  
形況ヲ現スベシ其形況必ス拾億四千萬封度ノ  
貨幣ヲ七億五千萬封度ニ減セシト同一ナラン  
且ツ千八百四十八年ヨリ千八百七十五年マデ

四割ノ高増殖セシハ二十七年間ニ於テ多少一  
定ノ割合ヲ以テ年々ニ發生セシトナリ然ルニ  
此回ノ如ク銀ノ減少一時ニ商業上ニ墜落セバ  
其弊害一層甚シカルバシ既ニ去數月前ヨリ銀  
價ノ俄カニ下落セシトテ回顧スレハ其弊害ノ  
來ルヤ急速ナルトテ豫知スルニ足ルモノナリ  
蓋シ一國ニ於テ一度金貨ヲ本位ニ定ムルトニ  
決スルトキハ其後必ラス金貨ヲ得若クハ金貨  
ヲ維持スルニ困難ナル景況ヲ見ルベシ斯クノ  
如クニシテ銀貨ヲ貳封度以下ノ拂ヒニ用ユル  
ノ制必ラス施行セラレ從前合法貨幣タリシ銀  
貨ノ巨額立テドコロニ不用ノモノトナラザル  
ベカラス嗚呼世界ヲシテ此  
擾ノ地ニ陷イレ

七  
後  
省

不測ノ難ニ苦マシムルモ果シテ誰ノ所為ゾ  
ヤ豈ニ其責ノハ金貨本位ヲ撰擇スル無算ノ黨  
与ニ歸セズシテ他ニ何人ヲカ咎メシヤ  
斯クマデ此主旨ニ付論及シタルトモ金銀兩  
本位ノ一ニ對シテ金貨本位ノ事ヲ再論スルハ  
余ノ希望スル所ニアラス實ニ此爭議ニ付テハ  
互ニ持論ヲ主張シ相ヒ称シテ頑固黨ト為スノ  
極度ニ達セリ然リ而シテ我國ノ金貨本位ヲ主  
張スル黨共ハ近來日耳曼及ヒ其他ノ諸國ノ通  
論ガ金貨本位ヲ好シトスルノ方向ナルヲ見  
テ満足スベシ故ニ余ハ之レヲ駁撃スルノ一例  
ヲ讀者ノ目前ニ露呈スルノ事ヲ自ラ許ルスナ  
リ

夫レ銀貨ハ其形ノ大ナルト量目ノ重キガ為メ  
其運送費ノ少ナカラザルユハ苦情絶ヘスシテ  
既ニ印度ノ官吏等モ不平ヲ鳴ラシタリシガ方  
今ニ至テハ蒸氣其外鉄道等ノ開ケタルヨリシ  
テ此不平モ止ミタリ故ニ此等人民ノ流通スル  
貨幣ノ量目ハ補助銀貨ト全一ノモノナリ然レ  
モ金貨本位ヲ好シトスルモノ、主トシテ論ス  
ル所ハ即チ左ノ如シ  
今茲ニ債主ト負債主トアツテ債主ヨリ負債主  
ニ向テ約シタル弁償金其高アランニ金貨ニテ  
モ銀貨ニテモ負債主ノ望ミニ隨ヒ何レニテ拂  
方ヲ為スモ勝手ナルトキハ負債主ハ其身ニ取  
リ最モ廉價ニテ購買スベシモノヲ選シテ債主

ニ弁償スベシ債主ハ之レガ為ノ損失ヲ引受ク  
ベシト

然レモ最前條約ヲ結フ時ニアタリ金銀何レニ  
テ貸渡スルヲ兼テ約セサルトキハ債主ハ其望  
ノモノヲ以テ負債主ニ附與スベキカユヘニ其  
場合ニアタリ彼是請求スルヲアタハサル乎否  
ヲ論セス又負債主ハ其返金前々様處分スベキ  
乎否ヲ論セス斯ル論說ハ實地上ニ於テモ又論  
理上ニ於テモ全ク真正ナラザルヲ示スベシ  
既ニ前條ニ説示セシ(拾八枚ノ第一篇ヲ見ヨ)目  
今各種取引ノ決算ノ方法ヲ通覽スルモノハ茲  
ニ記セルガ如キ債主ガ約定ヲ交換スルヲ並ニ  
資本ヲ卸シ商品ヲ捌リ等ニ於テ必ラスシモ現

金ヲ用ユルヲナリ帳面切手若クハ其外ノ方法  
ヲ用ユルヲ知ルベシ此等ノ如キ巨大ノ結構  
ハ皆ナ均價ヲ相ヒ償濟センガ為ニ設立スル  
モノナリ此際ニ於テ唯ダニ通貨ヲ用ユベキハ  
此等ノ方法ヲ以テ濟弁シガタキ所ヲ償フニ過  
ギザルナリ斯ク此通貨カ多數ノ負債ヲ濟弁ス  
ルニ於テ物價高低ノ根基トナルベシ之レ則チ  
佛語ニ所謂「スーノイレイル」ノ問題ナリ  
恰モ金銀両本位ノ場合ニ於ケルガ如ク金一銀  
十五半ト金銀ノ割合定マルニ於テハ(此ノ割合  
ノ正當ナルヲ定ムルハ實際上ニ依ルカ又ハ  
法律ヲ以テ確定スルカ)金銀ノ中何レヲ成貨ト  
ナスモ金ト銀トノ間ニ於テ銖銜ノ不權衡アリ

ト駁スルモノハアラザルリ  
金又ハ銀ニテ借り得タル負債ハ之レヲ返却ス  
ルニ當リテハ双方共ニ同様ノ金額ヲ返濟セサ  
ルヤカラス且ツ實際上法庭ニ於テ諸條約ノ清  
算ハ現金ヲ用ユルナク手形又ハ手形同様ノ  
種類ヲ以テ其勘定ヲ為スナリ故ニ合法貨幣ナ  
ル各辭ハ一箇ノ爭論ヲ靜定スルノ情願ヲ表示  
センカ為ノニ一方ノ者が金貨又ハ英國銀行ノ  
紙幣ヲ現時ノ流通ヨリ一時引キ去リテ之レヲ  
一方ノ相手へ差シ出スノ場合ニ始マリタル言  
葉ナルナリ  
債主ト負債主トノ間ニ取結ヒタル條約ノ期未  
満々サルニ若シ政府ニ於テ金本位ヲ銀本位ニ

變シ又銀本位ヲ金本位ニ變スルナラ布告スル  
アレハ負債主ハ此改定ノ合法貨幣ヲ以テ債主  
へ返弁セザルバカラス  
又如何ナル債主ニテモ金貨又ハ銀貨ヲ以テ正  
金ニテ負債主ヨリ返金ヲ受取ルニ際シ流通ヨ  
リ之レヲ引戻スナラ欲セハ之レヲ如何ナル使  
ヒ道エモ變換シ又ハ債主一箇ニ取リテハ十分  
ノ權義アルニモセヨ貿易ノ定律ニ反シタルナ  
ラモ為シ行フベシ然リ而シテ其債主タルモノ  
後日再ヒ放テ流通ノ道へ戻ラシムルノ見込ニ  
テ一旦之レヲ引戻シ之レヲ保藏スルニ際シ政  
府ノ發令アリテ本位ノ變更アリ且少シモ危険  
ナルナラ無ルベシ何トナヒ政府ハ速カニ其變

更ヲ公告シ且ツ變更上ヨリ生スル所ノ差額ハ  
政府ヨリ之レヲ償フベキヲ以テナリ果シテ然  
ラハ一箇ノ債主カ取越苦勞トモ呼ヒ倣スベキ  
者ヲ以テ此ノ事件ヲ判スルニ協同スルモノナ  
カルベシ固ヨリ世界ノ大造ナル取引ナルモノ  
ハ如斯基妄想ト豫期スベカラザルノ事ニ於テ  
當ムモノニ非ラザレバナリ

今茲ニ一金ヲ本位トスルノ真正ナラザル道理  
ヲ基トシテ一二ノ執政者及ヒ經濟學者カ施行  
セル舉措ニ付キ一例ヲ掲載スベシ抑千八百年  
代ニ當テ英國ニ此主意ノ爭議紛々たり然シテ  
千八百拾六年ニ至リ遂ニ金貨ヲ本位トスル  
ニ決セリ蓋シ當時ノ實況ニ依レハ金貨一層減

少スベキ模様ニ赴キタルヲ以テナリモシ當時  
ノ識者ヲシテ預メカルフオルニヤレ并ニオース  
トラリヤ州ノ金鑛豊富ノ模様ヲ熟知セシメナ  
ハ金貨ヲ本位トスルニ至タリシ乎否ヤ未タ知  
ルベカラス其訳ハ千八百五十八年ニ至リ經濟  
學者ミツケルケハリイニ氏ガ此主旨ニ付第二  
回ノ討論ヲ癸セシ時ニアタリ全氏ハ断然金貨  
廢止ノ旨ヲ主張シタリ斯クテ全氏カル來銀貨  
廢止ノ説ヲ左祖セシ一事ヲ以テ其説ノ輕佻無  
根ナルヲ証スルニ足ルモノトス斯ク目的ノ  
定操ナキハ金銀ノ價位變動スルヲ以テ兩本位  
ヲ害トシ一本位ヲ可トスル説ノ真理ナキヲ証  
スルノ的例ナリ

此説ヲ主張スルモノハ合衆國ノ例ヲ引テ全國ニテハ豫定ノ金銀均分ノ本位ヲ制可セシトキ國中ノ銀貨弗忽テ跡ヲ流通上ニ絶チシテ陳述スバシ然レ其然ル所以ノモノハ他ナシ米利堅ニテ鑄造スル所ノ弗ハ金一銀十六ノ割合ナルニ其他ノ諸國ニ於テハ其割合金一銀十五半ニシテ即チ三銖程割合ノヨキヲ以テナリ故ニ米利堅ノ弗ハ輸出シ再ヒ海外ニ於テ鑄造セラレタリ

且又佛國ニテ英國カ其輸出入ノ差ヲ拂ハン為メ印度へ金貨ヲ輸送スルニ當リ頻リニ其銀貨ヲ印度ニ送リシ例ヲ引テ之レヲ典庇スハシ金貨本位ノ英國及ヒ銀貨本位ノ印度ノ際ニ立

ツノ國ハ自然斯クノ如キ勢ニ立チ至ルバシ然レレ佛國ハ之レニ因テ寧ロ利益スルモ損失セシテアラザルナリ

若シ萬國凡テ金銀ノ割合ヲ金一銀拾五半ト定ムルトニ全意シタラシニハ必ラス古來萬國共ニ平均セシモノナルバシ蓋シ其割合ノ屢々變動ヲ生ズルハ往昔ヨリ之レガ為メ條約ノナカリシト萬國交際ノ完全ナラザルトニ依テ然カセシモノナリ  
凡ノ物品ハ其質ノ精良ト其功用トニ由テ實價ヲ生ズルモノナルニ付キ多年ノ實驗ハ其價額ノ割合ヲ定ムルヲ得テ又供給需求ノ増減ヨリシテ生ズル所ノ影響ハ人為ノ定法ヲ以テ一



般ノ人心ヲ誘導シ之レヲ制限シ得バキモノト  
ス何トナレバ此際最モ威力アルモノハ需求ナ  
ルニ付キ物價動搖セハ供給隨テ生ズベキヲ以  
テナリ斯クノ如キ威力アル需求ノ影響ヲ金貨  
本位ノ論者が無知ナリト視定スルコソ笑止ナ  
レ之レニ由テ之レヲ視ルニ銀貨廢止ノヲアレ  
ハ忽チ其價格痛ク下落スベシモシスル僅少ノ  
根原ヨリシテ一方ニトリスル非常ノ結果ヲ生  
スルヲ明白ナルニ於テハ其平均ヲ保タン為メ  
ニハ他ノ一方ニ於テ一層多量ノ権力ヲ有スル  
定法ヲ設ケサルベカラザルハ明了ナルハシ  
金貨ニ迷惑スルモノハ銀貨ノ需求ヲ減スルノ  
法律ヲ設ケ其價格減セシ後ニ至リテ見ヨ銀價

下落シ隨テ其需求減少スルヲ故ニ我輩等が金  
貨本位ヲ好シトスルハ豈ニ正直ナラスヤレト嗚  
呼其迷ハルヤ亦甚シ

嗚呼世界ヲシテ此迷謬ヲ脱セシムルノ執政者  
ハ何處ニカアル今日諸邦國ノ利害ノ相ヒ關係  
スルヲ往時ノ州郡ノ相關係セルヨリモ密ナ  
リ故ニ遠望深慮アルノ執政者及ヒ經濟學士ハ  
如何ニ一國ハ一箇獨立ノ体裁ヲ存スト由モ其  
利害ハ全ク萬國ノ得失ニ依頼スルヲ觀察ス  
ルニ至レリ抑モ本位ノ此議論ニ於テハ金銀兩  
本位ノ時ニ當テ債主ハ損失ヲ受クベシ此等ノ  
損失ハ金銀兩位ノ致ス所ナリトノ誤謬ノ說ヲ  
抱ケリ此說ヤ之レヲ實際ニ徴スルモ之レヲ論

理ニ督スモ決シテ正當ナルモノニアラザルナ  
リ是レ則チ執政者及ビ經濟學士ノ論究スベキ  
所ニシテ尋常ノ人能ク之レニ関與スベキナ  
非ス何トナレバ是レ賢明ノ諸士ガ力ヲ茲ニ委  
子以テ此禍害ヲ挽回セザルベカラザルモノナ  
レバナリ  
斯ル大任ヲ負穩スルノ人ハ徒ニ本位ノ一ニ而  
已関與セシテ亦貨幣ノ數位并ニ價格ノ割合  
等ニ付テモ豫定ノ方法ヲ設ケザルベカラザル  
モノトス

今茲ニ余カ意見ヲ示サシガ為メニ過頂一人ノ  
執政者(當今官職ニアラサルモノ)來テ余ト右ノ  
趣旨ニ付并論セシ始末ヲ記載スベシ

該氏ハ供給ト需求トノ二ツニ付キ深ク論及セ  
シト虫モ其實際ノ一ニ至テハ格別ノ所見モナ  
リ殆ンド着手ノ法モナキモノ、如クナリシ然  
リ而シテ余ハ全氏ニ印度ノ一例ヲ示シテ印度  
ノ貳億萬封度ノ銀貨ヲ取テ之レニ代エルニ金  
貨ヲ与フルノ人ハ何人カアル歟ノ一問ニ付キ  
明解ヲ乞ヒ頗ル細論ニ及ビシカ遂ニ全氏嘆  
シテ云ク  
若シ印度其他銀貨流通ノ諸國ニテ余候ナク其  
銀貨ヲ販賣スヘキニ迫マラバ必ラス之レニ代  
ユルヲ物ヲ得ザルベカラズ余カ所見如斯ト  
余モ全氏ノ説ト全意ニシテ別ニ論ズヤキモノ  
ナシト虽此問題ニ付テハ今一層論及セザル

ベ  
ア  
ラ  
ス  
何  
ト  
ナ  
レ  
ハ  
今  
ニ  
シ  
テ  
此  
ノ  
禍  
害  
ヲ  
復  
セ  
サ  
レ  
ハ  
他  
日  
抑  
制  
シ  
ガ  
タ  
キ  
ニ  
至  
ラ  
ン

海上胤範譯

五

試ニ廢銀ノ一事ヨリ強テ世界ノ合法貨幣タル  
 モノ、數位ヲ減サスルノ結果ヲ看ヨ第一前ノ  
 貳拾年間資本勤勞ノ二物ノ相聯合シテ結構セ  
 ル公益ノ事業モ頻ニ停息シ又工勞ノ利結銀ノ  
 高産物ノ量消耗ノ數モ自ラ減サスルニ至ルベ  
 シ世人ハ此形狀ヲ目シラ勤勞者ガストライキ  
 給銀ヲ列エントテ  
申合ヤ休業スルヲ云  
 ラ企ルヨリ自ラ招ク所ノ不幸ナリ  
 ト云ヒ或ハ勤勞者ガ動モスレバ其利ヲ射ラン  
 タメ種々ノ計畧ヲ運ラスラ遏折スルタメナリ

飛騨録

大藏省

ト云ヘリサレ氏此ノ場合ニハ勤勞者ニ限ラズ  
 資財者モ均ク禍ヲ免ル、能ハサルモノナレハ  
 此說ハ暗昧不明ノモノナリ看ヨ各般ノ所有物  
 地面家屋其他何レノ物ヲ論セス其價值ハ自ラ  
 下落ノ點ニ赴キラ資財者モ一樣ノ損失ヲ受ル  
 ハ明カナリ  
 去リナカラ爰ニ又一種ノ資財者ニシテ皮相ヨ  
 リ之ヲトシタル迄ニテハ物價下落ノタメ利益  
 ヲ占有スルニ似タルモノアリ即チ工業委託金  
 或ハ役料給料ヨリ各年若干ノ常收入ヲナスノ

資財者アリ此ノ類ニノ資財者ト世間普通ノ資  
 財者トハ無論一線ノ疆界ヲ抹セサルヘカラス  
 蓋シ普通ナル一方ハ已レノ所有物ヲ自在ニ運  
 轉シテ往々物價ノ高低ニ大關係アルモノ今一  
 方ハ已レノ資本ヲ工業ニ委託シテ利足ヲ收メ  
 或ハ生涯ノ役料給料ヲ受ケテ一家ヲ営ムモノ  
 ナリ曾テ佛國ノ經濟家「チバリー」氏ガ金債廢止  
 ノ論ヲ起セシ片取モ直サズ此ノ論點ニ至リタ  
 ル「ハ看者」ノ記憶スル所ナルベシ當時ノ言ヲ  
 聞クニ物價ガ騰貴セシユヘ金銀ガ下落シタリ

又常収入利益等ヲ云フモ幾分カ其物ヲ買収スルノカラ

損シタリト是レ所謂物品ノ價ハ流通金ノ現額

ノ饒多ナルニヨリ騰貴ス故ニ其現額ニ減サ

ル片ハ常収入ハ最初ニ巨利ヲ占ムルモノナリ

トノ説ニヨルナルベシ然レ氏此ノ説ニヨリテ

考案ヲ下サハ其利益壟ニ此ニ止マラサルベシ

蓋シ物品ノ價ノ騰貴スルヨリ非常ニ産物ノ量

数ヲ増加シ其産物ノ量数ヲ増加スルヨリ遂ニ

従前ノ度ニ復スルモノナリト云フヘシ實ニ如

此消長ノ利ハ各種ノ物産一ニノモ殊ニ屈指ノ産物

例ニハ我國ノ生糸  
本茶ノ類ヲ云フ千八百四拾八年前ニアリテ既ニ

従前ノ價格ニ復シ今一層價値ノ下賤ナルニ

徴シテ自ラ証明スルニ足ルベシ去リナカラ之

等ハ特殊ノ一ニシテ概シテ云フベカラサルモ

ノナリ

先ツ給料ノ場合ニ付キ之ヲ論述セン官吏カ物

價騰貴ノ名義ヲ籍リ往々給料ヲ増加セシテ

ルハ世人ノ明知スル所ナリ然レ氏不幸ニシテ

是等ノ論類ハ政府官吏ノ掌中ニ属スルモノタ

リ凡ソ政府官吏ノ如キハ敢テ惡意アルニ非レ

氏事ヲ處スルニ當リ兎角已レノ都合ニ見解ヲ  
下スモノナリ然レ氏同人等ガ全國人民即チ農  
工商或ハ資産若千ノ収入ヲ生スルモノニシテ全ク之レニヨリテ生計ヲ営ムノ資産所有者ヲ

若シメ此利ヲ剥奪セルナレハ恰モ黄金卵ヲ産  
ム鷲鳥ヲ餓死セシムルニ異ナラス此譬喩伊蘇物語ニ見ヘタリ

又資本ヨリ生スル若干ノ常収入ヲナスモノニ  
付キテ論スルモ一層前説ノ不當ナルヲ見ルベ

シ想フニ前キノ貳拾年間公債質入レ工業等へ  
委托シタル金額ノ増加ハ極メテ莫大ナルモノ  
ニシテ曾テ拾億四千萬ポントノ通貨ヲ以テ定

タル物價ノ標準ヲ擴開シタルハ疑ハナル所ナ  
リ前ニ云ヘル紙幣ノタメ其引張りタルハ措

キ此ノ除ニ當リ彼ノ廢銀ノ一舉ノ如キ通貨ノ  
減サヲナシ諸物價ヲ最下ノ低度ニ下落セシメ

ハ工業へ委子タル金額モ決算ナルノ期ナク  
シテ到底資本損失ノ害ヲ免ル、能ハス加之ス

此ノ場合ニ至レバ人民ノ國債ニ苦ム弥甚ク同  
時ニ従前ヨリ價值ノ減サシタル所有物并ニ工

業等ヨリ従前ノ稅ヲ徵收スル能ハサルナリナ  
レハ是ヨリ生ズルノ困難及ニ其困難ノ公私會



ニ及スベキ影響ハ今日ノ豫算ノ度ヲ起ルモノ  
 ニテ唯将来此ノ驚怖スベキ忠害切迫ノ日ヲ待  
 ツニ非レハ殆ト名状シカタルベシ好シヤ暫  
 ク資本ヨリ生スルノ常収入ノ給料ノ如ク物價  
 下落ノ夕ノ利益ヲ収ムルモノトスルニセヨ斯  
 ル場合ニ於テハ徒ニ負債者ノ破産ニ苦ム而已  
 ナラズ其他資本損失ノ害ヲ蒙ルハ辨ヲ待タサ  
 ルナリ

世人或ハ此ノ場合ニ於テ是レ等ハ自然ニ治ル  
 ベシ治ノ資本ノ價騰貴ナルモ後々遂ニ平均ニ  
 復スルモノナリト云ヘルアレハ其平均ヲ復ス  
 ルハ工業商通ノ二物ト適度ノ権衡ヲ得ルニ非  
 サレハ能ハス凡ノ資本ノ利益ナルモノハ工業  
 商通ヨリ分與スルノ配當金ナレハ其割合ヲ尋  
 常ヨリ超過セシムルニハ是非トモ工業商通ノ  
 二物ヲ毀損スルニ非サレハ到底之ヲナス能ハ  
 ガルモノナリ去ルハ其全面ニ付キ觀察スルニ  
 ハ差列資本ヲ減サスルノ外他ナシ  
 此ノ論者モ是レ等ノ事柄ニ注意セサル人ニ向  
 テ斯ク喋々スルモ畢竟其論説ハ己レノ事態ヲ

見ルニ暗キラ暴スニ當リタルヲハ自ラ解得  
 シタルベシサレト此ノ論者ガ一旦狼ヲ呼ブノ  
 毎用ノ辨ヲ味々スルノ譬喩 容易ナルヲ知ラハ此ノ經濟說ニ付  
 キ如何程喋々スルモ到底前キニ余ガ示シタル  
 數位ト要論トノ外ニ出ル能ハサル与ヲ陳ベサ  
 ル可カラズ去レハ一點ノ間隙モナク正當確實  
 ノ論理ニ基キタル間論ノ生スルアリテこそ其  
 論理ノ可否ヲ定ムヘクシテ徒ラニ口舌ヲ以テ  
 之レヲ争フ可ラサルモノナリ

今其所以ヲ示サン通例此ノ類ノ一ニ於テ世間  
 十ニ八九ハ徒ニ命運ニ任セ自ラ教フノ術ヲ講  
 セズ又教育アル人即チ理財ノ論者スラカノ現  
 像ノ外ニ觀察ヲ下ス程ノ卓見アルモノナシ故  
 ニ如此患害ノ起ルニ臨メハ理財論者モ実因ヲ  
 認識スルヲ務メズシテ徒ラニ現像ノ間ノ争  
 フニ汲々タリ此ヲ以テ其ナス所ハ只管供給需  
 要ノ理ニ因縁ヲ求ルノミ物價ノ下落高業ノ衰  
 微ヲ物ノ盈溢ナルニ帰スルニ彼ノ英國其他  
 ノ製造勉勵ノ國ヲ非難スルニ至リ理財ノ說法  
 者ガ現世ノ極樂淨土ニ於テ無用ノ談議ヲ講ス

スルニ異ナラズシテ此現像ノ實因タル一物ヲ  
モ解明スルヲナキナリ

去リ迎其實因タルモノハ事物ニ関スルニ非ス  
シテ重ニ人智ノ深淺ニヨルモノタリ例之ハ米

利堅ニテ今一層ノ紙幣発行ヲ可ト決シタルニ  
セヨ英國人タル我輩ハ何人モ米國ハ他國ノ覆

轍ヲ踏ミ必ズ衰亡スベシト云ハンノミ然ラバ  
此類ノ事件ノ決議ハ全國一般ノ發言又議院

ノ決案ニ出ルモ或ハ中央政府ノ見込ニ出ルモ  
詰リ其可否ハ人智ノ深淺ニ歸着セサルヲ得ス

不而ノ今余ガ推論セル經濟ノ趣者ニ於テハ此  
ノ論題ハ古今通高文明ノ史上ニ於ケル論題ヨ

リモ一層肯綮ノ要點トス  
扱異日ノ患害ノ徴候ハ己ニ我輩ノ頭上ニ迫レ

リ而シテ唯其徴候ト云ヘルハ抑モ故アリ蓋シ金  
銀ノ彼我交通ノ權衡ヲ破リタルハ唯日耳曼一

國ニシテ又同國ガ金本位ヲ布告シタルモ僅ニ  
貳ヶ月ノ前ニアリテ未タ其交換ヲ急ニセス且

ツ他國ハ此ノ危難ノ淵ニ臨ムモ未タ何等ノ手  
段ヲ下サレバナリ去リナガラ千八百七十貳

年以來スラ公益ノ事業鏡道其他諸目論見ノ俄  
 然停息シタルヲアリキ世人ハ之レヲ目シテ無  
 論物ノ盈溢ノ致ス所ナリト見做スベケレト中  
 二ハ日耳曼カ佛蘭西ヨリ金ヲ取去リシ故工業  
 市場ニ要スル所ノ資本ヲ減サスル原因ヨリ生  
 シタルヲ認識スルモノアリ  
 試ニ左ノ統計表ヲ掲ケ現今我國外國通商ノ衰  
 運ヲ示サン

輸入	輸出	植民他産	統計
千八百五拾四年	九七〇〇万封度	一八〇〇万封度	二六八〇〇万封度
千八百五拾五年	九六〇〇万封度	二一〇〇万封度	二六〇〇〇万封度
千八百五拾六年	一一五〇〇万封度	二五〇〇万封度	三一一〇〇万封度
千八百五拾七年	一二二〇〇万封度	二四〇〇万封度	三三〇〇〇万封度
千八百五拾八年	一一六〇〇万封度	二三〇〇万封度	三〇〇〇〇万封度
千八百五拾九年	一三〇〇〇万封度	二五〇〇万封度	三三四〇〇万封度
千八百六拾年	一三五〇〇万封度	二八〇〇万封度	三七三〇〇万封度
千八百六拾一年	一二五〇〇万封度	三四〇〇万封度	三六七〇〇万封度
千八百六拾二年	一二三〇〇万封度	四二〇〇万封度	三九一〇〇万封度
千八百六拾三年	一四六〇〇万封度	五〇〇〇万封度	四四五〇〇万封度

千八百五拾四年	一五二〇〇万封度	九七〇〇万封度	一八〇〇万封度	二六八〇〇万封度
千八百五拾五年	一四三〇〇万封度	九六〇〇万封度	二一〇〇万封度	二六〇〇〇万封度
千八百五拾六年	一七二〇〇万封度	一一五〇〇万封度	二五〇〇万封度	三一一〇〇万封度
千八百五拾七年	一八七〇〇万封度	一二二〇〇万封度	二四〇〇万封度	三三〇〇〇万封度
千八百五拾八年	一六四〇〇万封度	一一六〇〇万封度	二三〇〇万封度	三〇〇〇〇万封度
千八百五拾九年	一七九〇〇万封度	一三〇〇〇万封度	二五〇〇万封度	三三四〇〇万封度
千八百六拾年	二一〇〇〇万封度	一三五〇〇万封度	二八〇〇万封度	三七三〇〇万封度
千八百六拾一年	二一七〇〇万封度	一二五〇〇万封度	三四〇〇万封度	三六七〇〇万封度
千八百六拾二年	二二五〇〇万封度	一二三〇〇万封度	四二〇〇万封度	三九一〇〇万封度
千八百六拾三年	二四八〇〇万封度	一四六〇〇万封度	五〇〇〇万封度	四四五〇〇万封度

千八百六拾四年	二七四〇〇、〇〇〇	一六〇〇〇、〇〇〇	五二〇〇、〇〇〇	四八七〇〇、〇〇〇
千八百六拾五年	二七一〇〇、〇〇〇	一六五〇〇、〇〇〇	五三〇〇、〇〇〇	四八九〇〇、〇〇〇
千八百六拾六年	二九五〇〇、〇〇〇	一八八〇〇、〇〇〇	五〇〇〇、〇〇〇	五三四〇〇、〇〇〇
千八百六拾七年	二七五〇〇、〇〇〇	一八〇〇〇、〇〇〇	四四〇〇、〇〇〇	五〇〇〇〇、〇〇〇
千八百六拾八年	二九四〇〇、〇〇〇	一七九〇〇、〇〇〇	四八〇〇、〇〇〇	五二二〇〇、〇〇〇
千八百六拾九年	二九五〇〇、〇〇〇	一八九〇〇、〇〇〇	四七〇〇、〇〇〇	五三二〇〇、〇〇〇
千八百七拾年	三〇三〇〇、〇〇〇	一九九〇〇、〇〇〇	四四〇〇、〇〇〇	五四七〇〇、〇〇〇
千八百七拾一年	三三一〇〇、〇〇〇	二二三〇〇、〇〇〇	六〇〇〇、〇〇〇	六一四〇〇、〇〇〇
千八百七拾二年	三五四〇〇、〇〇〇	二五六〇〇、〇〇〇	五八〇〇、〇〇〇	六六九〇〇、〇〇〇
千八百七拾三年	三七一〇〇、〇〇〇	二五五〇〇、〇〇〇	五五〇〇、〇〇〇	六八二〇〇、〇〇〇

千八百七拾四年	三七〇〇〇、〇〇〇	二五九〇〇、〇〇〇	五八〇〇、〇〇〇	六六七〇〇、〇〇〇
千八百七拾五年	三七三〇〇、〇〇〇	二二三〇〇、〇〇〇	五二〇〇、〇〇〇	六四八〇〇、〇〇〇

我國輸入ノ衰微セサルハ必竟我國ノ資財ノ富  
 メルヨリ斯ル巨大ノ輸入品ヲ消耗セシムルノ  
 致ス所ニシテ固ヨリ此ノ論點ニ關係ナキモノ  
 ナリ然レハ我國産輸出ノ衰微スルハ其品位價  
 格ノ二物ニ徴シテ其状ヲトスベシ今之ヲ指シ  
 テ物ノ盈溢ノ致ス所トセンカ決シテ其不充分  
 ナルヲ證明スベキモノアリ見ヨ前キノ三十年  
 間ニ於テ我輩ハ三ニ此厄運ニ際會セルアリ何

レモ此説ノ流行シタルヲアリシモ去年ヲ待タ  
ズシテ輸出ハ再々大ニ増加セリ然レ氏此三年  
以来ノ輸出貿易ノ衰微ハ日耳曼ノ銀貨ヲ廢止  
スルノ初端ト同時ニ始マリ其衰運ノ全況ヨリ  
窺測セバ本年ノ衰微ノ如キハ就中屯タシキモ  
ノニ似タリ

及令レ日耳曼ハ輒近佛國ヨリ貳億五千萬ポ  
トノ償金ヲ獲ルニセヨ通商工業ノ二物ハ未曾  
有ノ壓倒（廢銀ノ）ノタメ苦シマサルヲ得ス若シ時  
機ニ投シテ之ヲ防遏スルニ非ザレハ其他國ニ

及スノ禍ハ果シテ如何ソヤ此類ノ一ニ於テ  
ハ實際ト論理トヲ鑑ミサレバ詰リ空架ノ説ニ  
陥ルガタメ看者ハ宜ク余ガ此論題ノ討究上ヨ  
リ説述スル所ノ論議ノミヲ以テ満足スベカラ  
ズサレバ如何様ノ論議ニ於テモ我輩ガ數位ヲ  
示スニ非ザレハ然ル可ラズト云フモ數位ヲ示  
セル上ニテ然ルヘシト云ヘルニ比スレハ方レ  
ル一萬々ナルヘシ蓋シ我國經濟ノ主旨ハ極メ  
テ實際ノ効用如何ノ點ニアリテ徒ニ言語ヲミ  
ヲ以テ決シテ掩蔽シ能ハサルモノナリ

然レ氏今我國ノ利害ニ最モ關係スルモノハ印  
 度ナレバ我輩ハ之レヨリ印度ノ現状ニ觀察ヲ  
 下サ、ル可ラズ及令々尋常一扁ノ英人ハ此現  
 状ヲ知ラズ且ツ之レニ注意セズト雖氏印度ヨ  
 リルビイ印度ノ貨幣ニテ常収入ヲ収メ一家ノ生産ヲ  
 管ム如キ人ハ從前一「ルビイ」ニ付キ貳「シルリン  
 グ」替ニシテ倫敦ニテ百ポントヲ受ケ取リシ一  
 千ルビイヲ以テ目今ハ一「ルビイ」ニ付キ八シル  
 リング「ハベンス」ノ相場ニ下落セシエハ唯八拾  
 三ポント六「シルリング」ハ「ベンス」ノ換金ヲ受ク

ルノミ即千百ニ付凡ソ十八ノ損失ヲヤシタリ  
 又數百萬ノ金額ヲ印度ニ委子タル印度ノ銀行  
 者モ百ニ付拾五乃至貳拾ノ損失ヲ受ケリ加之  
 頗ル商業ニ熟知シタル「マンチストル」商人ニ  
 シテ一「ルビイ」ニ付キ一「シルリング」十「ペン  
 ス」半ノ時相場ニテ送り荷ノ約ヲ取組ミタルモノモ  
 唯一「シルリング」八「ベンス」半乃至一「シル  
 リング」八「ベンス」替ノ直拂為換ヲ以テ其送金ヲ寄セラ  
 レシエハ百ニ付拾ノ損失ヲ醸セリ彼ノ地金仲  
 買人等ハ斯ク為換ノ低下ナルハ畢竟歐羅巴ノ

銀相場ノ下落スルヨリ生シタルヲ了解スレバ  
 サレバトテ如何シテ此先キノ下落ヲ遏ムベキ  
 カ又此下落ノ何レノ點ニテ止マルカラ辨知セ  
 サルナリ仮令之等ノ景況ハ印度ヨリ常收入  
 ラ収ムル人ニトリテ極メテ困難ナルニセヨ印  
 度ト現場ノ取引キラナスモノニトリテハ一層  
 薄氷ノ思ヒヲ抱カシムヘシ世人或ハ云ハシ東  
 印度ハ英國ノ物品ニ付キ従前ヨリ餘分ノルビ  
 イヲ拂フベシ否ラサレハ英國ノ製造者ハ為換  
 ノ損失ヲ廣ク能ハスト此ノ言サシク利アルニ

似タリ蓋シ其意印度ニ於テ英國ノ物品ノ價ノ  
 騰貴シ印度ノ通貨ノ價ノ輸出輸入トモ下落シ  
 タルヲ示セシナルヘシ去リナカラ此因ヲ生ス  
 ル亦ハ印度人ノ過失ニアラス又如此コノ先ノ  
 測度スヘカラサル景況ニテハ銀相場ノ下落ハ  
 此工幾何ノ點ニ赴クヤヲ豫知スル能ハサレハ  
 此説モ詰リ行ハレサルモノナリ又輕躁黃芻ノ  
 經濟學者ハ銀相場カ下落スルハ印度ハ前日  
 ヨリ餘分ノ銀ヲ得ベシト云フヘケレト固ヨリ  
 銀相場ハ何程下落スルトモ印度ハ其國ノ通高



権衡ニ割合ヘルモノヨリハ一ランスダモ餘  
 分ノ銀ヲ得ル能ハスシテ且ツ其通貨ノ下落ハ  
 其権衡ヲ維持スベキ勢カヲ減サスルモノナリ  
 又今一人ノ經濟學者ハ印度ノ「ルビイ」ヲ今サク  
 大ナラシメ之レニ幾分カノ増銀ヲナスベシト  
 セン此經濟學者ノ意ノ如クセンニハ印度人ハ  
 是迄ノ百「ルビイ」ヲ八十「ルビイ」ニ改鑄スルカタ  
 ノ之レヲ印度ノ造幣寮ニ齎ラサルヲ得ス而  
 ノ唯一層重量ナル新造ノ八十「ルビイ」ガ是迄ノ  
 八十「ルビイ」ニ通用スヘキ旨ヲ語ラル、迄ナリ

然ルキハ此後モコノ八十「ルビイ」ノ銀量ヲ増シ  
 五十「ルビイ」ニ改鑄セサルベカラサル勢ヒトナ  
 リ到底不都合ヲ醸スヘキノミナレハ此見込ミ  
 ハ思慮セサル甚シキモノト云フベシ今印度  
 ガ徒ラニ其通貨ノ彼我交通ノ價ヲ減サスルア  
 ラハ其國ノ通貨ノ名状スベカラサル大危難ニ  
 陥ルハ何人モ疑ヒヲ容レサル所ナリ而シテ印度  
 ガ銀ヲ貴重シテ之レヲ保持スルノ念慮ハ唯ニ  
 土俗ノ慣習或ハ陋見ニ出ルトシ又印度ガ今  
 此銀貨ヲ取用ユル故其陋習ヲ益鞏固ナラシメ

タルニ疑ヒナシ是ヲ以テ其土地ニ於テハ千今  
 銀貸ヲ使用スルナリト臆測スベカラズ畢竟其  
 取用ユルトカ又使用サル、トカ云ヘルハ文字  
 ノ一部分ニ過ギサルモノ抑モ印度ニテ銀ノ價  
 アル所以ハ土俗ノ之レヲ貴重スルノ意ト彼我  
 交通ノ價トヲ有スルヲ以テナリ故ニ若シ其彼  
 我交通ノ價ヲ云ラバ其銀ノ半ハ直キニ減却  
 シテ前ニ云ヘル如ク何程印度ノ貿易ノ權衡ハ  
 ヲキモ又何程印度人が「バンブル」  
印度人ノ用ユル足  
飾リ腕飾リヲ云フラ  
 欲スルモ銀ヲ用ユルヲ從前ニ比スレハ概一

分ニ過キサルヘシ  
 或ハ現今<sup>銀</sup>相場ノ急下落ヲ目シテ通用ノ不景氣  
 ヲリ起ルル一時ノ事柄ト見做シ遠カラズ為換  
 相場モ舊ニ復スベシト信用スルモノアリ然レ  
 氏古今ノ史策ニ照シテ今日程銀相場ノ下落シ  
 タルヲ殆ント稀ナリ前ニ云ヘル如ク古今金銀  
 ノ割合ニ差違ヲ生シタルヲアレ氏金一銀十五  
 半ノ比例ヨリ格外ノ増減アルヲナシ尤モ中古  
 時代ノ某國ニ於テハ金一銀十六半ノ比例ニマ  
 テ金價ノ騰貴セシテアリシ夫レ連モ全ク一時

ノトニシテ畢竟彼我交通ノ真理ニ暗キカタメ  
 起リタルナリ而メ前ノ一紀（百年代ヲ一紀トス）年ノ間佛國  
 ニテ金一銀拾五半ノ比例ヲ確定シテ之ヲ取用  
 シヨリ諸各國モ各之ヲ標準トセリ然ルニ現  
 今ニ至リ銀相場五拾三「ベンス」半ニ下落スル故  
 之ヲ以テ計算スルニ其割合殆ント金壹銀拾七  
 四分ノ三ノ比例トナレリ去リナガラ此下落ガ  
 唯一時ノトニアラサルハ蓋シ看者ノ知ル所ニ  
 シテ我輩ノ亦ニ述ル論理ガ其實因ヲ徹スルニ  
 足ルベシト信スルナリ萬一政罷巴ニ於テ此上

餘今ノ銀ナク又近來新增ノ銀ノ供給ヲ唯其半  
 バナラシムルモ印度ノ銀相場ハ其國ノ法律上  
 ニテ彼我交通ノ價ヲ失ハシムル故必ス下落ス  
 ルアルベシ又或ハ此際ニ乘シテ印度ノタメニ  
 新債ヲ募ルヘシトノ説ヲ起スモノアラン此説  
 ノ如クセハ一時印度へ宛テ振出スベキ政府ノ  
 為換ヲ停メ一時倫敦ニ於ル銀相場ハ五拾三「ベ  
 ンス」以上ニ騰貴スベキハ我輩ノ疑ハサル所ナ  
 カラ詰リ斯ル公債ハ印度ノ負債ヲ増加シ却テ  
 為換ノ振出シヲ夥多ナラシムルニニテ此先

キノ患害ノ結果ヲ防過スル能ハサルベシ  
 此患害ノタメ印度ノ公私社會及ヒソノ屬民ニ  
 及ホスベキ影響ハ實ニ恐怖スベキ狀況ヲ有セ  
 リ(後令印度ノ自ラ招クニ非サルニセヨ)抑モ英  
 國人タル我輩ニトリテハ印度ノ土地ト其貳億  
 萬ノ人口トハ大ニ依頼スベキモノニテ試ミニ  
 米利堅ト之レニ比較セヨ米利堅ハ巨萬ノ外債  
 ノタメニ苦ミ巨萬ノ紙幣ノタメニ腦メリ之ニ  
 及シテ印度ハ前ノ一紀年ノ間我國ヨリ巨億万  
 ノ金額ヲ(公平又ハ不公平ニ)引出セシト雖トモ

曾テ枯涸ノ狀ヲ現ハサズ猶今日ニ至リラモ各  
 年我國へ千五百萬「ホント」ノ租税ヲ収メリ(後令  
 其税額ノ一部分ハ鉄道其他工業ヨリノ収入ナ  
 ルニセヨ)此余ニ印度ヨリ歳入ヲ徴スルモノ帝  
 幾千人ノミナラスシテ為換其他ノ利益ヲ合セ  
 算セバ印度ノ貿易ノ権衡ハ各年貳千萬「ホント」  
 ヲ失ヒタルナガラ猶依然トシテ相應ノ銀地金  
 ヲ英國へ輸入スルノ國タルニ足レリ固ヨリ米  
 利堅ノ文明ト印度ノ開化トニ霄壤ノ差アルハ  
 辨ヲ待タサレ凡此一點ニ於テ印度ノ米利堅ニ

番 論 議  
優レルアルハ何様ノ巧言詭辯ノ人ト雖氏決  
シテ之ヲ然ラストスル能ハサルベシ而ソ印度  
ニ此ノ位置ヲ維持セシメ又之ヲ毀損スルノ  
ヲナサ、ルニ注意スルハ我國ノ務ムヘキ  
シテ且ソ此依頼スベキ國ノタメニハ我國現在  
ノ貨幣法ノ幾分カラ改正スルモ我輩ノ好テナ  
スベキ所ナリ

### 第三章

#### 金銀本位ノ平均ヲ回復スルノ論說

或ル人云ク英國ハ何等ノ憂置ヲナシ印度其他  
ノ諸國ヲ斯ル危難ヨリ免レシムルヤト此問題  
ハヨク此状勢ヲ言顯シタルモノト云フベシ見  
ヨ印度ハ銀本位ノ巨魁英國ハ金本位ノ巨擘ナ  
レバ世界萬國ノタメニ金銀ノ事務ヲ決斷スル  
ハ到底此二國ニ出ラサル可ラス

我輩ハ次ノ題者ニ論及スルニ當リ先ツ如何様  
ニ其題旨ヲ推及スベキカノ一法ニ提起シテ看  
者ノ注意ヲ要スベシ

第一此推及ヲナスニ當リ我輩ガヨリテ立論ス  
ヘキ普通ノ論理ト著明ノ實事ト

此實事ノ一二ハ前キニ  
既ニ説キ示セリ

リ此要領ハ二點ニヨリテ立論スル片ハ速ニ其  
 決論ニ到達シ得ヘキ故我輩ハ之ヲ論説ノ疆界  
 線ト定メ決シテ超過スヘカラサルモノトス  
 第二我輩ハ務メテ彼我貨幣ノサ差違ヲ些事ト  
 見做シ輕易ニ看過スルノ情向ヲ去ラサルヘカ  
 ラス試ミニ世上ノ唱フル所ヲ見ヨ一ボントハ  
 貳拾五フランニナリ何故其割合ニ通用セサル  
 ヤ其差固ヨリ格別ノモノニアラス唯二十サ  
 千トハ即チ凡ソニベンス許リナリト成程此差  
 ヲ計算スルハ如何ニモ煩キヲニシテ若シ英貨

ヲベレイニノ精密ニ二十四フランク乃至二十  
 六フランクノ價ノモノナレハ此差ヲ完全スヘ  
 キモアルベシ然レ氏此些細ノ差ハ古今困難ノ  
 根元ニシテ今日マテ萬國普通ノ貨幣法ハ因テ  
 立サル所以ナリ而メ此論議ハ金囊中ノ一二ノ  
 貨幣ニ付キ云フニ非ズ内外流通ノ巨萬ノ金額  
 ニ付キ陳ルモノナリ見ズヤ一ガベレイニ付  
 キ凡ソニベンスノ差モ巨萬ノ額位ニ至レハ數  
 萬ノ差生スルモノナリ今印度ノルビイモ亦此  
 場ニ至レリ印度ノルビイハ凡ソニシルシング

相當ナリ何故ニシルリングニ價スルモノト布  
 告セサルヤトハ世工十ニ八九ノ人ノ口吻ナレ  
 氏「ルロイハ純銀百六拾五ケレインヲ有チフロ  
 ーレンハ英國ノ貨幣ノ名百六拾五ケレイン四四ヲ含  
 ノルモノニテルロイトノ差ハ如何ニモ混雜シ  
 タルユヘ此言ハ幾分カ道理アルニ似タリ去リ  
 ナカラルビイハ合法貨幣ニシテフローレンハ  
 補助貨幣ナレハ其基本ニ於テ已ニ混同スベカ  
 カラサルモノアリサレハ之等ノ差ヲ政府ノ権  
 カヲ以テ平均スルトノ説ハ世界ガ百ノ數ヨリ

ニラ減スレハ九十八トナリテ百位ニ充ザルヲ  
 知レル間ハ決シテ行ハレサルモノナリ  
 此類ノ論議ハ其推究ニ於テ尤モ煩雜ナルモ  
 ノニシテ且ツ講談者モ其元素ヲ教示スルヲ企  
 ル能ハス加之貨幣法ノ变革ノ談ニ涉ル氏ハ何  
 國ノ人民モ先ツ他國ニ差圖ヲナスモノナリ例  
 之ハ英國ニテ我輩ハ小補助貨幣スラ貨幣法ノ  
 改革ト云ヘハ狐疑スレ氏他國ノ如何ノ改革ヲ  
 ナシ奮憤ヲ廢スルヤラ推問スルハサモ遲疑セ  
 サルナリ我輩ガ他國ノ如何ヲ推問スルノ的例

ハ印度ノ貨幣法ノ一ニ付キ屢々其跡ヲ見ルベシ凡テ貨幣ノ改革ノ唯数学工ニ出テ、其本位或ハ其補助ノ旧貨ニ基カサルモノナレハ必ズ其功用ナキモノニシテ是非トモ本位カ補助一内ニ基キラ其關係ヲ存スヘキナリ而シテ此ノ關係ヲ存スベキナリノ印度ノ貨幣ニ付キ何程緊要ナルカハ追テ余ノ推論スルアルベシ

前ニ云ヘル普通ノ論理ト著明ノ實事トノ第一

論題ニ於テ推究スヘキモノハ印度ハ五千萬金

本位ヲ用ケザルベカラザルカノ問題ナリキ而

メ我輩ハ己ニ印度カ金銀兩本位ノ不便ト呼ル、モノヲ用ヒスシテ金本位ヲ用ユベキ方法ヲ示スヲ望マレタリ故ニ此問題ノ論理ニ付キテハ充分前ニ説述シタレド未タ著明ノ實事ニ論及セザレハ今此ニ其實事ヲ示スベシ試ニ見ヨ何人印度ヨリ一億或ハ一億五千乃至貳億万ノ銀ヲ受取ルヤ又何人カ即時或ハ若干日數ノ内ニ此同額ノ金ヲ渡シ與フヤ是等ノ行レ難キハ何人モ曉知シ得又論辨ヲ費スニ及バザルモノナレハ我輩ガ兎ニ角現今ノ場合ニアリテハ



印度へ金本位ヲ導キ與フカラ考慮スルサヘモ  
 無用ナリトシ又此ノ決論ヲ我輩ノ論說ノ疆界  
 線トシ諸金本位ニ関スル論說ヲ此ノ線外ノモ  
 ノトスルモ決シテ我輩ヲ目シテ空架ノ論者ト  
 ハ見做サバシ實ニ如此スルニ非レハ到底  
 議論ノ止ムナクシテ詰リ無用ニ屬スベキナ  
 リ

如此コノ問題ヲ推論シ了リタル上ハ我輩ハ之  
 ヨリ印度ノ銀本位ヲ珍貴重シ併テ金銀兩種ヲ  
 合法貨幣トナスノ方法ヲ設ケテ金本位ヲ印度

ニ導クノ案ニ論及スベシ曾テ英國ガ純量百八  
 拾ケレインニ十二カラツトノ金貨モール貨幣ノ名

印度ニ導キシニ成功セザリシハ蓋シ看者ノ知  
 ル所ナルベシ而シテ其成功セザル所以ハ何レノ  
 數位ヲ以テスルモ「モール」ガ「ルピート」同位ノ點  
 ニ歸セザルガエヘナリ例之ハ此ニ「ルピート」同  
 量同質ノ金貨ヲ鑄造セン其數位正ヨリ算スレ  
 バ十五半「ルピート」ノ價アルモ「ナリ」然レ凡此割  
 合ハ今數ニ涉リ不便ナルガエヘ若シ十六「ルピ  
 ート」ノ價ノモノニ之ニ發行セント企ルモ固ヨリ

行レ難カルヘク又十五ルピノ價ノモノトナ  
 廿ハ其直子ニ溶解サルハ疑ニナシサレハ印  
 度ハ二十ルピト相當ノ金貨ヲ鑄造スルヲ良  
 策トスト云ヘルモノアラン然ルキハ金幣ノ間  
 ノ比例ハ如何スベキヤノ問題ヲ出スベシ今我  
 輩ガ再ニ金一銀十六或ハ今一層悪ク金一銀十  
 七ノ比例ヲ取用セバ徒ニ銀相場ヲ低下セシム  
 ルノミナラズ他國ノ貨幣ト抵觸ヲ生シ之ヲ壞  
 乱スルニ至ルヘキハ并ヲ待タスシテ訂ニ述ル  
 如クモ一ヲ以テ試ミシニ成功ナキコトハ之モ

亦失策ナレベキハ推シテ知ルヘキナリサレハ  
 迎金銀相場ヲ貴クシ金一銀十五半カ又金一銀  
 五カ乃至金一銀十五半ノ割合トナサハ及對説  
 ニ遭ハ勿論ナリニシテ迎モ行ハルヘカラス然  
 ラハ印度人ノ銀貨ニ固着スルノ情ヲ慮リ考レ  
 ハ印度人并ニ歐羅巴人印度在苗ラシテ是非トモ  
 金貨ヲ保持セシメサルベカラサルノ一策ヲ立  
 ルニ非レハ何様ノ金貨ヲ引導スルモ同人等ノ  
 承認ヲ得ルヲ保シ難キナリ  
 其金貨ヲ保持セシマルノ一策ハ英ノソベレイ

シラ用ユルニアリ而シテ我輩ガ此ソベレイン  
 ラ印度ニ引導シテ流通セシメントスルノ意ハ  
 敢テ此ソベレインヲ好ムノ情又其金貨タルノ  
 エヘラ以テスルニ非スシラ通商ノ便宜公私社  
 會ノ利益ニ觀察ヲ下スキハ是非トモ之レヲ用  
 エルヲ得サレハナリ

斯ク印度へ金貨ヲ引導スルノ第二ノ決論ヲ完  
 結シ得タレハ實際ノ如何ニ論及スルニ當リ先  
 ツ何故曾テ金貨引導ノ功用ナカリシカノ一問  
 類ヲ辨明セサルベカラス前ニ云ヘル如ク「ルビ  
 」ハ凡ソ「シルリング」相當ノモノニ用セシム

ル能ハサル所以ヲ解得スルモノ蓋シ稀レナリ  
 其強テニ「シルリング」ニ通用セシムル能ハサル  
 ノ理ハ他ナシ「ルビ」ハ其同價ノ價ナキモノナ  
 レハナリ見ヨ「ルビ」ノ含有セル純銀ヲ百五十  
 五「ゲレイント」シ之ヲ金一銀十五半ノ割合ニ討  
 算セバ「ルビ」ハ唯一「シルリング」十「ペン」スハ  
 分ノ五ニ當リ一「ポンド」ハ十「ルビ」ハ分ノ五ト  
 ナルモノナリ然ルヲ若シ法律布告ニテ強テソ  
 ベレイン「ルビ」ニ通用スベシト令スルア

ラハ歐洲ハ高賈及ビ銀行者ハ寧口此ノ金貨ヲ保持シラ之ヲ手放サ、ルヘシ或ハ又ソベレイニラ印度へ送ルカ或ハ印度ニラ之ヲ鑄造セハ印度ノ地金商人ハ直チニ之ヲ買占ム之ヲ溶解シラ金棒トナシ再ビ歐羅巴其他ノ諸國へ賣賤スルアルベキナリ之ニ及シソベレイノ價ヲ十一ルビト乃至十二ルビトニ通用セシメヨトノ説ヲナスモノアルベシ此見込ハ目下銀相場下落ノ折ユヘ容易ニ行ルベキニ相違ナキニセヨ唯此上銀相場ヲ引下ケアインクローイニ付ヤ

ノ歳入ヲ減損スルノミナラス印度人モ如斯高貴ノ相場ニテハソベレイニラ受取ルラ拒ムベキハ固ヨリ并ヲ待タスシテ明カナリ故ニルビノ鑄造ニ於テ一種ノ改正ナカルベカラズ即チ前ニ云ヘル如キ英債トノ差ヲ填塞シ兼ラ一ポントノ補助ニ当ルベキ新銀貨ヲ鑄造スルヲ要ス而シテ其新銀貨ノ割合ハ必ズ金一銀十五半ノ比例ヲ超エベカラス然ルモノハ其割合現在ノルビノ含有スルモノヨリ貴ケレバ世上ノ拒ム所トナルノ恐レアリ又其割合ヨ

リ昇ケバ直千ニ地金ニ溶解サル、ノ患アレ  
 ハナリ又此新貨ハ全數ニテ（分數ニ非ラ  
 ナラズ）成ルベク  
 現在ノルビノ補助同位シ其結縁ヲ失ハサル  
 ヲ要ス一タビ此結縁ノ存スルアラハ後來補助  
 ノ改正ヲナスニモ極メテ容易ニナシ得ベキナ  
 爰ニ少ク数学上ノ推考ヲ要スヘキ一案ヲ掲ケ  
 テ看者ニ示スベシ

純銀百六十五ゲレインヲ有ラル現在ノ一ルビ  
 一ラ分テ十六アンナトシ一アンナヲ十二ビ  
 ス（銅トス即チ一ルビハ百九十二ビニシ  
 テ一アンナハ純銀十ゲレイン三一ニ五ヲ含メ  
 ルモノナリユヘニ若シ前ノ新銀貨ニ一ルビ  
 即チ十ゲレイン三一ニ五ノ量ヲ増サハ其量目  
 百七十五ゲレイン三一ニ五トナリ其量ハ恰モ  
 ニシルリングニテ金一銀十五五ノ割合ニ  
 当リ其價ハ十セアンナ即チ二百四ビノモ  
 ノタルヘシ

又爰ニ二條ノ問題アリ第一如何ニ此ノ鑄造ノ  
 変革ヲ行フベキカ第一如何ニ此ノ計案ノ改正

ヲナスベキカト

第一條ノ問題ニ答テ云ハシ。一時従前ノ「ルビー」ノ製造ノタメ造幣寮ニラナセル事業ヲ猶豫シテ十七ア「ンナ」ニ當ルノ新「ルビー」ヲ製造シ之ヲ十六ア「ンナ」ニ當ルノ舊「ルビー」ト取交セ流通セシムルモ實際上ニ於テ何タル不都合ヲ生セス又一般人民モ新「ルビー」ハ旧「ルビー」ヨリ一「アン」十丈ケ餘分ノ價ノモノタルヲ解得スルハ容易ナルベシト雖氏免ニ角之ヲ以テ完全ノ策トハ見做シ難キナリ故ニ其新貨ハ今一段重量ノモ

ノ即チ純銀量三百五十「グレイン」ニ五ニシテ全ク四「シルリング」ニ當ルモノヲ製造スルヲ優レリトス而シテ其貨幣ノ名稱新「ドルビー」ニシテ又印度「ドルラ」或ハ「アルベルト」ト呼ビナスベシ尤モ斯ル名稱ヲ付スレバトテ彼ノ世工ノ經濟學者ガ往々無益ニ企ル如キ他國ノ「ドルラ」又ハ「フハイフ」フランク<sup>五フ</sup>ノ銀貨ト若干ノ關係ヲ有セシメントスルニアラズ又固ヨリ印度ヲシテ彼我交通貨幣法ノ改革ノ初歩ヲシムルヲ企ルニ非ルナリ（此企テナキスラ此改正ハ充

分困難 事業ナリ 畢竟四「シルリ」相当ノ新  
 債ヲ造出スルヲ可トスルハ全ク英ノ「ステル」  
 「シ」ト印度ノ「ルビ」トノ間ニ於テラ簡便ナルモ  
 ノタレハナリ 印度ノ造幣寮カ現在ノ「ルビ」ノ  
 鑄造ヲ停止シ只管ニ「ルビ」ニ「アンナ」即チ「ア  
 ルヘル」トニ付キ三十四「アンナ」ニ當ルコノ合法  
 新債幣ヲ造出スル場合ニ臨ミ印度ノ地金高賈  
 カ如何ニ此新債ヲ受取ルベキカノ緊要ノ一問  
 題アリ此地金高賈カ印度ノ債幣ノ「」ニ関シテ  
 ハ印度ノ保護人ニシテ凡テ印度ト歐羅巴トノ

数学ノ真理ニ基キ貨幣ノ事務ヲ管理スルノモ  
 ノタル「」ヲ辨知スルハ造幣長官并ニ印度ニア  
 ル歐洲ノ地金輸入人ヲ除キテハ蓋シ稀レナル  
 ベシ若シ此地金高賈カ此ノ新債ガ現在ノ「ルビ  
 」ニ基キテ鑄造シタルモノ即チ恰モ銀貨三十  
 四「アンナ」ノ價アリテ且ツ其合法債幣タル「」ヲ  
 認メハ同人等ガ此新債ヲ兼認シテ之ヲ愛顧ス  
 ルハ疑ハサル所ナリ之等ノ場合ニ至リテスラ  
 異端ヲ立テハ此新債ガ多サ同人等ノタメ溶解  
 サルベシト排議シ得ベシ去リナカラ其之レヲ

溶解スルト否ラサルトハ一ルビノ新貨ヲ鑄  
 造スルモ之ヲ保スル能ハスシテ詰リ造幣寮カ  
 現在ノルビノ鑄造ヲ停息シナハ此ノ新貨ヲ  
 自ト流通ノ道ヲ得ソノ害ヲ免ルベキナリ

或ハ印度人民ニ關係シテ云ヘルキハ現在ルビ  
 ノ如キ貨幣ハ最モ適當シタル物價ノ標準ナ  
 リト唱フルモノアラン然レ凡ルビノ如キ貨  
 幣ノ適當セルハ今ヲ距ル數百年ノ前ニアリテ  
 物價ノ今日ニ比スレハ凡ソ四分ノ一乃至半分  
 位ノキニハ左モアルベケレト物價騰貴ノ今日

ニアリテハ我輩ノ企ル如キ此新貨ヲ一層適當  
 ナルモノトス凡ソ東洋諸國ニ於テハドルラ  
 如キ貨幣ヲ好ムガユヘ印度人民ノ此新貨一個  
 ガニルビニアンナノ價ニシテ其八個カ現在  
 ノ十七ルビニ當ルヲ解得スルハ固ヨリ難キ  
 事ニアラサレハ現在ノ貨幣ト取交セ之レヲ通  
 用セシムルモ其際何等ノ不都合ヲモ生セサル  
 ヘシ  
 扱此新貨ノ供給ノ普ク印度全國ニ及べルトキ  
 ハ自ラ其補助ノ改正（一層容易ナル改正）ノ議モ必ズ起ルベ



シ或ハ此新貸ノ補助ヲ十七ルビ<sup>ル</sup>三十四<sup>ア</sup>ン  
 ナ<sup>ニ</sup>分<sup>テ</sup>ラ<sup>ル</sup>ハ實ニ不便ノ數位ナリトテ異論ヲ  
 ナスモノアルベシ成程之レニ今一個ノ<sup>ア</sup>ンナ  
 ヲ加フルノ數位トナサバ此上モナキナリ然  
 レ<sup>レ</sup>凡詳思審考スル<sup>レ</sup>片ハ此見込ハ貨幣改正ノ論  
 旨ニ於<sup>ル</sup>他ノ要點ヲ擾乱スルニ非<sup>レ</sup>ハ行ハ<sup>レ</sup>  
 難キモノナリ況ンヤ十六<sup>ヘ</sup>一ノ増三十二<sup>ヘ</sup>ニ  
 ノ加<sup>ハ</sup>其性質ニ於<sup>テ</sup>ラモ極メテ簡易ナルニ於<sup>テ</sup>ラ  
 ヲヤ最モ計算上ヨリ考案ヲナスニセヨ鑄造上  
 ヲリ見解ヲ下スニセヨ鬼ニ角一<sup>ル</sup>ビ<sup>ラ</sup>現今

ノ如ク十六<sup>ア</sup>ンナ<sup>ニ</sup>分<sup>テ</sup>一<sup>ア</sup>ンナ<sup>ニ</sup>十二<sup>ビ</sup>ス  
 ニ分<sup>テ</sup>即チ一<sup>ル</sup>ビ<sup>ラ</sup>百九十二<sup>ビ</sup>スニ分<sup>テ</sup>ラ  
 ル如キハ改正ヲナサバ<sup>ル</sup>ベカラサルモノナリ  
 及令此新貸ハ最初三十四<sup>ア</sup>ンナ<sup>ニ</sup>即チ四百八<sup>ビ</sup>  
 一<sup>ス</sup>ノ割合ナルニセヨ追テ其位置ヲ占ムルニ  
 當リ此ノ四百八<sup>ビ</sup>一<sup>ス</sup>ヲ四百<sup>ビ</sup>一<sup>ス</sup>ニ改正ス  
 ルモ固ヨリ難キヲニ非ズ又之ガ為ノ物品ノ價  
 値或ハ補助貨幣ノ鑄造ニ不便ヲ生スル<sup>レ</sup>亦ナ  
 カルベキナリ日耳曼政府ガ曾テグロスチ<sup>エ</sup>ン  
 即チ<sup>マ</sup>一<sup>ノ</sup>十<sup>分</sup>ノ一<sup>ノ</sup>モノ十二<sup>フ</sup>エ<sup>ン</sup>ニ

グ相場 モノトセシガ 近来之レヲ十フエニ  
 ングニ改名シタルニ更ニ不平ノ聞ヘナカリシ  
 的例アリ) 加之補助貨幣ハ其額位小数ノモノ十  
 レハ之ヲ所有スル如キ下等ノ窮民ハ却テ其價  
 ノ百ニ付ニノ騰貴アルヲ喜ヒ補助銅貨ノ改正  
 ラ要スルヲナカルベシ尤モ此改正ニ付キ簡易  
 ナル十進法ヲ用ユルハ極メテ緊要ナルベシ即  
 千純銀三百五十ケレインハ八分ノ五ノ新貨ノ英  
 貨一ポンドノ五分ノ一ニ相當セシメ此銀貨一  
 ポンドヲ二千ポリス乃至五千ポリス

今ノニポリスニ當ル  
銅貨ヲ製造セシムル

二千ポリスニ相當セシムルヲ要ス尤モ一アル  
 ベルトニ付十七アンナノ數ハ實際行ハレ難キ  
 モノニ非レドモ多少不便ナキニアラサレハ是  
 非トモアンナノ製造ノ改正ヲ要スルニ至ルベ  
 シ而シテ其改正ハ此新貨一個ヲ二十ノ補助ニ分  
 千其補助一個ヲ今ノニポリスニ當ル十ノ小補  
 助ニ分ツベシ即チ

銀貨	一ポンドハ	銀貨五アルベルト	<small>一個四シリング 相當</small>
同	一アルベルトハ	同	十ハースアルベルト
同	一ハーフアルベルトハ	同	十アンナ

同 一「アンナ」ハ

銅貨十「ピ」ス 今ノニ「ピ」ス  
相当ノモノ

如此銀貨一「ポ」ント「ヲ」小補助銅貨千個ニ相當セ  
シムト雖其銅貨ニ於テ今「一」「ピ」ス或ハ半  
「ピ」スノ如キ米位ノモノ又四分ノ一ノモノヲ  
存シ置クモ敢テ妨ケナシ

我輩ハ前ニ已ニ「ニ」シル「リ」ング銀貨即チ四「シ」ル  
「リ」ング銀貨ノ半数ノモノヲ發行スルハ仮令  
實際不都合ナキニセヨ完全ノ策ニ非サル旨ヲ  
述ベタリ去リナカラ此四「シ」ル「リ」ング銀貨ノ流  
通高充分ナルハ現在ノ「ル」ピ「ー」ヲ「ニ」シル「リ」ン

グニ改鑄スルニ至ルベシ而シテ小補助銅貨四  
百八「ピ」ース「ヲ」四百「ピ」ースニ改正スルト同様ニ  
現在ノ「ル」ピ「ー」ハ百九十二「ピ」ース相當ユヘ即チ  
百八十八「ピ」ース四分ノ一ニ改正セサルヲ得サ  
ル場合アリ其時ニ臨マハ布告ヲ以テ現流通ノ  
「ル」ピ「ー」ヲ引上げ新貨ハニ付キ十七ノ割合ニテ  
之ヲ引換フベシサレバ暫時ノ後ニシテ此布告  
ノタメニ「ヲ」新銅貨百八十八「ピ」ースニ當ル合法  
貨幣トシ得ベシ然ルニ半「ル」ピ「ー」四分ノ一「ル」ピ  
「ー」ヲ廢止セバ猶一層金錢取引ノ便ヲ興フベシ

爰ニ又一問題アリ印度ハ英國ニ於ルガ如ク合  
 法貨幣ノ制限ヲ定メ舊合法貨幣「ルビ」ノ替リ  
 ニ「シルリング」相當ノ「ルビ」ヲ補助貨幣トシ  
 テ発行スベキカ又本位貨幣トシテ発行スベキ  
 カト暫ク本位補助両貨幣ノ區別ハ看者ノ充分  
 理解セルモノト見做シ我輩ハ此ノニ「シルリン  
 グ」ノ「ルビ」ノ補助貨幣トシテ発行シ英國ニ於  
 ル彼ノニ「シルリング」貨幣ノ貳「ポント」以下ノ取  
 引ニ之ヲ用ユルヲ良策トス然ルモハ印度地金  
 高買モ別ニ依頼スベキ四「シルリング」ノ本位貨

幣ヲ有スルガユヘ散ラ之ヲ否ムイナクシテ其  
 利益アル又明カナリ如何トナレバ其補助銀貨  
 并ニ其小補助銀貨ノ鑄造ヲ要スルハ極テ稀サ  
 ナルノミナラズ小補助ヲ溶解スル「モ自ラ止  
 ミテ造幣ノ事業ヲ省クベケレハナリ殊ニ又之  
 カ為メ造幣寮ノ得ル所ノ利益ハ恐ク旧貨改鑄  
 ノ一切費用ヨリ起ユベシ此ノ新「ハ」フアルベ  
 ルトハ我「フ」ローレン「ノ」如ク純銀百六十一「ケ」レ  
 イン「四」四ヲ保ツガユヘ其補助銀貨ノ鑄造ニ於  
 テ百ニ付八ノ利益アリ若シ又純銀九十「ケ」レイ

ントナスモ猶我國ノ補助トハ自ラ別種ノモノ  
 タルベク随テ英國并佛國ト同一ノ本位トナル  
 ヘシ又銀貨一ポンドノ千分の一ニ當ル銅貨ニ  
 コリスノモノヲ鑄造セハ大ニ最小補助ノ改正  
 ラ便ニスベキナリ

我輩ハ此「ドル」ノ如キ四「シル」ノ新貨  
 ヲ発行スルハ特殊ノ利益アルベシト思考ス抑  
 モ西班牙「カロルス」墨西哥「トル」ノ歴史ノ通  
 覧スル人ハ必ズ此諸國ノ「ドル」ガ世上ノ承  
 認ヲ得ルハ唯ニ其信任アルガ為メノミナラス

其量數ノ便宜ニモ依レルヲ知ルベシ曾テ香  
 港「ドル」ヲ發行セシキ其功用ヲ遂ゲサリシ  
 ハ畢竟此信任ト便宜トノ二元素ナキガタメナ  
 リ墨西哥ノ造幣寮ハ其「ドル」ヲ遠ク東方亞  
 細西ノ遐域ニ發行スルノ權ヲ占メタリト然レ  
 氏此印度ノ新銀貨ガ同法ノ合法貨幣ヲ依頼ス  
 ベキアルヲ以テ同國ノ地金高價ニ兼認セラレ  
 若干ノ數量ヲ發行スルニ至ラバ印度近傍ノ諸  
 國又支那ニモ貴重サルモノトナルハ余ノ信  
 ヲ疑ハサル所ナリ元来支那西部ノ諸州ニ於テ

ハ取引ノ際小金棒ヲ用ユル故此新貨カ夫レ等  
ト交換サルハ必定ノ下ニシテ印度ノ地金高  
買ノ同國ニ金本位ヲ引導スルノ思念ヲシテ  
鞏固ナラシムルベシ然ルニハ合法貨幣トシテ  
印度ニ導キタル英債ツベレトシテハ其銀貨補助  
ト適切簡便ノ割合ヲ有スルヲ以テ大ニ貴重ヤ  
ルモノトナリ又金銀ノ間ノ割合ニ佛國其他  
各國ト同一ノ位置ニ位スルガエハ從前甲國ヨ  
リ乙國ニ為換ヲ紐ムニ際シ多サノ差違ヲ生シ  
類リニ困難ヲ醸シ物價ノ高低ヲ攪動スルアル  
ニ隨テ止ムベキナリ斯ル場合ニ至ラハ英債ツ  
ベレトシテハ自然印度ニ流入スルノ勢ニトナリ  
初メ銀本位ノタメ設ケタル改革モ漸次金本位  
ヲ用ユルノ方法ニ赴カサルヲ得ズ仮令將來銀  
貨ヲ廢止スルモ必ズ今日銀貨ヲ廢止スルト同  
一ノ弊害アルヘキハ余ノ確信スル所ナカラ萬  
一世故ノ刺激ニヨリ是非トモ金本位ヲ用ヒサ  
ル時勢ニ至ラバ印度ハ今日改革ノタメヨク  
夫レニ應ズルノ準備アルヘキナリ  
此ノ計筭改正ハ印度ニアル歐羅巴人及ヒ印度

人ノ教育アルモノニ取リテハ簡易ノ十進法ニ  
 テホントス<sup>テ</sup>ルリ<sup>ン</sup>グ<sup>ノ</sup>法ヲ用ユルハ決テ困  
 難ナル<sup>ト</sup>ニ非ス<sup>シ</sup>テ諸取引動定公債類ヲモ速  
 ニ改正シ得ベキナリ去リナカラ通常ノ人民ニ  
 於テハ八ニ付十セ又八<sup>ノ</sup>ホントニ付八十<sup>ル</sup>ビ  
 ノ如ク改正計筭ノ割合ニ苦ムハ勿論ナリト雖  
 凡去リ迎<sup>ホ</sup>ントス<sup>テ</sup>ルリ<sup>ン</sup>グ<sup>ノ</sup>法ヲ用ユルニ  
 付此割合ノ外ハ何様ノ考案ヲ下スモ今一層小  
 数ニ涉リ今一層錯雜ノ割合ナラサルヲ得ス及  
 令土人ノ暗劣ナルニセヨ新貨一個ノ二<sup>ル</sup>ビ<sup>ト</sup>

ニア<sup>ン</sup>ナ<sup>ク</sup>即チ一<sup>ノ</sup>ホントニ付十<sup>ル</sup>ビ<sup>ト</sup>ナ<sup>リ</sup>シ<sup>テ</sup>ア<sup>ン</sup>ナ  
 ナルヲ悟ルハ左マテ困難ナル<sup>ト</sup>ニハ非サルベ  
 ク且ツ加フルニ政府ヨリ貨幣表ヲ一般ニ頒布  
 スルアラハ之ヲ解スルモ一層容易ナルベシ凡  
 ソ何レノ事態ヲ問ハズ斯ル改正アルハ必ズ  
 計筭上ノ困難アルモノユヘ政府ノ適宜ノ方法  
 ヲ設ケ夫レ等ヲ完全セシムルモノナリ況ンヤ  
 此ノ計筭ノ場合ノ如キハ仮令サク不便ニ似タ  
 ルモ極メテ簡易ノ教位<sup>ナ</sup>レバ到底其改正ヲ好  
 トス

又改鑄ノ手續キニ付キ幾何カノ推考ヲ要スベ  
 キモノアリ見ヨ一億乃至一億五千萬ノ銀貨ヲ  
 引エケ<sup>之ヲ</sup>受取ルハ實ニ大事業ニシテ造幣長官ノ  
 喋々辨論スルモ敢テ條理ナキニアラズ去リナ  
 カラ印度ノ造幣寮殊ニ「カルキユタ」ノ造幣寮ノ  
 如キハ極ノテ規模ノ宏大ナルモノユヘ加フル  
 ニ新貨鑄造ニ必用ナル臨時機械ヲ以テマバ一  
 週間ニ新貨一百万一年間ニ五千萬<sup>「ボンド」</sup>ヲ鑄  
 造スルハ固ヨリ難カラサルベレ又「アングロ  
 インチア」銀行ハ他ノ事柄ニ於テモ大事業ヲ

仕遂ケルノカアルモノナレハ之ヲナスモ亦容  
 易ナルベシ其他又銀貨ガ現今ノ衰運ヲ免カレ  
 シクハ印度ニアル如キ巨量ノ銀モ歐羅巴ノ内  
 ニテ買収シ得ヘキガ故此新貨ハ英ノ官立造幣  
 寮ニセヨ或ハ(印度官吏ノ管督アリテ)「ベルミン  
 グハム」ノ私立造幣寮ニセヨ兎ニ角英國內ニ於  
 テ鑄造シ能フベシ而シテ其成果ヲ棒銀ノ替リ  
 ニ「アングロインチヤン」銀行ヨリ印度ニ送ル  
 ベシ又補助銀貨并銅貨ハ大半モ英國ニテ鑄造  
 シテ之ヲ送金ニ用ユベシ或ハ又銀行手形ノ地



金元金トシテ之ヲ印度ニ貯ヘ旧銀貸引換ニ充  
 分ナル程ノ數位ニ充タシムベシ而シテ是等ノ  
 要點ニ付テハ適宜ノ整ヘトカナル可ラス  
 印度ノ貨幣法ヲ改正シテ英國ノステリング  
 ノ法ノ如クナラシムルニ付爰ニ提起セル方法  
 ハ固ヨリ實際施行シガタキモノニ非サレ氏此  
 法ヲ用ユルモ彼ノ法ヲ擇フモ畢竟一案ノ頭腦  
 裏ニ現出セサルヲ得サルモノナリ  
 暫ク他國ハ措キ印度ノ貨幣法ノ改革ニ付キラ  
 ハ他ノ諸各國ガ此貨幣改正ノ會議ニ與スニア

ラサレバ何用ノ見込モ功用アラズ又金銀兩本  
 位一時ニセヨ  
永久ニセヨノ方法モ維持シ難シ而メ余ハ此趣旨

ノ銀行手形ニ関スルモノ及ビ金屬本位ノ各種  
 ノ方法ニ係ルモノヲ説示スニ付キ者者ニ無益  
 ノ時間ヲ費サシメスシテ先ツ其要領ヲ示サン  
 トス夫レ諸各國ガ第一悞議同意スベキモノハ  
 銀ノ舊狀ヲ今日ノ廢銀以前ニ回復スルニアル  
 ノミナラス又將來豫防ノ手段ヲナスベキニア  
 ルナリ若シ之ヲナスニテアサレハ其弊害治ス  
 ベカラズシテ一般ノバニツク動モ辨クベカラ

ス

夫レ英國ハ金本位ノ巨擘ニシテ銀本位ノ巨擘ナル印度ヲ附属スルノ國ナリハ貨幣ノ事柄ニ関心スルヤ他ノ諸國ヨリモ一層甚シカルベシ故ニ首トシテ此會議ヲ開クノ議ヲ主張セザルベカラズ抑モ日耳曼ガ銀本位ヲ金本位ニ改メ金銀ノ權衡ヲ覆倒セシヨリ銀本位ノ國ヲシテ日耳曼ト同轍ニ出ルノ用意ヲナサシメ又金銀兩本位ノ國ヲシテ銀債ノ鑄造ヲ減サシ漸次ニ廢銀ノ準備ヲナサシメタリ然レバ及今銀相場

ノ下落ヲ非常ニナルモノナレバ諸國ノ日耳曼ヨリ迫ラレタル危難ノ淵ニ臨ミナガラ未タ何等ノ手段ニ涉ラサルアルハ我輩ノ前ニ述ル所ナリ此會議ノ第一目的ハ歐羅巴ニ金銀ノ平均ヲ回復スルヲ要スベシ而シテ歐羅巴ニテ此地位ヲ管理スルモノハ英日佛ノ三ヶ國ナリ千八百七十年前ニアリテ其平均ヲ保ラルハ英ハ金本位日耳曼ハ銀本位佛國ハ金銀兩本位ニシテ恰モ三國協議ニ出ルガ如キノ方法ヲ用ヒタレハ然ルニ日耳曼ガ金本位ヲ用ヒシヨリ此

位置ハ变换シテ英ハ金本位日耳曼ニ金本位佛  
ハ金銀兩本位トナレリ而シテ佛國ハ日耳曼其他  
諸國ヨリノ銀ノ洲藪トナルハ害ヲ防遏スルニ  
苦メリ

英國人タル我輩ヲ以テ之ヲ見レバ日耳曼ハ輓  
近ノ處置ヲ止メ再ビ従前ノ銀本位ニ復スヘシ  
ト申言スルハ固ヨリ易々タルトニシテ元來此  
類ノトニ付キ他國ノタメニ申言スルハ我輩英  
人ノ好ム所ナリ又我輩ヲ以テ言ヘハ日耳曼ハ  
英國ニ比スレバ物價ノ低下ナル貧國ナレハ銀

貨ガ最ニ其物價ニ適當スル故之ヲ保有セザル  
可ラスト云ハン見ヨ日耳曼ニ於テハ英國ニ比  
スレバ物品ノ價ハ貴キモ勤勞ノ價ハ甚タ卑シ  
キナリ其勤勞ノ價ハ千八百十六年我國ノ金本  
位ヲ用テシテノ給銀ノ割合ニ比シテ漸ク二倍  
位ノモノナリ然レ凡日耳曼ハ他ノ論理ヲ提起  
シテ我輩ガ此見込ヲ嗤笑スベシ云ク日耳曼ハ  
自國ノ通貨ノ用ニ供スル尠クニハ己ニ充分ノ  
金ヲ所有シ又充分ノ銀ヲ賣捌キタリ又云ク我  
輩ハ英國ト印度トノ特殊ノ利益ニ供スルカタ

人ノ此言真ニ云レナキニラズ如何トナレハ  
 千八百七十六年以來歐洲本部ノ銀價ニ所作ヲ  
 ナシタルハ全ク英國ニテアリキ及令英國人ハ  
 國內ニアリテハ唯金貨ノミヲ以テ取引ヲナス  
 モ外國トノ通商殊ニ印度トノ通商ニ於テハ銀  
 貨取扱人ノ巨魁ナリ者ズヤ印度ノ為換下落ナ  
 ル片ハ銀ヲ歐洲本部ニ充塞セシメ印度ノ為換  
 騰貴ナル片ハ歐洲本部ヨリ銀ヲ剥奪スル當ニ  
 巨萬ノ、ナラズ佛蘭西ノ如キ金銀兩本位ノ國

ニテハ英國ヨリ金ヲ受取ルガユヘ格別此ノ所  
 作ニ關係ナキモ他ノ歐羅巴ノ銀本位ノ國ニテ  
 ハ實ニ之ニ堪ヘ難キモノアリ彼ノ獨債セーレ  
 ルノ数百万モ之ガ為ノ倫敦ヲ經テ印度ニ輸出  
 スルガタメ「ハンボルグ」ニ於テ溶解サレシニ其  
 項日耳曼モ金ノ定價值ナキユヘ金銀市場ノ困  
 難并ニ「ハンボルグ」パニツク動騷其他過分ノ銀  
 行券發行ノ為ノ其通貨ノ錯乱ヲ生シタリキ及  
 令日耳曼ガ既ニ金本位ヲ自國ヲ保護スル  
 ノ意ヲ遂ゲスナシ今其銀貨ヲ保持スルニモ英

國ノ為メニ常ニ被ムル所ノ如此危難不便ト  
 ラ防禦スルハ日耳曼ノ改訂家ノ職務タルベシ  
 好シヤ日耳曼ハ此改革ヲナスニ先チ各國ノ會  
 議ヲ開カサルヲ得サルノ場合ニ際シ之ヲ開ク  
 ニセヨ何人モ日耳曼ガ其之ヲ施スノ手段ナキ  
 トテ其國是ヲ保護スルヲ拒マズ又日耳曼ガ已  
 レノ舊貨幣法ヲ變ズルヲ好マサルモノ、為メ  
 ニ手國ノ旧法ヲ復スベシトノ如キ論說ヲ嗤笑  
 スレバトヲ取テ之ヲ咎ムル能ハサルナリ  
 爰ニ又一論說アリ若シ日耳曼ガ従前ノ銀本位

ヲ回復シ能ハサルハ兎ニ角金銀兩本位ヲ用ヒ  
 シムヘシ然ルトキハ歐羅巴ノ貨幣法ハ英國ハ  
 金本位日耳曼ハ金銀兩本位佛國ハ金銀兩本位  
 トナリ對峙ノ位置ヲ占ムベシ  
 千八百七十年前ニ於テ金銀ノ權衡ヲ失ハサル  
 所以ノ趣旨ヲ解得スルモノハ何人モ前ノ論說  
 ノ不充分ナルヲ認識スベシ蓋シ現今金ヲ貴重  
 スルノ割合アルガユヘ其割合丈ケハ銀ヲ壓ス  
 ルモノナレバナリ  
 況令其說ノ如ク日耳曼ハ現今所持ノ銀ヲ保存

シテ其國ノ通貨タル金銀ノ合法貨幣ノ割合ヲ  
 齊フスルニ猶日耳曼ガ將ニ於テ要スル所ノ  
 銀量ハ極メラ僅サニシテ又斯ル權衡ヲ維持ス  
 ルカタメ銀ノ新供給ハ徒ニ印度ニ赴カサルヲ  
 得ズ而シテ銀價ノ下落ハ今日ニ異ナラスシテ  
 遂ニ此金銀兩本位ノ法ヲ維持スル能ハサルベ  
 シ  
 好シヤ此場合ニ至ラサルニセヨ英國ガ日耳曼  
 及ビ佛國ト悞同シテ之ヲナスニアラザレハ到  
 底日耳曼モ佛國モ金銀兩本位ヲ用ヒザラ得

ナルニ注意セザルベシ如何トナレハ日佛兩國  
 ノ人民ハ必ス云ハン佛蘭西日耳曼ハ金銀兩本  
 位ヲ用ユベシ然レハ英國ハ是非トモ金本位ヲ  
 維持セザルヘカラストハ之ヲ養人慣手ノ口吻  
 ナリキ仮令英國ハ印度ノタメニ銀ヲ要スル所  
 ハ止ムヲ得ズ我輩ニ金ヲ供フルト雖ハ我輩ハ  
 如此通貨ヲ他人ニ託絡セラル、ヲ欲セス又養  
 國ヲシテ印度ニ金本位ヲ導クノ功ヲ收メシム  
 ルガタメ己レガ其危難ノ淵ニ陥ルヲ好マサル  
 ナリ故ニ英國ノ我輩ト共ニ其要スル所ノモノ

ラナスニ非スニハ我輩ハ寧口銀貨廢ニノ結果  
ニ苦シムニ優レリトシ英山カ印度自ラ好シラ  
權衡ヲ失フノ策ヲナシ他國ヨリ一層甚タシキ  
損失ヲナスヤ否ヲ傍觀セントス

實ニ日佛人兩國人ノ此言ハ充分公平至當ノ一  
ニシテ英佛日三國トモ金銀兩本位ニナラサル  
以上ハ何用ノ手段ヲナスモ無益ニ屬スヘシ約  
シテ之レヲ云ヘハ一般ニ金銀ノ合法貨幣ヲ取  
用ユルニアラザレハ到底金銀ノ平均ヲ回復シ  
又今ノ六害ヲ釀スベキ運動ヲ支ユル能ハサル

ナリ而シテ英國カ適宜ノ變革ヲナシ金銀兩本  
位ヲ用ユルノ見込ニテ此會議ニ與セザレハ  
金銀ヲ平均スルノ策ハ逆モ立難キナリ  
是レヨリ余ハ思想ヲ轉シテ英國經濟上ノ論理  
ト實際トヨリ此類旨ニ衝突シ来ル各般ノ困難  
ニ論及セサルヲ得ス

試ニ英國ハ現在ノ貨幣法ヲ变换シ金銀兩本  
位ヲ用ユヘシトノ見込ヲ起セヨ必ス此見込  
ハ金本位熱心ノ一黨ヨリ非常ノ抵抗ニ遇ヒ恰  
モ戰爭ノ状ノ如クナルベシ實ニ其抵抗ニ對シ

テハ他ノ一黨カ英國ノ歴史ニ於テ昭々タル如  
 キ完全ノ良策ヲナスモ唯心裁ニ屬スヘキナリ  
 加之其金本位熱心ノ黨ハ彼ノ「フ」ラクチエーシ  
 ヨンセラリ（金銀相場ニ高低アルキハ其高低ニ從テ貨幣ノ割合ヲ定メ決テ貨幣ヲ變換セザルヘカラストノ説ヲ云ナラズ） 其  
 他及對黨ガ慣習ノ一種ト呼ビナセル如キ論說  
 ラ主張スルノミナラス又銀行ノ支配人其他愛  
 國心アリテ國是ヲ遠謀スルモノ、中ニモ英國  
 ノ貨幣法ヲ變換スルヲ拒ミ多ク及對說ヲ唱  
 フルモノ實ニ動カラス暫ク此類ノ改革ハ是非  
 トモ實際係上ヨリ種々ノ抵抗ニ出會スルモノト

スルニセヨ其及對說ハ此大主議ニ比較シテ此  
 サナルモノナルカ又（後ニ示セル如ク）其及對說  
 ハ容易ニ壓倒シ得ヘキモノナルカラ推考セサ  
 ルベカラズ而シテ我輩ガ第一決談スベキモノ  
 ハ他ニアラス若シ英國ノミナラス其他世界萬  
 國ノ金本位保護ノ如此精心ヲ其俟行レシメハ  
 何事モナシ能ハサレノミナラス又銀貨廢止ノ  
 舉殊甚シクシテ夫レヨリ生天ルノ弊害ハ世界  
 到處之レアラサル所ナキ至ルヘキナリ  
 然ハト虽厄幸ニシテ斯ニ又深謀遠慮アリテ



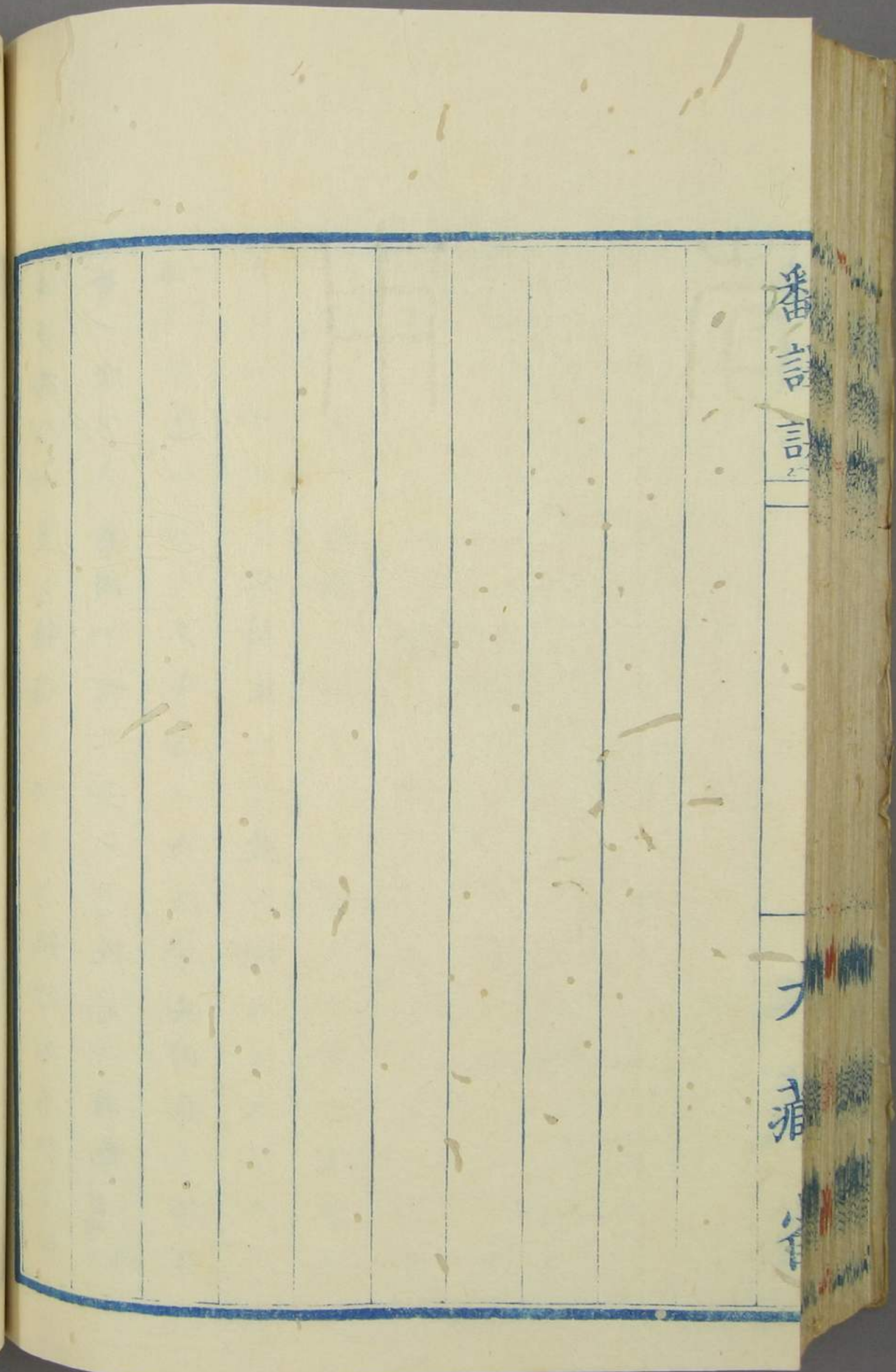
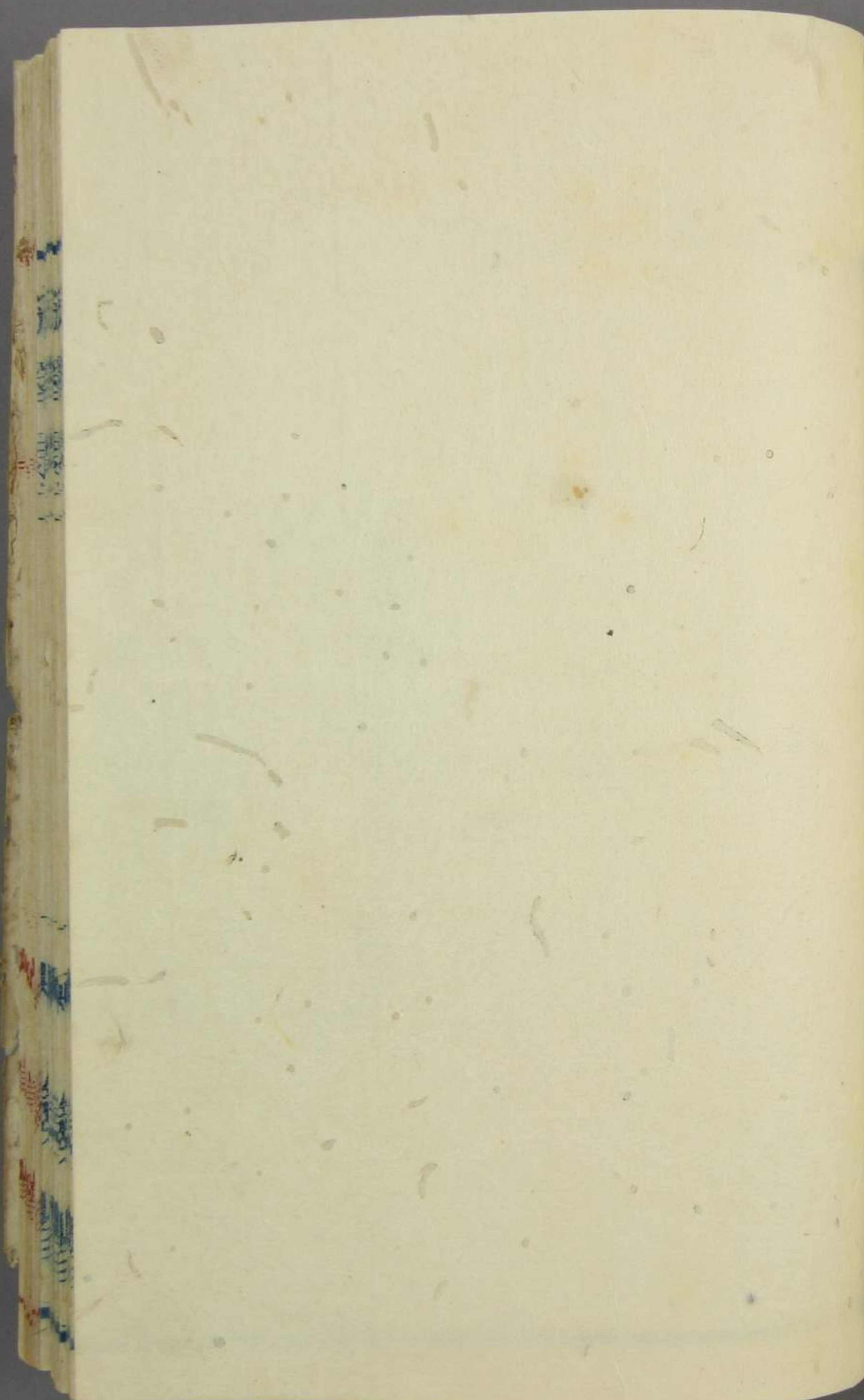
其卓識斯ル論說ノ幣害ヲ(英國ノミナラス廣ク  
 世上迄モ)觀察シ印度ノ利害ニ関シ銀相場ノ近  
 来ノ下落ヨリ復英國ハ他ノ諸各國ト共ニ再ビ  
 金銀ノ合法貨幣ヲ用々サルヲ得ザルカノ一問  
 題ヲ提起スルノ一思想ヲ洞開スルモノナシト  
 セス

英國人ノ或ル仲間ニテ銀ヲ拒ムハ畢竟緊要ノ  
 論理ニ拘泥シテ之ヲナスアルハ余ノ信シテ疑  
 ハサル所ナカラ尋常一般ノ人民ハ之ヲ拒ムベ  
 カラス知モ前ノ一紀年ノ間金本位ヲ用ユルノ

英國ニ於テ巨量ノ銀アリテ人民ノ之ヲ用ユル  
 ノ慣習ハ千八百十六年内迄ハ未ダ去ラザリシ  
 而シテ職工ノ徒ハ今日モ猶重ニ銀貨ヲ取列ス  
 ルユヘ前ニ述ル如キ四「シルリング」ノ銀貨ハ同  
 人等ニトリ最モ愛顧サルベキノモノタルベシ  
 又稍上等ノ人ノ反對説ヲナスヲ見ルニ其説ハ  
 一種異常ノ事柄ニ基ケリ見スヤ英國ノ學者仲  
 間ニ於テ銀貨ヲ合法貨幣トシテ英國ニ用ユヘ  
 キトノ論議アル片ハ其一ニ必ス云フ余曾テ千  
 八百三十年頃佛國ニアリ驛車ニ乘リ行旅セシ

ニ當リ我輩ハ旅費仕拂ノタメ「ブロイフ」ラン  
 フ銀貸ヲ齎ラサ、ルヲ得テハ不便アリキト  
 想フニ此人ハ其時ニ際シ自國ノ貨幣法ニ誇リ  
 佛蘭西ノ文明ニ此欠點アルヲ咎メシナルベシ  
 然ルニ千八百三十ヨリ千八百四十年頃ニ至リ  
 佛蘭西ノ諸大都府ニ於テハ金貸モ銀行券モ多  
 カリシモ旅人ハ僅々ノ費用ヲ拂フガタメ「フ  
 ンク」銀貸ヲ齎ラス便宜トセリ（仮令ハ銀貸ノ流  
 通セル日耳曼ニ於テハ旅人等ガ却テ為換手形  
 及ビ銀行券ヲ取用ユルニセヨ）加之今日ニ至リ

此景況ハ一變シ銀道ノ便アリ銀行券為換手形  
 等ノ便アリ英國ノ旅人ヲシテ從前ノ困難（貨幣ノ  
 用）  
 難（ナ）ラ免レシメタリ然レモ仍令其困難ノ猶存  
 スルニセヨリ英國旅人ノ最モ關心スベキモノ  
 ハ同人等ノ利害ニアラスヤ去リナカラ通常ノ  
 英國人ノ此説ヲ愛スルヤ實ニ甚タシクシラ夫  
 レガタメ全体ノ經濟ヲモ全ク棄テ顧ミサルモ  
 ノ、如クシテ仍令英國ニ「上」銀貸廢止ノタメ  
 及ビ銀貸下落ノタメ損失ヲ被ムルベキ勢ニア  
 ルニ尚此説ヲ確守シテ變セサルベシ



番  
言  
語

方  
痛  
管

第一國內ニ存在セル銀器ノ價數百萬磅ノ第二銀  
坑ノ為メ英國人民ノ出銀セル所ノ配當金并ニ資  
本金數百萬磅。第三銀ヲ購フ事ヲ約セシ國ニ對  
シ英國討求ノ權。第四印度通貨數千萬磅。此外  
第五ニ世界一般ノ貿易上就中英國ニ關係アル將  
來ノ損失并ニ物價ノ下落等是ナリ。諸千八百三十  
年ヨリ千八百四十年ノ間佛蘭西ニ於テ英人ノ羈  
旅中ニ起リタル事ニ就テ此無益ナル異論ヲ廢棄  
スルヲハ其人ニ取テ果シテ良計ナラサル乎。聊モ  
其異論ヲ以テ博ク此事ヲ論スルニ及スルノ理ト

ナハヲ以テ良計トナル乎佛蘭西旅行スル者ノ  
 為メニ銀ノ重キヲ嫌忌スルノ論既ニ全ク棄ル  
 ヲ得レハ為替手形并ニ金貨多ク流通スル英國ニ  
 向ツテ其論ヲ主張スルハ一層輕躁ノ事ニアラス  
 ヤ英國ニ於テハ大約一千乃至千五萬磅ノ四シ  
 リンク銀貨アリト虽氏是レカ為メニ不便ヲ生ス  
 ルハ絶一テアラサルヘシ故ニ英國ハ印度ノ為メ  
 ニ銀價ノ平均ヲ維持セシムル一助トシテ斯ル  
 盈價銀貨ヲ鑄造シ其數額ヲ制限シ以テ之ヲ法貨  
 トナスヲ宜シトス爰ニ故ラニ斯ル銀貨ハ制限シ

ナル數額ト記スルモノハ則チ一時ニ盈價ノ餘及  
 銀本位ノ制ヲ採ルハ英國ノ為メニ敢テ緊要  
 ト為ス所ニアラザルハナリ蓋シ其四シリンク  
 銀貨通用制限ノ如キハ現在低位補助銀貨ノ通用  
 制限タル貳磅ノ以上ニ居ラシムルヲ以テ宜シト  
 ス何トナレハ是等ノ銀貨上ニ起ル可キ不時ノ變  
 更或ハ過多ノ鑄造アル等ノ弊ヲ防クニ適宜ニシ  
 テ次々可ラサレハナリ素ヨリ通用制限ノ如キハ  
 始メ皇帝陛下ノ布令ニ隨ヒ或ハ十磅或ハ貳拾磅  
 或ハ五拾磅或ハ百磅ト定ムルヲ得ヘシ然リト

他日全歐洲一般ニ金銀兩種本位トナルニ方  
リテハ如何ナル通用制限モ竟ニ無用ニ屬スルニ  
至ル可キハ亦推知シ易キノミ  
凡ソ巨額仕拂ノ決算ノ如キハ出入勘定書銀行手  
形、皆濟法等ニテナスヘキトハ既ニ此論說ノ前段  
ニ於テ之レヲ陳ヘタリ

法庭ニ於テ巨額ノ現金ヲ拂ハサルヲ得ヤレ  
時ニ當ツテハ英國銀行證券若クハ金貨ヲ以  
テス是レ債主負債主共ニ便利トナス所ニシ  
テ且ツ直ニ流通上ニ差支ヘナキモノナリ然  
リ而シテ若シ債主ヲ困却セシメントナリ

テ法庭ニ銀貨ノ入タル數多ノ囊袋ヲ提挈ス  
ルノ負債者アラバ之レヲ遺責スルニ痴漢ノ  
所置ヲ以テスヘキ而已然レ凡テノ事斯ル  
憶說ニ拘泥スルヲ要ヤス

夫レ流通貨幣ハ自ラ其為メニ設クル所ノ部位ヲ  
占有スルナリ故ニ今姑ク一億六千貳百萬磅即チ

- 本位貨幣 一億〇五百萬磅
- 補助銀貨并銅貨 千五百萬磅
- 銅貨 貳百萬磅

銀行證券

四千萬磅

ヲ措キ之レニ代フニ一億六千貳百萬磅即チ

本位貨幣

九千五百萬磅

盈價銀貨

一千萬磅

補助銀貨并銅貨

一千七百萬磅

銀行證券

四千萬磅

ヲ以テスルトモ四シルリク銀貨ハ補助貨一千  
五百萬ト共ニ專ラ金貨ニ亞ケル階級ニ居リ金貨  
濶大ノ數量ノ如キハ銀行證券抵當ニ備フルノ外  
尚ホ諸般ノ充用ニ供スルニ至ル可シ是レ實ニ制

度其自然ノ道ニ就キ完全ヲ得タリト謂フ可シ曾  
テ數年前ニ發シタル議論ハ乃チ職工社會ノ如キ  
專ラ銀貨ニテ取引ヨラス者ニ於テ其銀貨供給高  
ノ多ヲシテ獨リ政府ノ專決ニ任セシムルト且ツ  
其威カヲ以テ其通用ヲ強制スルトノ不公不正ニ  
因テ損害ヲ被ムル可キ乎否ト問題ナリキ然ルニ  
此問題ハ彼ノ金貨本位家ノ詭詐百出ノ巧辨ニ為  
メニ貶テラレテ當時沈滅ニ屬セリト雖モ其議論  
ノ卓越ナルハ豈之ヲ貶黜シテ可ナラン乎然リ  
而シテ此ニ論スル新貨供給説ノ如キハ此ノ愁訴

ノ實ヲ除クニ足ル可キナリ然ト虫氏爰ニ銀行管  
 理者カ之ヲ誹議ス一事アリ彼レ乃チ云ハ  
 我輩ハ殆ト金貨取扱ニ馴染セリ而シ今ニ至リ銀  
 貨ヲ取扱フノ多勞ニ堪一ス故ニ更ニ銀貨ノ増加  
 フルヲ好マスト夫レ斯ノ如ナラハ彼等カ銀貨ノ  
 増加ニ就テ誹議セル真ノ論点ノ那邊ニ在ル乎後令  
 銀貨ノ數量増加スルアルモ其ノ員數ヲ計算シ其  
 真價ヲ照査スルニ於テハ容易ナリトス夫レ現今  
 ノ補助銀貨ノ如キ之ヲ支用シ且之ヲ計算スルノ  
 煩勞アルノ外其取扱上ニ於テ真ノ差支ナルモ

ハ乃チ當時ノ銀貨ハ通用ニ制限アルヲ以テ容易  
 ニ之ヲ流通ニ供スル能ハス又之ヲ輸出スルトモ  
 能ハサレ故ニ屢々銀行ノ庫中ニ堆積シ大ニ利息  
 ノ損失ヲ受ルヲアリ然リ而シテ銀行管理者ハ斯  
 ル場合ニ當テハ屢々百分ノ一乃至百分ノ貳ノ減  
 價ニテ拂出スヲアリ而カモ英國銀行ノ如キハ曾  
 テ百分ノ一ノ減價ニテ數拾萬磅ヲ賣拂ハント欲  
 シタレトモ得サリニトアリキ  
 然レ氏盈價銀貨ノ如キハ然ラス後令ハ我英國ノ  
 流通ノ勢カ直ニ銀行ノ餘銀ヲ吸入シ能ハサル



氏内國ニテ之ヲ銀塊ニナスモ或之ヲ輸出スル  
 何時ニテモ其盈價丈ニ賣拂フヲ得ベシ而シ  
 テ盈價銀貨フルニ當テハ更ニ補助銀貨増鑄ヲ要  
 セサルカ為メニ銀行管理者ニ充分ノ報酬フル而  
 己ナラス且此事タルヤ廣ク外國貨幣ノ價格ト相  
 適フニ至ル而シテ我カ英國ノ為メニモ印度ノ為  
 ニモ其盈價銀貨ノ相當ナル割合ヲ維持シ且調治  
 スルカ為メニ我輩ニ許多ノ利益ヲ與フ可キナリ  
 此ノ四シルリコク盈價銀貨ハ英國ニ於テ發行シ  
 而シテ銀塊ニ代ヘテ之ヲ印度ニ送ルヲ得ヘキ

カ故ニ英國銀行ハ一千八百四十四年ノ議定ニ從  
 々其他金貯蓄ノ百分ノ貳ハ銀塊ニテ保有スルノ  
 權(補助銀貨ニ就テハ適然ト行ケラサルノ權)ア  
 リ因テ自今仙國ノ銀貨ノ價ニ差ヲ生スルヲナリ  
 從來英國カ之ヲ妨礙セシ如ク且金貨輸出ノ患モ  
 ナクシテ印度ノ支給ニ供センカ為メ盈價銀貨三  
 百萬乃至四百萬磅ヲ保有スルヲ得ヘキ然リ  
 而シテ此ノ貯蓄フルハ特ニ我カ英國人民ノ為メ  
 ニ其印度為替ノ費用ヲ大ニ省減セシムル而已ナ  
 ラス尚又印度ノ貨幣英國中ニ一時ノ餘リアルト

キハ之ヲ英國ノ流通中ニ吸入セシムルヲ得ハ  
 シ而シテ是レニ因テ英國印度及ヒ自他諸國ノ間  
 通貨ノ平均ヲ致サシムルナリ之レニ加フルニ印  
 度ノ價格ヲ改メテ之レヲシテ該地ニ於テ結局金  
 ヲ以テ價格ヲ定ムル為メ我カステレリシガノ制  
 ト互ニ合符セシムルニハ此四レリレク銀貨ニ  
 依ラサレハ行フ可ラス故ニ今此貯蓄スルハ英國  
 ニ於テ銀貨ヲ再用スルヨリ生クル所ノ至要至益  
 ノ用ヲ為スモノナリ

若シ政府カ現時課スル所ノ「オニ」レク銀

地金上一オニスニ付一「シ」ルレク六「パン」ス  
 ノ稅ヲ廢止スル時ハ向來銀器ヲ消費スル  
 既往ニ比スレハ更ニ大ナキニ至ル可レトノ  
 說アリ蓋シ現今器物ノ為メニ用ユル所ノ銀  
 量ハ毎歲九ツ壹百萬「オニス」ナリ而シテ此ノ  
 銀器ノ代價ヲ一オニスニ付十「シ」ルレクト  
 見做シ其ハ「シ」ルレク六「パン」ニ減價スル  
 ニ因テ其消費ヲ貳倍スルト億算スルニ獨リ  
 毎年ノ供給高壹億「オニス」ノ百分ノ三ヲ吸入  
 ス可シ然リト至氏原ト此稅ヲ課セルノ月的

ハ銀ヲシテ其流通中ヨリ脱去セサランニメ  
 カ為メ此法ヲ設ケタルモノナレハ今日此  
 法アルハ最早要セサル所ナリ特ニ此ノ税目  
 ヲリ政府ニ納マル所ハ毎年僅カ七萬磅以下  
 ノ少額ナリ俟セテ之ヲ廢スルモ差支ナカル  
 可シ況ヤ之ヲ廢スルニ於テハ益々更ニ英國  
 内ニ銀ノ窟ヲ増殖シ且其價ヲ騰貴セシムル  
 ノ結果アル可キニ於テオカ

若シ英國カ此ノ事件ニ付キテノ萬國會議ニ於テ  
 茲ニ陳述シタル意見ニ基キ發論セント欲セハ他

ノ國ニハ蓋シ如何ノ処置ニ及フヘキ乎他ノ國ニ  
 ハ英國ト同一ノ処置ヲ施サントスヘキ乎記者ハ  
 諸邦ニ於テ此ノ事件ニ付キ表出シタルノ状態ヲ  
 明カニ知リタレハ今諸大國ニ於テ此事件ニ付テ  
 現在起リタル諸異論ノ形状ヲ左ニ畧述セン  
 仙國ニ於テハ千八百六十七年マテ金銀兩本位相  
 行ハレタレキ而シテ此時ニ至テ白義伊太里及ヒ  
 瑞西ト貨幣條約ヲ結テ盈價貳フランク銀及ヒ其  
 以下ノ小貨幣ヲ廢棄シ之レニ代フルニ我カ英國  
 ノ制度ニ等キ低位補助貨ヲ以テ其通用制限ヲ

シニテ五十フランクトナサシメタリ然リト雖氏  
 五フランク銀貨ノ依然十分ナル法貨ノ地位ヲ占  
 メリ故ニ金銀兩本位ハ依然トシ存セリ何ントナ  
 レハ之レヨリゾ額ノ貨幣ハ前キ陳述シ且印度ニ  
 於テモ採用セシヲ進言セリタルカ如ク同盟各  
 國ニ於テ補助貨トシテ代用スルヲ得レハナリ之  
 レト時ヲ同フニテ「ミツチエ」セソリ「ム」名ニ因テ  
 癸セラレタル及論ハ尚盛ニ世ヲ行ナハレタリシ  
 カ氏英國ノ印度ニ輸出セレカ為メ大ニ仏蘭西銀  
 貨ヲ要求スルノ「」ニ於テハ依然トシテ仏國人ノ

注意ヲ起サシメタリ而シテ仏蘭西ハ此事クハ  
 因テ其銀貨上ニ利分ヲ得且金ニテ「金」其償ヲ  
 得タルカ故ニ一モ矢フ所口ナ唯ニ益ヲ得ル而  
 已ニテアリタレ氏仏帝ハ千八百七十年ノ始メ「関  
 戦」僅カ前ニ於テ特ニ委員ヲ設ケテ貨幣本位ノ  
 事ヲ吟味センメリ然ルニ此ノ委員ノ議ヲ決スル  
 ニ及テヤ最モ實際ニ背違レテ金貨本位ヲ可トセ  
 リ然リト雖氏幾モナラス戦端開ケタルヲ以テ此  
 法賓地ニ施行ヤセサリキ當時日耳曼ハ其貨幣制  
 度ヲ改メテ金貨本位トナシタル氏仏蘭西ハ未タ

之レヲ改更セス依然前日ノ如ク金銀兩本位ノ制  
 度ヲ存ニタリ然レモ仏蘭西ハ日耳曼及ヒ其他諸  
 邦ノ銀ノ為メニ其自國ノ金貨ヲ淘去セラレシ  
 ヲ恐ルヤ止ニテ得スシテ其五フランク銀貨鑄  
 造ヲ節限シ毎年六千萬フランクト定メタリ是ニ  
 於テ今仏蘭西ハ將來ニ於テ何オカ為サント欲ス  
 ル乎乃チ此意タル第一ニ現今仏蘭西ノ國是ハ千  
 八百七十年ニ於テ皇帝在位ノ時キニ成リシ可ク  
 議定ヲ遵奉スヘキ乎ト問フモノアルニ當テハ則  
 チ大喝一声否ノ一字ヲ以テ之レニ答ヘシノミ曾

テ皇帝ノ委員ノ會議ニ於テ証據ヲ目撃セシ所ノ  
 人ニ輒チ知ル可シ彼ノ言ヲテユルセワリルノ説  
 此説ノ理ニ適フタルヤ或ハ實際ニ施ス可キ乎ニ  
 就キテハ此ノ卓越ナル經濟家モ自ラ疑ヲ抱キシ  
 ハ始メニ一策ヲ建テ后テニ之レト全ク相反シタ  
 タル説ヲ唱ヘタルヲ見テ明カナリ而カモ此ノ疑  
 ハ恐ラクハ彼レニモ未タ決セサル可シハ其証據  
 ノ中ニ世上流傳ノ俗話ヲ嵌入シ更ラニ討筭ニ注  
 意スルナク類リテ之ヲ妄用セリ然リ而シテ同氏  
 ノ流洩ニ在ル經濟學者ハセワリルヨリモ一層

甚シキ説ヲ唱ヘタリ加之ノミナラス理賤ノ件ニ  
 於テ皇帝ノ黨派ノ中ニハ一種ノ英國風ノ熱心ヲ  
 抱キタリ我カ英國ニトリテハ誇ルベキト雖モ  
 我輩ヲシテ却テ其痴ヲ笑ハシム何トナレハ今ハ  
 國カ英人ヨリ件多ノ風習ヲ採用スルヲ見ルニ其  
 状恰モ彼ノ「ホフ、デグーローン」（仙國ノ美麗ナル公園ナリ）ニ於テ  
 英國ノ「ブルド」（猛犬ノ名手）ヲ養フト同一般ナレハナ  
 リ然レモ皇帝ノ委員ノ趣意ハ獨リ英風ヲ模写ス  
 ルヲ嬉フノ一点ニ止マラス乃チ此ノ貨幣制度ヲ  
 以テ直チニ日耳曼ヲ攻撃スルノ兵器トナサント

ノ意向ヲ政治上ニ抱キタリシヤハ久シカラスシ  
 テ明知スルコトヲ得タリ其故如何トナレハ若シ皇  
 帝カ日耳曼ヲ破リ之レヲシテ軍費ヲ償ハシムル  
 中ハ皇帝ハ輒チ此ノ償金ヲ以テ金貨本位ヲ採用  
 スルノ資ニ充テ以テ銀貨ヲ廢止シ而シテ更ラニ  
 日耳曼ノカヲ削カント欲セシハ毫モ疑ヲ容レサ  
 レハナリ然ルニ事変ハ期ス可ラス計ラズモ卓子  
 顛倒シテ却テ今日耳曼カ仙蘭西ニ向テ之ヲ行ヒ  
 曾テ前帝及ニ其參政輩カ將サニ為サンヤ企テタ  
 リ心所ノ事ハ統テ日耳曼帝ノ為メニ逆マニ施サ

ルハニ至レリ然リ而シテ此時ニ當リ若シ仙民ノ  
 著シキ理賊ノ勢力牢固誠實ニアラザリモナラハ  
 此事件ノ仙民ニ酸毒ヲ被ラヌヲ賓ニセザレ落城  
 ノ害ヨリモ大ナラシ記者ハ仙帝委任ノ議員輩ハ  
 面語ノ際其議論ヲ聞キテ則チ之ヲ確信スルヲ  
 得仙蘭西カ日耳曼ニ施サレトセシ所ノ此策略ハ  
 未タ公布サレタルニハアラサレ氏其最要ノ一  
 点トシテ議局ヲ結ヒタリシヲ

此會議ニ於テ數多ノ証據人ハ所謂金銀賣買  
 人ヲ責メテ以テ其金銀交換ノ際投機ノ術ヲ

逞フシテ不當ノ利ヲ占ムルモノトナセリ是  
 レ最モ誤マレルノ甚シキモノト云ヘシ蓋シ  
 其説ヲ立ツルヤ果シテ然リト確言シ而シ  
 テ計算ヲ示シテ以テ論拠ヲ立ツルヲ能ハス  
 其貨幣ノ事ヲ知ラサルノ証之ヨリ大ナルハ  
 ナシ亦極テ賤ム可キナリ夫レ金銀ハ價格ノ  
 騰貴ヲ期シテ貯蓄シ即チ利息ノ損失ナシニ  
 保有シ得ル所ノ物品ニアラサルカ故ニ投機  
 賣買スルヲ得ス其價ハ至微至細ト雖モ之  
 ヲ計算スルヲ得ヘキナリ然リ而シテ若シ金

銀文換上ニ於テ其賣買ヲ緊要トナス時ニ當  
 ラハ之ヲ一時ニ為サ、之可ラス故ニ其賣買  
 セント欲スルノ意唯其交換ニアルノミ且之  
 ヲ交換スルニ當ラハ手形ヲ以テスルモ又貨  
 幣ヲ以テスルモ銀行ハ唯其場合ニ於テ適宜  
 ノモノヲ撰フ可シ○政治家及ニ經濟學士ノ  
 此ノ理ヲ知ラサル者ハ宜リ金銀交換ノ帝内  
 外清算ノ一大法ニシテ經濟計算ノ要理ニ基  
 キ獨リ計算者ノ映知ヲ要スルノミノ理ナル  
 一ヲ覺ル可シ噫夫レ邦家理財ノ要務ヲ管理  
 スル所ノ銀行ニ向ツテ新塗泥ノ恥辱ヲ予フル  
 モノハ此ノ計算ヲ立ツルノ腦ニ乏シキカ故  
 ナラン

其時ヨリ以降ハ蘭西ノ國事ハ大ニ變革セリ爰ニ  
 第一項ニ記載セサル可ラサルヲアリ余カ前章ニ  
 陳述シタル理由ニ因テ彼ノ委員輩ノ議ハ金貨本  
 位ニ決定シタレ氏亦理財ニ於テ高等ノ地位ヲ占  
 ムル所ノ數多老練學士アリテ必ラス將サニ議員  
 ノ決議ヨリ一大不幸ノ生ニ來ラントスルヲ  
 見タリ現今ニ於テ千八百七十二年以來ハ蘭西カ



止ムヲ得ス其銀貨鑄造ヲ制限セサルヲ得サルニ  
 及テヤ彼ノ孝子等カ先見セシ所ノ不幸ハ究テ妄  
 想ニアラサリニテ初テ彼等ニ明瞭ナラシメタ  
 リ以テ金銀兩本位維持ニ付テ主張セシ黨派ハ一  
 時其論世ニ容レラレサリシモ忽チ又昔日ノ勢カ  
 ニ復スルヲ得タリ然リ而シテ今日ニ當テモ尚  
 單金貨幣本位ニ惑溺セル總々数人ノ狂妄論者ヲ  
 リト云氏仏蘭西ノ經濟家銀行管理者及ヒ商賈ニ  
 テ道理ニ明ニ計算ニ明カナル輩ハ何ナル論議  
 ヲ問ハス萬國ノ會議ニテ其貨幣本位ヲシテ十分  
 ニ昔日ノ組立ニ回復セシムルノ論ナリセハ輒チ  
 之レニ從ハレテ用意スヘシ然リ而シテ若シ此  
 ノ大會議ニ於テ一般金銀兩本位ノ制ヲ用ユル  
 ニ決定スルヲ得テ且英國及ヒ印度カ同一ノ制  
 度ヲ採用スルニ至ラハ是マテ英國ノ印度トノ間  
 仙銀貨上ニ演セシ所ノ困難ハ最早今日以後アラ  
 サル可シ銀價下落ノ噴源ヲ除却スベシ而シテ仏  
 蘭西貿易全面ノ寧内一般ニモ亦自テ金銀互ノ關係  
 ヲ平均ナラシメ而カキ現在切迫ノ困難ヲ一掃  
 盡スニ至ル可シ

白耳義、瑞西、及、伊太里ハ此ノ會議ニ於テ、  
 輟ニ從フヘシ特ニ白耳義ニ於テハ此事件ニ就  
 テ大ニ論議アリタリ其論議ノ要点ハ乃テ白耳義ハ  
 之レヨリ甚シキ~~不~~幸ヲ免カレシ為メニ止ムヲ得  
 不飽マテモ一般ノ教示ニ從カハサルヲ得サルヲ  
 以テ其最ニ緊要トセリ蓋シ四ヶ国（仏蘭西、白耳義、  
 瑞西、伊太里）間貨幣同盟ノ破壊且銀貨廢止ニ決  
 議セルモノハ噴ニ太シキ不幸ニテアリシナリ然  
 レモ右ノ四国ハ終~~前~~前出ノ決議ニ至リシマテモ  
 相共ニ今年四百乃至五百萬ヲ鑄造セシムヲ約セ

リ而シテ市場ニ於テ銀價カ今日ノ時價ヨリ太々  
 下~~キ~~下落ヲ来タサルノ原因ハ乃テ右ノ盟約ア  
 リシノ効績ナリ結局白耳義ニテハ何時ニテモ他  
 國ト合同シテ具貨幣制度ヲ回復セシムヲ欲スル  
 ナル可シ  
 蓋シ茲ニ英國カ四シルリニク片ヲ鑄造セカ  
 ル可ラサルトテ企ツルカ故ニ現今ノ五カテ  
 ニク銀貨ト四シルリニク銀貨トハ萬國通用  
 貨幣ノ基本トシテ同一ノ價ニテアヘキ  
 想像スル勿レ斯ル企望ハ今日ニ於テ癸言ス

ルヲ要セス四シルリシク片ハ三百五十一ケレ  
 一シト八分ノ五、純分ヲ包含シ五、一ラニシ  
 片ハ三百四十七ケレ一シト四分ヲ包含セル  
 ナル可シ而シラ之レカ價格ヲ一様ナラシメ  
 ントスルノ議ハ決テ此ノ点ニ於テ行ナハル  
 可カラサルナリ

和蘭カ其銀貨ヲ廢シ金貨ニ代フルハ議ヲ決シタ  
 ルモノハ之レヲ他國ニ比スレバ一層慘毒ノ景況  
 あり然トモ該國タルヤ萬國中宿國ナルモノハ  
 一ニ居リ且現ニ在ル如ク金貨本位ノ數國ニ因リ

テ困窮サレタリ殊ニ和蘭ハ一ノ小國ナルカ故ニ  
 其要スル所ノ金ハ何時ニテモ之レヲ得能フナリ  
 故ニ和蘭ノ經濟家ハ乃チ識レリ和蘭カ其貨幣上  
 ニ被ムル所ノ損害ハ之ヲ自他方國カ銀貨廢止ニ  
 就テ損害ヲ被ラサルヲ得サル所ノ偉大ノ關係ニ比  
 スレハ實ニ方カ一ニモ及ハサルヲ以テ夫レ日耳曼  
 國ノ豊富ニシテ且正金通用ノ國タルニ魁首中ノ  
 一ニ位スルヲハ曩キニ既ニ述ハタリ諸ニ竊カニ  
 日耳曼ノ所為ヲ見ルニ其自國ノ被害ヲ濟ハン  
 欲シテ却テ急進過激ニ陥リシト云フニ非サレハ

輒テ輕為平行タルヲ免カレズ是レ此ノ輕為平行  
 ハ近來專テ貨幣論ニ從事シ我英國ノ憤慨ニ摸以  
 セント欲スル或ル日耳曼理賤家ノ思考ニ基クモ  
 ノト思ハルハナリ英凡ヲ模寫セント欲スルノ輩  
 ハ實ニ英國貨幣法ヲ驚賞嘆美スルモノニメ彼ノ  
 有名ナルリチャルドエブドン氏サハ此等模似說  
 ヲ主張スルヲ輩カ英國ノ理賤源法ヲ過賞スルヲ  
 容ルニ似タリ仏人々英國ノ「ポルド」ノ為メ  
 意思ヲ傾クル公突ヲ可シト虫氏要スルニ其害  
 ナカルベント然レモ日耳曼カ英國制ヲ模擬スル

ニ至リテハ獨リ突フ可キ而已ナラズ忽テ其人民  
 害ヲ被ムル少ナラス看ヨ日耳曼ノ銀行紙幣  
 新法ヲ省ヨ貨幣改鑄ノ事件ニ於テ銃劍衝突ノ流  
 凡ヲ是レ其人民ニ害アルノ確證ニアラズ乎然ト  
 虫氏日耳曼ノ議定ニ多少ノ欽典アルヲ慮カニセ  
 リ及令ハ茲ニ一國アリ其一吹ノ歴カラ遅フシテ  
 貳千五百萬磅(但シ「カ」リ「カ」レニヤ州貳拾五ヶ年  
 間ノ産ニシテ其全世界ニ散布セルモノ完額ヨ  
 リモ多シ)ヲ獲勝シ得タルアルモ商工業ノ衰狀  
 ヲ表スルニ至リテヤ人民休養上ニ於テ稀ニ有ル

カ如キ痛嘆ノ状態ヲ顯シ来ル可シ此時ニ當テヤ  
 之ヲ整理濟救スルニ非常ニ英明卓識ナル宰相致  
 府ニ立テ熟美ノ所置ヲ施スニアラスニハ其之ヲ  
 醫療スルヲ蓋シ難カシヘシ宜ナル哉我英國ニ於  
 テハ斯ル理賤ノ隊伍ハ既ニ之レヲ幣害アル者ト  
 認メテ之ヲ忘ル、ヤ久矣然リ而シテ此ノ弊害ハ  
 今現ニ日耳曼国内ニ存在スルト雖氏同國ノ老練  
 ニシテ且明識アル理賤家ハ已ニ能ク其利害如何  
 ノ洞察セリ故ニ右ノ老練明識ノ理賤家ハ獨リ其  
 國民ノ為メノミナラス萬國人民ノ好都合ノ為ニ

該國ニ於テ銀質法債保存ノ旧説ヲ復辟シテ  
 勸勵スルヲ怠ラサルヤ必然ナル可シ然リ而シテ  
 今日在朝ノ權官ト雖モ国内ニ游離ノ銀貨貳千萬  
 乃至貳千萬ヲ拾價且一層非常ノ拾價ニテ賣却セ  
 ガルヲ得サセヲ知レリ故ニ其當テ仙蘭西ヨリ得  
 タル所ノ軍償金ハ定シク之ヲ浪費スルニ至ラズ  
 一ヲ惠ヘ且萬國會議ニ因テ貨幣條例ヲ制定セン  
 一ヲ冀フテ止マサル可シ然リト雖氏斯ル萬國會  
 議ヲ起スニ當テハ英國カ自ラ會長ノ地位ニ在  
 ニ非スニハ萬般ノ事皆十拾モ要石ノ四頂格ニ於

ケルカ如<sup>ケ</sup>要石ヲ用ヒスニテ四頂格ヲ益マント  
欲スルモ豈之ヲ得可ケンヤ乃チ我英國ハ實ニ貸  
幣ノ件ニ関スルノ要石ナリ

今又茲ニ萬國ニ對シ負債アリ且過度ニ紙幣ヲ發  
行セルノ國ニ就テ論及セルトス彼ノ<sup>米</sup>國<sup>米</sup>合衆國

ハ前ニ已ニ述ヘタル如リ其古銀幣ヲ鑄造スルニ  
當リテ萬國ノ通議ナレ金一銀十五半ノ比例ニ背

千金銀十六ノ比例ヲ以テシタルカ故ニ其濫出ニ  
因リテ之ヲ失フタリ○合衆國カ其正金流通ニ回

復スルノ間該國ハ後來金貸ヲ以テ本位<sup>ナ</sup>ナサン  
トヲ決定シタリ○過ルニケ年中合衆國ハ更ニ新

銀幣ノ鑄造ヲ企テタリ但シ法貸トシテ國內ニ流  
通セルムル為メニ非スシテ唯之ヲ支那及ヒ印度

ニ輸出セルカ為メナリキ而シテ其之ヲ鑄造シテ  
支那印度ニ輸出セントスルヤ兩地ニ流通スル所

ノ西班牙及ヒ墨基斯可弗ヲ逐行シ其地位ヲ棄ハ  
シト欲セルカ故ニ其新幣ノ量目ヲ四百貳拾ケレ

トシトシ其品位ヲ九百位即ケ包含ノ銀ノ純分ヲ  
三百七十八ケレントシトナセリ銀價ノ噸ニ金一

ニ付キ拾六半ノ比例ニ下落シタルモノハ此ノ理

由ニヨリテ然ルナリ一千八百七十四年ニ於テ斯  
 ル新幣凡七拾萬磅ヲ鑄造シ千八百七十五年ニ於  
 テ支那ニ輸送セシ數量ハ右ノ高ヨリ大ナリキ噫  
 夫レ此ノ如キ貨幣ノ鑄造アルハ其損害素ヨリ免  
 ル可ラスト虽モ尚一層之ヨリ甚シキモアリ斯  
 ク銀貨ノ低價ナラシメシカ為メニ忽テ銀山ノ利  
 ヲ亡フノ害大ナルハ蓋シ測量シ難カル可シ然  
 然トモ今日ト虽氏尚此ノ弊策ヲ療シ得サルノ時ニ  
 ハアラサシナリ

米利堅合衆國ニ於テ金銀估價問題ニ関スル立法  
 ノ論議ハ其理則ノ源理ヲ搜究探定スルニ付テ自  
 他各國ニ比スレハ遠ク及ハスト云フモ可ナリ其  
 之ヲ議定スルノ踪跡ヲ窺フニ際子皆ナ一時救急  
 ノ策ニ出テ且歐洲ノ制度ヨリ援引シ来ルル允常  
 ノ章句ニ過キサレナリ則テ實際經驗上ヨリ之ヲ  
 明ニス合衆國カ紙幣ヲ以テ流通貨幣ノ基トナス  
 ノ間ハ合衆國ニシテ自ラ向來ノ為メニ此等議定  
 ノ實地ノ成果如何ヲ判断シ能ハサルナリ然リト  
 虽氏若シ合衆國カ早晚必ス正金主用ニ回復セヤ  
 ル可ラサルモノトセハ今日ノ形状ハ乃テ合衆國

カ此ノ目的ノ為メニ自ラ大障碍ヲ造為セシモノ  
 ナリ何トナレハ自ラ銀貨ヲ廢棄シタレハナリ自  
 ラ金銀ノ比例ヲ下抵セシメタレハナリ且改羅巴  
 ニ於テ顯出シタル銀貨廢止ノ思想ヲシテ自ラ助  
 ケテ愈々之ヲ堅牢ナラシメタレハナリ若シ今米  
 国カ其届メル銀ノ貯蓄ヲシテ妄リニ之ヲ輸出セ  
 ス之ヲ内地ニ保存セシナハ正金流通ノ回復ハ則  
 此ノ論ノ始メニ於テ開陳セシ如ク今日ノ形状ヲ  
 以テセハ其之ヲ仕遂クルハ甚覺東ナクシテ却テ  
 全局ノ貿易ニ影響ヲ起シ内国ノ物價ヲ騰ビ内国

ノ事業ヲ損フ可シト虽氏意外ニ容易ニ且ツ日ヲ  
 短フシテ之ヲ遂ケ行フコトヲ得ヘキナリ頃口セル  
 マン氏アリ方今ノ半鷹貨（即チ五）ノ包含セル金純  
 分百拾六ケレトシテ大英國ノウエレトシ貨ノ  
 包含セル金純分百拾三ケレトシニ減シ且此半鷹  
 貨ヲ五分シテ五弗トナサントノ議ヲ合衆国上院  
 ニ呈セリ抑今斯ル改革ヲ做スニ當テハ方今ノ一  
 弗貨ニ百分ノ貳ト四分ノ三ヲ附加スルカ故ニ隨  
 テ米國ニ於テ其貨幣ノ計算ニモ変更ヲ要ス可シ  
 ト虽氏貨幣改鑄ニ関シテハ別ニ困難ノコトアラサ



ル可シロ合衆国ニテハ其大蔵省或ハ銀行ニ保有  
 セル貨幣貯蔵ヲ除リノ外ハ一<sup>所</sup>金銀ノ流通中ニ  
 在ルモノナシ故ニ又一<sup>片</sup>金貨ノ改鑄ヲモ要セザ  
 ルナリ夫レ然リ造幣寮ハ其古貨ヲ鑄造セシト同  
 様ノ手續ニテ前陳ノ貨幣新鑄ヲ為スヲ以テ宜ト  
 ス其場合ニ於テハ印度及ヒ英國ニ勸メテ用ヒレ  
 メントスル所ノ紙銀分三百五十ゲレ<sup>ト</sup>ハ八分  
 ノ五ヲ包含セル四<sup>口</sup>ルリレ<sup>ク</sup>銀貨ハ米國ノ新銀  
 幣ト同様ナル可シ之ニ依テ之ヲ觀ルニ此機ニ乘  
 シ米國カ其貨幣制度ヲシテ英國及ヒ印度ノ制ニ

倣ハシメハ其益ヤ最モ大ニシ且斯ル期會ハ再ヒ  
 得難キ所ノモノナル可シ然<sup>レ</sup>而シテ若ヒ米國カ  
 斯ノ如キ法方ニ藉リテ其正金流通ニ回復スル  
 ヲ得テ且自他萬國カ其貨幣ノ估價ヲ同一ニスル  
 トニ同議セハ將來金銀何レヲ問ハス其一方ニ偏  
 スルノ濫出ハハ絶テ無キニ至リ然テ其天然ノ條  
 理ニ歸着スルヤ疑ハサルナリ

(注)右ノ如ク鑄幣制度ヲ同一ニスルト虽モ其  
 貨幣ヲシテ互ニ<sup>ニ</sup>法貨ノ通用タ<sup>ラ</sup>シムルヲ  
 要セス○米國ノ新五<sup>分</sup>幣或ハ新鑄セント

欲スル所ノ銀貨ノ如キハ則テ之ヲ英國内ニ流通セシムルモ妨ケナカル可シ然レモ其法貨トシテ之ヲ通用セシムヘカラサルナリ若又貿易ノ平均ヲ失フニ因テ其貨幣カ英國内ニ止マルトアラハ之ヲ改鑄スルモ可ナリ若又偶然ニ輸入シ来ルモノアラハ之ヲ再ヒ彼レニ輸出スルトヲ得可シ是故ニ此ノ法貨ノ制度設ゲアルニ於テハ右ノ關係ヲシテ適宜ノ統轄ニ歸セシメ其計策上ニ於ケルモ又夕旅客ノ為メモ決テ

其復益ヲ妨クルト勿ル可シ

魯西亜、伊太利、澳太利亜ノ三国、如キハ公通銀貨ヲ維持スルニ於テ最モ緊要ノ關係アリ何トナレハ此ノ三国ノ其公通銀貨ヲ維持スルニ於テハ當ニ裁層カ速カニ其正金通用ニ回復スルヲ得ル而已ナラス是等ノ国ニハ假令巨量ニアラサルモ裁許カ銀所有者ナルナレハナリ就中澳太利亜政府及其国立銀行ノ如キハ銀ヲ保有セリ而シテ該國英國及其他ノ諸債主ニ其国債ヲ銀貨ニテ償却スルノ約束アルカ故ニ下落シタル銀貨(此点ノ如キ

ハ英國カ銀價ヲ基キシテ他各國ニ借付ヲ為スニ  
 臨ミ宜シク注意セサル可ラサル所ノ歎條ナリヲ  
 以テ拂フコトヲ得ヘシト虽モ恐ラクハ事整ニ至  
 ラス却テ不信ト混雜トヲ増殖スルコトナル可シ  
 之レニ依テ之ヲ考フルニ到底此ノ問題ヲ一決ス  
 ルニ於テ爰ニ假定セシ所ノ方法ニ藉テハ總テ此  
 等ノ國ニハ甘レテ之レヲ満足スヘキハ期シテ疑  
 ハサル所ナリ

然ル所ハ若シ其萬國會議ヲ開クノ際我政府ハ日  
 コウ如何ナル地位ヲ占ント欲スルヤ前ニ記セシ如ク  
 英國ハ純粹ナル金位立法ヲ維持スル能ハス又重  
 ニ印度ノ便利ニ管シ金銀位定立ヲ取用セントラ他  
 國ニ推薦スル能ハス且金銀ノ平均ニ關係スル以上  
 ハ此事行ハレ難ク又維持ス可カラス何者他國ニ於  
 テ之ヲ乖理ノトトナシ且現實ニ於テモ亦夕啗笑ノ  
 トタルヲ以テ或ハ此事ニ付テ任意不良ノ評ヲ奉  
 スベキニ管セス從令日耳曼ニ於テ再々金銀ヲ兼  
 用スルモ之カ相伴トシテ英國ノ此法則ヲ共ニセサル  
 以上ハ金銀ノ權衡ハ依然トシテ變易ナカルヘシ  
 我政府ノ大困難ハ國ノ慣習ニヨリ事ヲ措置シ且

斯ル當然ノ方法ヲ嫌フノ徒アリテ強暴ノ抵抗ヲ  
ナスニ在リ故ニ我政府ハ實際ノ利害ノ當ニ取舍スヘ  
キ者ハ之ヲ英國人民ノ公論ニ質サンタメ且金銀ノ規  
則(即チ金銀價ノ高低及ヒ之レガタメ債主ニ係ルベキ  
横害ノ論理)ニ就テ我金位家ノ異見ヲ折制センガタメ  
右等ノ事實ト其關係ノ事トヲ公明ニスルヲ務メサ  
ル可カラス蓋シ現今相場ノ高低ハ概テ三種ノ法ノ轢  
軌ニ根ス曰金位定立曰金銀位定立曰銀位定立是ナリ  
且其高低ハ亦タ英國及ヒ印度ニ於テ其中間ニアル大  
陸ノ定位法ヲ弄スルヨリ起ルコノ理ヲ了解スル者  
ハ若シ將來金銀ノ法則同一ニ歸セハ必ス其轢軌ノ  
消止スベキヲ疑ハサルベシ是故ニ縱令債主ニ係ル  
ベキ横害ノ説ヲメ果シテ真ナラシムルモ之レカ為ソ

巨大ノ力ヲ費ヤスニ足ラサルベシ或ハ萬國ノ公論ヲ  
以テ大ニ其説ヲ潤色スルヲアラン況ヤ其説タル前ニ  
陳スル如ク論理實際ノ二者ニ於テ真ナラザルニ於テ  
ヲヤ貸借ノ一ハ通貨ヲ以テ完結スルニハアラス一種ノ  
價格交換法ヲ以テナスモノナレバ其通貨ニ關係スル  
所口左ノ一事ニ過キズ曰交換ノ價格ハ百般ノ勞場ヲ  
活潑ニシテ人間物産ノ消長及ヒ一般ノ安全ヲ進歩  
スベキ金錢ノ多寡ヲ以テ本トス若シ我政府及ヒ我  
真ノ經濟家カ此ノ貸借ノ真理ヲ平易信正ニ了得ス  
ルニ至ラバ夫ノ虚説ハ地ヲ拂テ消散スベシ  
然レ氏英國ニ於テ銀ヲ嫌忌スル一種ノ經濟家ハ尚  
ホ其論ヲ逞フスベシト云氏亦タ俊秀ノ人ニハアラザ  
ルナリ到底英國ニ於テ此點ニ固着セサル一人ノ人物アリ

即于現今ノ大宰相「デスライリー」氏是ナリ同氏カ于  
八百七十三年十一月十九日「グラスゴ」ノ大學校ノ學頭  
ニ任セラシ氏其論題ノ一トシテ金錢ノ一ヲ撰ミタ  
リ今其演述ヲ抄出シテ此ニ再述スルモ亦タ裨益  
ナシトセス即于左ノ一段ハ同氏カ饗應ノ席ニ於テ  
演述セシモノナリ

曩ニ金錢ノ大變動一タロ起リ今ニ至テ高業ノ  
大害トナルモノ少ナカラス此變動ノ起ルハ歐洲各  
國政府ニ於テ價格ノ本位ニ関シ大變革ヲ行フカ  
タソニシテ卿等ノ明知スル所ナリ抑方今ノ形  
勢ニ至リシハ多クハ大博覽會ノ時ニ於テ開席  
シタル事務官ニ出ツ該事務官カ世界ノ貨幣ヲ  
齊一ニスルノ目的ハ世界ノ人民ニ大恩ヲ施スノ義

舉ニシテ若シ其目的ヲ達スルヲ得ハ恐クハ大害ナ  
カリシナラン然レ氏余意ニ其成功ニ至ルハ甚ク難ク  
リシナルベシ何者該事務官ハ此主旨ヲ措キ却テ他  
ノ旨趣ヲ可トシ断然之ヲ推薦セリ其旨趣左ノ如  
シ曰歐洲各國ノ孰レニ拘ラス齊一ナル金貨本位ノ  
制ヲ創立スルノ時機ヲ失ハザランヲ要ス蓋シ其論  
ノ由来ヲ考フルニ英國貿易ノ隆盛ハ金貨本位ノ  
制ニ由ルトノ説アリテ曾テ歐洲政府ノ政治家及ヒ  
外國ニアル有名ノ經濟家並高賈ノ間ニ流行セシ  
ニ由ルハ余カ知ル所ナリ余意ニ我金貨本位ノ制  
ハ極テ機巧ナルモノナレバ何レノ國ニ拘ラス金貨  
本位ノ制ヲ設立スルノ國ハ之ヲ廢スルニ當リ再三  
ノ省慮ヲ加ヘンヲ要ス然レ氏我貿易隆盛ノ一ヲ

以テ金貨本位ノ制ニテリト云フハ人間最大ノ虚誕  
ト云フベシ我金貨本位ノ制ハ我貿易ヲ盛大ニスル  
ノ源ニ非スシテ却テ其盛大ヨリ生ルノ結果タリ  
國點ヲ加フル者ハ原文  
伊太利書タルヲ知ルニ以テ同シ而シテ我ニ金貨本位ノ制アルハ甚  
タ好シト虽氏今此制ヲ設ケハ敢テ強暴ノ術ヲ以テ  
定立スル能ハス此制ヤ國家ノ商業盛大ナルニ及ビ  
テ一般ノ金属ヲ制取スルヲ得ルヨリ漸ク以テ起立  
スベキモノナリ曩ニ歐洲諸國ニ於テ突然金貨本位  
ノ制ヲ設ント決意シ之ヲ實施セントスルニ當テ我  
輩金銀市場ノ大變動ニ應スルノ用意ヲナザル  
可カラサルヲ明知セリ此大變動ハ一時射利ノ高事  
或ハ回来一定ノ原由ヨリ起ルニ非ス未タ一般ノ充  
分識量セザル所ニシテ且大後難ヲ招クベキ新原

由ヨリ起ルモノナリ而シテ此原由ハ余既ニ卿等ノ  
タメニ聊カ之ヲ述ベタリ先ツ日耳曼ノ事状ヲ舉  
ゲシニ其最モ著シキハ歐洲諸國及ヒ英國ニ於テ  
斯ク金貨本位ヲ要シ特ニ英國ニ於テ大ニ此ニ勉  
勵シタル時ニ際シ日耳曼ハ現實五千万ニテルリン  
グノ金貨ヲ庫中ニ貯藏シタリ是レ金貨ヲ以テ  
銀貨ニ換用スルノ目的タルニ因ル而シテ其貯藏ノ  
金貨五千万ノ外猶ホ流通ノ銀貨八千万アリ今遽  
ニ金貨ヲ以テ銀貨ニ換用スルノ企ヲナザハ平常下  
落ノ銀ハ愈々下落シ而シテ金ノ五千万ハ悉ク日耳  
曼ヲ出ワルニ至ルベキヲ以テ近來日耳曼ニ於テ強  
テ此銀ヲ「カルコタ」一印度ノ輸送セシモ亦夕人作ノ力  
ニ由レリ而シテ之レカ為メ卿等暫クノ間英國排ノ

一葉ノ手形ヲモ買收スル能ハザリキ是等ニ總テ貨  
易製造ノ事業ヲ動搖スベキノ景況ナリ次ニ佛國  
及ヒ米國ノ事狀ヲ舉ケン此二國ハ皆ナ無期通用  
紙幣ヲ流用スルノ國ナレバ佛國ハ此時ニ於テ佛貨  
ニテ九千万ヲテリングラ有セシニ日耳曼ニ於テ銀貨  
ヲ除去スルノ企ヲナシ以テ佛國ヲ動カスノ際平常  
下落ノ銀ヲ有セル佛國ノ地位ハ如何ナリシヤ銀ノ  
佛國ニ入ルニ及ンテ佛國ハ必ス大困難ノ地ニ立テ  
其損益ヲ顧ミス處ニ金貨鑄造ノ法ヲ確立スベキ  
強暴ノ策ニ出シナラン蓋シ高業ノ大波瀾相場ノ  
大高低ハ必ス此類ノ事情ヨリ生スルモノナレハ此  
類ノ事件ハ必ス言辭ヲ云フシ心思ヲ靜ニシ然後  
之ヲ辯論スベキニ余カスル宴會ニ於テ之ヲ辯

セシハ歎スヘキナリ然レモ余意ニ是ボハ卿等ノ  
注意ヲ要スルノ旨趣ナルベシ卿等ハ世界金錢ノ  
規則ニ傾意スルノ貿易家タレハ須テク日耳曼佛  
蘭西ニ於テ金貨本位ノ制ヲ設立セントスルノ舉措  
ニ着目シ急タルヲナカレ而シテ米國ニ於テ亦タ其  
舉措アルヲ見ルヲ遠キニアラサルベシ元來法律  
上ニ於テハ米國ニ於テ金貨本位ノ制アル論ヲ待  
タスト虽氏現今金價下落ノ景況ニ隨テ説ク所ハ  
實ニ其制アルニ非ス又和蘭及ヒスカンヂナウヤ瑞典  
回名州那耳ニ亦タ金貨本位ノ制ヲ設立スルノ意アリ然リ  
而シテ銀ノ夥多ナル諸國ニ於テ之ヲ除去セント謀ル  
時ハ必ス變動ヲ生スベシ此時ニ當リ余カ開陳シ  
タル要旨ニ注目セサル者誰カ目下金錢ノ規則上適

當ノ考量ヲナスヲ得ンヤ余カ今日聊カ右ノ趣旨  
ヲ卿等ニ略陳セシハ他ナシ斯ル會合ノ時ニ於テ備  
サニ卿等ニ演述スルノ甚夕難キニ由ルナリ卿等  
須ラク之ヲ了解スベシ

右演說ノ辭句中此篇ノ記者カ伊太利書體ヲ用エル者  
ハ演說者カ尚ホ其說ニ光耀ヲ與ヘ又他說ノ光耀ヲ容  
レント欲スルノ意志ヲ示スニ最モ有用ノ者タリ而シテ  
此政治家カ秩金位定立ノ制ハ其繁盛ノ成果ニシテ其  
原由ニ非サルノ旨趣ヲ述ルニ當リ務メテ委曲ノ言辭  
ヲ用ヒシハ是レ其妙處ナリ蓋シ其意謂ラク若シ自カ  
ラ黨論ノ敵手トナリ其說ク所口甚モ黨論ノ語氣ヲ  
顯ハスアラハ直チニ我レニ對シテ罵々スル者アルベ  
ト然リハ是レ固ヨリ黨派上ノ論ニアラス一層上等ノ

地位ニ移シテ之ヲ商量セサル可カラズ試ニ千八百七十  
三年十一月「ヂステイリ」氏ク「變革ヲナスニ當リ再ニ  
ノ省慮ヲ加ヘンヲ要スト」說キシハ「銀價ハ猶ホ五十九  
ペンス半ニシテ相當ノ相場ナリシカ其後二十五ヶ月内ニ  
下落シテ五十三ペンス」(即チ凡ノ百分ノ十二ダケノ下落)ニ至  
リシヲ思ハバ「同氏ハ當時既ニ是等ノ動搖ヲ預言シタ  
リ則チ同氏ハ培ク一般人民ヲ獎勵シテ此事ニ強セ  
シムベキ道理ヲ有スルニ非スヤ而シテ印度ノ銀行高  
賈及ヒ退隱ノ受給人等カ其智カラ失ヒ印度ノ利  
害ノ英國ヲ鼓動セシヨリ以來虛誕ノ論說或ハ一國內  
ニ於テ僅々六十年ヲ出サル實地ノ慣習ノミニ據テ  
罵々スル者變シテ正理討論ノ聲トナル是亦好機  
會ニ非スヤ然レ氏其旨趣タル余カ前述ヒシ如ク一



般人民ノ得テ決定スヘキモノニ非ス又民意ニ適合ス  
ベキモノニ非ス必ヤ識者ニシテ其大ニ肝要ナルヲ洞  
知スベシ而シテ若シ「チスライリー」氏カ此重大ノ一機會ニ  
乗シ其意見ヲ以テ英國ノ沈思者ヲ動かサント決定  
スルノ際彼等能ク其全體ノ趣旨ニ十分ノ扶助ヲ與  
フルト否トハ大ニ彼等々智識ノ關係スル所ナリ而シテ  
余ハ其趣旨ヲ扶助スルノ目的ナレハ此篇載スル所ノ者幸  
ニ金貨本位ノ聖守家ヲ喚醒シ且彼オヲノ我政府ノ此  
際發議セントスル(又宜シク發議スベキ)策ニ恭遵セシ  
ル「フラン」ヲ冀望ス

英國ハ此萬國會議ヲ起スヨリ一層高上ノ策ニ出テ印  
度ニ限ラス英國並ニ支配地及ヒ世界一般ノ危害ヲ  
醸スベシ「」ヲナス能ハス今若シ一ノ疑事家アリテ

此旨趣ヲ重大ナルヲ疑ヒ前ニ述ヘタル變動困難ノ論  
ヲ非トセン耶貿易ノ歴史上載スル所ノ政治及ヒ社會  
ノ安全ト其判然ノ關係ヲ有スルモノナリ或ハ否者アリ  
テ其狀態以テ將來ノ事勢ヲ察スルニ足ル在昔羅馬ニ  
於テ財貨ヲ領收スルノ日ヨリ中古西班牙ヨリ巨量ノ金銀  
貨財ヲ歐洲ニ運輸セシ時ニ至テ千五百年ヲ消過セ  
リ而シテ其世界ノ開化ニ効驗アル載テ史上ニアリ次テ  
史傳上ノ大事件ハ爾末三百五十年ニシテ「カリフォルニア」  
及ヒ「オーストラリア」國ニ於テ金礦發見ノ「」ニシテ今ヲ  
距ル三十年間貿易ノ繁盛(開化進歩ヲ含蓄ス)切アル  
ハ現ニ余輩ノ目ニアリ而シテ亦タ他ノ「カリフォルニア」ヲ  
發見セント云フハ無用ノ論ナリ世界金礦ノ搜索ハ  
既ニ到ラサル所ナリ從令他ノ金礦ノ存スル「」モ或

藏書

ハ極北ノ氷國ニ入り或ハ炎毒ノ熱帶ニアルヲ以テ歐人  
ハ之ニ近シクヲ得ス且之ニ反シテ金産出ハ以前ニ比  
スレハ其半ヲ減セリ

左スレハ現今切迫ノ勢アル銀貨廢棄ノ事ハ亦同シク  
重大ニシテ其方向ヲ反スル史傳上未曾有ノ事變タル  
ヲ知ルベシ若シ一ノ國アリテ金銀ノ權衡ヲ顛覆スル  
ニ當リ萬國ノ公議ヲ以テ之ヲ恢復セサルハ是レ現ニ  
二百年未墨積シタル金銀ヨリ過多ノ數量ヲ沒滅ス  
ルニ同シキノミナラス將來貿易ノ利源タル銀ノ供給ア  
ルモ亦タ無用ニ厲シ而シテ從來増殖ノ人口ト將來ノ増  
殖トニヨリ其減縮ノ比例ハ倍々巨大ニ至ルベシ  
故ニ金銀ノ事ニ就キ尚ホ況ク史傳ノ形狀ヲ引説スル  
モ亦タ不可ナルナルベシ而シテ今此ニ論定スベキモ

ハ開化ノ大関目及ヒ補翼タル通高職業ノ將來ノ盛  
衰ヲ舉テ一ニ之ヲ金位定立論家ニ付シ彼ホカ其事  
状ヲ明言セズシテ未來ノ事運ノ萬一ヲ僥倖スルニ  
任スヘキカ或ハ較輩實際ノ事状ヲ確言シ且須要ノ  
方法ヲ詳明ニ併セテ一層ノ佳觀ヲ得ベキ十分ノ心  
カアルカ此二者是レナリ

此二者ヲ決スルニハ沈思者ノ頭腦心思ヲ勞シ且ツ管  
見卑説ハ論理事實ニ於テ真ナラサルノ証アルニ拘  
ラス之レヲ天設ノ妙境及ヒ人事ノ真理ト共ニ論セサル  
ベカラズ

金銀ノ世界ニ存在シ或ハ取用サレテ人間社會ノ交際ニ於  
テ第一ノ補翼トナルハ固ト天設ニ出ルカ或ハ他ノ人理ニ  
出ルカ二者判然ナリ難シト岳氏到底金銀ハ之ノ金錢ト

ナスベキ物體トシテ天ノ備設スル者タルヲ免カス而シテ  
史傳アリシヨリ以來金銀ニ関スル詩人ノ議論少ナク  
ラス且他物ヲ以テ金銀ニ換用セント謀ル者モ亦少ナク  
ラスト孟氏今ニ至マテ金銀ハ尚ホ卓絶ノ品タルヲ失ハス  
又天ノ此二個ノ物體ヲ以テ人類ニ賜與スルニ當リ其  
一部ハ順序ヲ正シテ徐ニ之ヲ與ヘ他ノ一部ハ其多  
少ト時限トヲ定メズシテ之ヲ給與セシテ舉テ人間社  
會興隆ノ歴史ニアリ

自然ノナス所口斯ク算法ト一致セサルカ故ニ金位單  
立論者ハ唯一物體ヲ用エヘキヲ論ス是レ天理ハ純粹  
ナル算法ノ規則ニアラスシテ無窮ノ變化ト一定ノ算  
法トヲ合一シタルモノタルヲ知ラザルニ由ル(此ノ合一ハ則チ  
天ノ真空涯ニシテ且不朽ノ理ナリ)若シ天ノ嬰兒ヲ生

スル毎ニ世界金融ノタメ人々ノ寄附トシテ金一銀十五  
半ノ割ニシテ各國商品ノ價直ト相當ナル比例ノ量目  
ヲ各兒ニ付與スヘキ明瞭ノ方法ヲ設ケハ論者ハ之ヲ  
満足スベキヤ必ス他ノ道理ヲ求メ以テ此天與ハ方法及  
ヒ其他ニ抵拒スルアルベシ

其議論ノ旨趣ヲ考フルニ金錢ノト云理トニ於テ貴重  
スベキ狀アル算法上ノ調理ヲナサント欲シテ大ニ其事  
實ヲ誤リ且天地自然ノ道理ニ暗キヲ以テ其要領ヲ  
得ル能ハサル疑ヲ容レズ而シテ此不能ヲ以テ金位定  
立ヲ論スル者ハ恰モ烟筒頭ノ礫化石ヲ頻求ル童兒  
ニ異ナラス是レ全局ノ議論ニ因テ詳明ナルベシ初メ金  
ノ供給多キニ當リ金貨ヲ廢セント謀ル者アリ曰ク金  
ノ供給ハ漸ク多ク銀ノ供給ハ漸ク少ナルヘト爾後

米國ノ新礦山ノ發見ヨリ銀ノ供給前日ニ増加シ且方  
今其供給増々増加シ殆ント前日金ノ供給ノ多キト相對  
セントスルノ際金位定立論家ハ如何ナル説ヲ唱フルヤ彼  
ト曩ニ金ノ過剩ナルヲ以テ初ニ金貨廢止ノ説ヲ發  
シ次テ又全ク同一ノ理ニヨリ掲リ金ノミ金銀ノ物體タ  
ルベシト論セシク銀ノ供給アルハ曾テ知ラサルカ如クスル  
ノミナラス實ニ銀ノ無用ヲ指示センヲ勉メ終ニ世界ノ  
銀量ハ世ノ知ラ所ノ如ク多量ナラスト云々甚クシキハ  
現今銀ノ供給ノ多キヲ否トスルニ至ル其實際利然ノ  
事實ヲ排斥スル此極ニ至ルモ彼ト尚ホ陽ニ金ノミヲ推  
薦スルモノハ其價格ノ貴キニヨリ偶々烟筒頭ノ礫化石  
タルカ故ナリ

若シ斯ク如クニテ猶ホ單一ノ本位ヲ議スルモ若シ金銀  
ヲノ萬國交通ノ陪從タルニ止ラサラシメハ一物體ノ用ニ  
天然ノ限界アルヲ如何センヤ

若シ金ノミヲ以テ金銀タルベキ物體トセバ之レヲ約定踐  
行ノ媒助トシテ一ポンド以下「シリング」ニ「一」等數位ノ貨幣  
ニ細分セサル可カラズ何者曲直ノ爭訟ハ損益ノ大小ニ  
關セサレハナリ然レハ金ノ本質固ヨリ以テ「シリング」貨  
幣ヲモ製スル能ハス而シテ假令ハ「シリング」ニ當ル少量ノ  
金ヲ以テ一層大ナル貨幣ヲ製センカタメ下等ノ金屬  
ヲ混合スルノ説アリト雖モ是レ金銀上ノ理ニ於テ許  
サレ所ナリ故ニ天ノ銀ノ備設スルハ低小ノ價位ニ至  
テハ之ヲ分割シテ十分ノ價位アル約定ノ媒助トシ得  
ベキガタメニレテ此理ヤ金位定立論家ノ障礙タリ彼等  
ハ何ニ故ニ其然ル可キヤヲ知ラス加フルニ英國ニ於テ僅用

ノ制限ヲ立テ銅貨ヲモ通用スルノアルニヨリ事理ノ錯  
雜ニ苦ミ因テ問フ何故ニ金錢トナスベキ二個又ハ三個ノ  
物體ヲ要スルヤ若シ二個三個ヲ用エルヲ得ハ亦タ宜シク  
四個五個ヲ用エルヲ得ヘシ一而シテ此ニアラチテト稱ス  
ル金錢ニ相當スベキ金屬アルヲ思ヘバ事理ノ錯雜愈大  
ナリ蓋シアラチニユルノ用ヲナサハル所以ノ理ハ嘗テ魯西  
亞ノ試驗ニヨリテ顯ハル如ク一種特異ノモノタリ其故  
ハ此物體ノ天然金錢ノ用ニ適スルト否トハ假令ハ供給十  
分ニシテ其順次ヲ乱サス且適宜ノ場所ニ散在ス等  
緊要ノ性質ノ有無ニテリ今此物體ハ其性質アルナシ  
然レ氏他ノ諸金屬又ハ品物ヲ以テ金錢トナスヘキノ論  
ハ其實一種ノ算法ヲ目途トシテ下ハ「スージンク」  
ト上ハ「軍大」額ニ至マテ價位ノ等級ハ總テ一種類ノ金屬

又ハ品物ヲ用ヒシテ望ムガ如ク且單一ノ原位置ヲ設クルト無限  
ノ種類ヲ用ユト二者ノ取舍ニ迷フノ意アリ是レ畢竟人ノ  
真成ニ生活シ實際ニ存在スルノ本ハ算法上數量ノ多寡  
ト其平均ヲ得ントシテ生スル無窮ノ變化ト交互轉軌ノ  
中ニ於テ自然ニ存在スル増減ノ節度ニ在ルヲ知サル  
ノ論ナリ而シテ此轉軌中ニ存在スル金銀ノ節度ハ同  
時ニ在テ必要十分ノモノタリ故ニ天法又ハ實驗ニ就  
論スルモ金銀ハ金錢ノ用ヲ生シ又價格ノ証トナスニ天與物タル  
ハ普通ノ條理ヲ以テ証スベキノミナラス亦タ其一種ノ分  
析術ニ器械術ニ及ヒ其他ニ於テ顯ハタル性質ニ就  
テ其要領ヲ枚舉シ以テ之ヲ証スルヲ得ヘシ而シテ証  
明ノ目的ニ適スル者ハ此性質ニ過キタルハナシ  
金銀ヲ以テ齊シク金屬トシテ論スレバ其品格ノ不同アル

大 歳 首

ニヨリ領格ヲ差違ハ第一ニ天法ニ出ツルト云テ可ナラ  
ン天法トハ人類ヨリ高等ノ活物アリテ一定ノ法トシテ  
許ス所ノモノナリ然レ氏天法ノ外實驗ナル者第二ノ  
天法即チ第一ノ人法トシテ上古以來興ナルナリ且此混  
同法即チ人法アルモ若シ金銀ノ權衡少シク變化ヲ  
生スルノ際其比例ノ價格ニ動搖アルノ疑ヒアラバ  
第三法即チ政法ヲ以テ全ク之ヲ除却ス斯ル政法ハ  
亦タ之ヲ人間社會ノ天法ト謂フベシ政法ノ權威ノ如  
何ハ余既ニ之ヲ略述セシガ若シ金銀ノ平均ヲ失ハ  
曾テ日耳曼法ヨリ起リシ如クカク細小ニシテ其銀  
價ノ下落ニ効驗アルカク巨大ナル氏ハ斯ル平均ヲ  
維持<sup>アセ</sup>シガタメ政法又ハ萬國ノ公議ヲ以テ其變化  
ニ關スベキ鎖細ノ口實タリ氏嚴ニ之ヲ除去セザル可

カラス

此ノ如ク論辯スルモノハ敢テ現今ノ世論ニ拘泥シ所  
謂實際論ヲナシ以テ金貨本位論家ノ端ニナル意見  
ヲ壓倒センヲ要スルノ故ニ非ス前段ノ考量ヲ以テ夫  
ノ高尚ニシテ唯算法ニ偏倚スルノ意見將ニ今日及ヒ  
後未天與ノ銀ノ利益ヲ消滅セントスルニ比スレハ實  
ニ超越スアルカ如ク且右ノ場合アルニヨリ之レト共ニ  
人類ノ安全ヲメ其存亡ヲ制スル者ノ掌握ヲ脱セシメ  
ンヲ要スルカ故ナリ  
然レ氏余ハ此論ノ英國ノ行ハ難ニ知ル何者余輩  
ハ金貨本位ノ制ニ志タル僻見陋習ノ間ニアルヲ以テ  
ナリ而シテ若シ英國一般ノ民意ハ天然公正ノ基礎ニ  
ヨリ金銀ヲ兼用スルヲ好マハ此篇載スル所ノ事實

大義首

及ニ議論ヲ一般ノ畜量スル所トナルベキモ尚ホ實  
地ノ一邊ニ習熟ニ且從來流行ノ僻論ヲ持シテ致テ  
拮据ニ難キ強忍ノ人物多キヲ如何センヤ

此僻論ハ他公認論ノ類論アルニ約テ未ダ後害ノ  
明兆アラサルニヨリ僥倖ヲ今日ニ得タリト虽氏幸ニ  
方今印度ノ定位法ノ論題ヲ以テ突然銀價ノ下落ス  
ルニ親炙スルヲ得タリ是レ實ニ人民ヲ誘導シテ將  
来ノ事状ヲ考慮セシムルノ好機會ナリ而シテ將來  
ノ景況ヲ思フニ約定踐行ノ媒助ヲ減却シ職此ヲ  
壓策シ物價ヲ低下シ且一定ノ約定ヲ結ヒタル債主負  
債主ノ身代ヲ破リ収税ヲ力ヲ減縮シ終ニ開化ノ進歩  
ヲ止ムルホ免カレ難キノ憂アリテ大ナル氏ハ此ニ列記  
シタル度ニ至リ或ハ小ナル氏ハ其幾分ノ度ニ至ルベシ

此二者ヲ計畫ニ然後計算上ノ金位定立論ハ縱令論  
理ト實際トニ於テ虚妄ナラサルモ尚ホ其取ルニ足ラ  
サルヲ知ルルニ此真理ヲ解スル氏ハ金錢上ニ関シ  
乍下一層堅確闊大ノ權策措置ヲ生スルニ至ランニ  
十年來經濟家ハ此要領ノミナラス金錢上普遍ノ  
ニ付テ激烈ノ議論ヲ起シタリ人民亦タ互ニ其  
目的ヲ異ニ朝ニ新聞紙上ニ於テ金錢ノ箇条ヲ  
讀ミ夕ニ理學社會ノ議論ヲ聞クニ至マテ民心ハ其  
方向ニ迷ヒ其取舍ヲ決スル能ハス斯ル混乱ノ際ニ其  
紛議ニ拘ラズ金銀ノ技術顛覆ノ時ニ至ル迄貿易ノ  
繁榮ヲ永續シタハ獨リ我英國ノミナリキ然レ氏日  
耳曼ハ其權衡ヲ顛覆セシ以來我貿易衰微ヲ極ク  
故ニ其條議ニ我國ニ及ヘリ而シテ其事タル精細

微妙極ラク之ニ着目セサル可ラス何者其事由ハ  
鎖細ノ状アリテ遷ニ銀價下落ノ大効驗ヲ生ズルハ  
我輩ノ目撃スル所ナリ故ニ此時ニ於テ金局ノ主  
旨ヲ辯明スルハ金錢ノ一ニ於テ或ハ一般平和ノ結果  
ヲ得ルヲアラン

若シ此篇ニ告知シタル如ク<sup>此平和</sup>定位ノ法ヲ十分ニ恢復シ以テ  
之ヲ確定トシテ金位定立法ヲ施行セハ人類ニ對シ  
テ大暴惡ノ罪ヲ侵スト云フベシ其害ヤ獨リカリタル  
ニヤ<sup>此</sup>及ヒ「オーストラリア」國ニアル天賜金ノ利益ヲ抑テ  
其原量ノ百分ノ四十ヲ増加シ及ヒ旺盛ノ貿易ヲ四倍  
シタル利益モ消止シテ田時ノ地位ニ復スベキノミナ  
ラス其損減猶大ニ之ニ超過スルアラン將來天與ノ  
銀ハ人類ヲ利益スルナク且人民ノ幸福トナラス却テ

其害害トナルベシ蓋シ貿易開化ノ進步ハ時ニ緩急ナ  
リト雖氏金銀ノ助ケニヨリ前進スベキ殆ント無限ノ地ヲ  
有セリ且理財上ノ道德家アルニ拘ラハ依然トシテ前進  
スヘシ然レ氏斯ノ如キ社會ノ大罪惡ニヨリ兩個助力者  
ノ一ノ其進步ト離隔シ將來之ヲ助クルヲ得ナシ使  
ハルハ是レ事ノ順序條理ヲ輕視スルノ理ニシテ怡モ兩  
人ノ一ヲ恣殺シ併テ其子孫ニ及ホスニ異ナラス  
此論旨ノ何邊ニアルヤハ次ノ論談ニヨリテ知ルベシ曰クハ  
百四十八年以降世界ノ財富ハ増加シタル金ハ若シ貿易  
ニ若干ノ進歩ヲ與ヘシナラハ新産ノ銀ト雖凡亦夕同一  
ノ効驗ヲ顯ハスベキ近來唱ル所ノ銀貨廢棄ノ危策  
ノタメ其効驗ヲ顯ハス能ハサリキ是故ニ高業モ一景氣  
ニ興シ英國其他ノ貿易モ大ニ衰微シタリ且若シ日耳



西 銀ノ權衡ヲ顛覆センヨリ僅々三ヶ月ノ間銀  
價ノ新ク迄急遽ニ下落スルヲ見ハ今日ノ衰微僅ニ  
將來ノ事變ノ前兆ナルニ過キスレテ後日金位定立法、  
漸ク蔓延シテ其勢益々增長スルニ當テ其効驗  
果シテ如何ソヤ

然レ氏幸ニシテ此事ヲ明知スルノ識者アテテ天賜新  
産ノ銀ニ故障ナク貿易開化ノ補助トシテ用ヒラル、  
氏ハ貿易上今日ノ衰微ト將來ノ患害ヲ轉シテ千八  
百四十八年ヨリ七十二年ニ至ル數年ニ等シキ進歩ノ  
ナリ且一層整正ノ規則ヲ得テ金銀ノ供給ハ共ニ人  
類ノ安寧殷富及ヒ開化上ニ於テ一層ノ利益ヲ生シ之  
ヲメ速ニ盛大ナラシムベキハ一憂ノ疑ヲ容レズ是レ此  
ノ場合ノ處置ノ曲直ヲ付テ後世其人ニ禍福ヲ與ス

管セズ到底各人利害ト直接ノ關係ヲ有スル  
者ナレハ須ラク高量セザレ可カラズ

此篇ヲ結末トシテ茲ニ前説ヲ再述セン英國自カラ首  
唱トナリ以テ普通定位ノ法ヲ十分ニ恢復スルニ非  
サ、銀價ハ日ヲ逐テ下落シニ三年ヲ出テスレテ  
ス匡救ス可カラサル大損害ヲ生レ金銀ノ一殆ント修  
整シガタキニ至ラン



